

第九章 消防

◎消防組規則

(明治二十七年二月十日)
勅令第十五號

[改正]
(勅令第三〇八年)

(同 四年)

(勅令第一二八號)

(大正二年)

(勅令第二九六號)

(同 三年)

(勅令第三五五號)

(同 一〇年)

(勅令第二五三號)

- 第一條 府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ火災ノ警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得
- 第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
- 組頭及小頭ハ警察部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス
- 消防手ハ警察署長之ヲ命免ス
- 第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ従事ス
- 小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス
- 第五條 府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得
- 第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス

第三輯 第一編 警察 第九章 消防

消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ火災ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭若クハ小頭之ヲ指揮ヲ爲スコトヲ得

第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警戒ニ應接スヘシ

危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得

第八條 警察部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

消防組ハ火災警戒ノ爲メニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但警察部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命ジタル場合ハ此ノ限ニアラス

第九條 消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得

第十一條 消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會ニ諮問シ府縣知事之ヲ定ム

第十二條 消防組ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム

第三輯 第一編 警察 第九章 消防

前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘシ

第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔トス

第十四條 (削除)、第十五條 (削除)

第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十七條 府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此ノ規則ノ全部若ハ一部ヲ準用

シ水災ノ警戒防禦ノ爲メ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼テシムルコトヲ得

第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警察部長ノ職務ハ消防部長之ヲ行フ

第十九條 此ノ規則中市ニ關スル規定ハ市町村組合並北海道及沖繩

縣ノ區ニ、町村ニ關スル規定ハ町村組合ニ之ヲ準用ス

第二十條 第七條ヲ除ク外此ノ規則ハ警視廳官制又ハ特設消防署規

程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニハ之ヲ適用セス

消防組點檢規則

(明治三十三年五月二十三日)

(改正)

(內務省訓令第十六號)

應府縣 (東京府ヲ除ク)

第一條 消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢、動作及機械器具其ノ他攜帶品

ノ操法、分解構成、保存ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第二條 點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢

官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ

代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭ヲ指揮者トス

第三條 消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡查點檢規則ヲ準用ス

第四條 指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘員アルトキハ同左翼ニ列

シ尙ホ餘員アルトキハ後列ノ中央ニ若シ餘員アルトキハ之ヲ著用スヘシ

第五條 點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ著用スヘシ

但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ細ヲ頭ニ掛ケ之ヲ背部ニ負フヘシ

第六條 點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ノ際及演習ノ際之ヲ行フ

モノトス

當番員出務ノ際ニ於ケル點檢ニ付テハ機械ノ分解構造ニ關スル檢査、現

場引上ノ際ニ在テハ動作及機械器具攜帶品ノ操法、分解構成、保存ノ檢

査ヲ省略スルモノトス但シ現場引上ノ際ニハ機械器具、被服其ノ他攜帶

品破損ノ有無ヲ特ニ嚴重檢査スヘシ

第七條 機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌ノ後修繕シタルモノハ檢

工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ

點檢スヘシ

第八條 嘲謔其ノ他ノ機械ニシテ組立タルモノハ毎年行フヘキ演習ノ内其

ノ一回ニ限リ之ヲ分解シ内部ヲ檢査ヲ行フモノトス

消防組點檢規則

(大正七年三月二十日)

(內務省訓令第十六號)

應府縣

第一條 消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢、動作及機械器具其ノ他攜帶品

ノ操法、分解構成、保存ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第二條 點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢

官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ

第三條 消防手ハ隔日勤務トス但シ消防出張所ニ配置セラレタル消防曹長

ハ毎日勤務タラシムルコトヲ得

消防手ノ勤務時間ハ隔日勤務ノ者ニ在リテハ十四時時間乃至十八時時間トシ

毎日勤務ノ者ニ在リテハ八時時間乃至十二時時間トス

第四條 消防手ノ當番員ニ對シテハ毎日點檢ヲ行ヒ實務及法令ノ應用ニ關

スル事項ヲ訓授又ハ應問スヘシ

第五條 非常召集、水火災地出場及應援區域ニ關スル規定ハ廳府縣長官之

ヲ定ム

第六條 本令施行ノ爲必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定メ内務大臣ニ報告

スヘシ

第七條 本令ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

警視廳消防手配置及勤務規則ハ之ヲ廢止ス

請願ニ依ル消防手配置ニ關スル件

(大正三年八月六日)

(勅令第四百五十七號)

(改正)

(勅令第九號)

(勅令第五十九號)

第一條 判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ハ請願者ノ申請ニ因リ警視總監

又ハ大阪府京都府神奈川縣兵庫縣愛知縣知事ニ於テ必要アリト認ム

ル場所ニ之ヲ配置スルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ配置スル消防手ニ關スル費用ハ請願者之ヲ納

付スヘシ

前項費用ノ額ハ府縣會ノ議決ヲ經テ知事之ヲ定ム

喫煙取締ニ關スル件

(大正九年一月十六日)

(內務省訓令第一號)

應府縣長官宛 (東京府ヲ除ク)

第三條 請願者ノ納付スル費用ハ府縣ノ收入トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

劇場活動寫眞館其ノ他多衆ヲ收容スル娯樂場ニ於テハ喫煙室ノ設ケアルモ

ノ殆ト稀ナル現況ニ有之候處本件ハ設備ノ爲特ニ費用ヲ要スルト業體上

努メテ公衆ノ喫煙ニ便ナラシムルニ依リ因襲ノ久シキ之カ設備ヲ見ルニ

至ラサルモノアルヘク被存候得共近來活動寫眞館等ノ娯樂場到處ニ流行

セルノ狀況ニ伴ヒ觀客充滿ノ盛況ヲ呈シ而カモ當業者ニ於テハ一ニ觀客ノ

多カラムコトヲ欲スルノ念ニ驅ラレ其結果座席ノ如キ空隙ヲ見サルモノ不

少此ノ間ニ處シ公衆中喫煙ヲ縱ニスル者往々有之當ニ危險ナルノミナラス

他人ノ衣袂ニ煙痕ヲ印シ時ニ或ハ喫煙ニ原因シテ火災ヲ發生候事例之レナ

キニアラス火災豫防其ノ他危險防止上相當考慮ヲ要スヘキ義ト存候就テハ

如上興行場ニ關スル必要ノ程度御見計ノ上廳府縣令取締規則ニ於テ又ハ建

設許可ノ際ニ於ケル條件トシテ當業者ニ喫煙室設備ノ義務ヲ命シ其ノ現ニ

設備ナキモノニ對シテハ當業者ヲシテ公衆ニ對シ少クモ興行中喫煙ヲ爲サ

ルノ注意ヲ與ヘシメ警察ノ取締ト一般ノ自衛トニ依リ漸次喫煙ノ弊風ヲ

矯正シ公會場内ニ於ケル良俗ノ調致方御配慮相煩度候

第三輯 第一編 警察 第九章 消防

警
察
第
十
章

檢

視

第十章 検 視

- 變死者検視ノ際解剖方
明治一〇年 布告三號……一
- 官廳内官有工場及船艦等ニ於ケル變死
死傷者検視手續
明治三年 太達一四號……一

第三輯 第一編 警察 第十章 検視

第十章 検視

◎變死者検視ノ際解剖方

(明治十年二月二十二日
太政官布告第二十二號)

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ検事^{検事派出ナキ地方ハ基地方長官}ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルコトヲ得
右布告候事

◎官廳内官有工場及船艦等ニ於ケル變死死傷者検視手續

(明治十二年二月二十五日
太政官達第十四號)

〔官署院使〕府縣

明治十二年三月第十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事
官廳内竝ニ官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察署ヘ報知シ検視ヲ受クヘシ
但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限り處分ヲ了シ警察官ノ検視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

警
察
第
十
一
章

墓
地
、
埋
火
葬

第十一章 墓地、埋火葬

- ◎墓地及埋火葬取締規則 明治一七年太布達三五號……………一
- ◎墓地及埋葬取締規則違背者ニ關スル件 明治一七年 太達八二號……………一
- ◎墓地及埋葬取締規則施行方法細目標準 明治一七年内達乙四〇號……………一
- ◎死産ノ埋、火葬認許證ニ特別番號ヲ附セシムル件 明治三年 内訓二號……………二
- ◎刑死者墓標寫眞等取締ノ件 明治一四年 内令二號……………二

第三輯 第一編 警察 第十一章 墓地、埋火葬

第十一章 墓地、埋火葬

◎墓地及埋火葬取締規則

(明治十七年十月四日
太政官布達第二十五號)

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
- 但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス
- 第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
- 但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲サシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス
- 第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ
- 第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ
- 但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス
- 第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事(縣令)ニ於テ便宜取設ケ(内務卿)ニ届出ヘシ
- 右布達候事

◎墓地及埋葬取締規則違背者ニ關スル件

(明治十七年十月四日
太政官布達第八十二號)

今般第貳拾五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモ

警視廳 府縣
第三輯 第一編 警察 第十一章 墓地、埋火葬

◎墓地及埋葬取締規則施行方法細目標準

ノハ(違警罪)ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

(明治十七年十一月十八日
內務省達乙第百四十號)

(改正) (明治十九年
內達甲第五號)

(大正元年
內達甲第三二號)

警視廳 府縣

- 第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル
- 但已ムコトヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ
- 第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ
- 第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス
- 但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス
- 第四條 墓地ノ周圍墓地ニ非サルニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀塙ヲ存スヘカラサルモノトス
- 但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス
- 第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス
- 第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上

第三輯 第一編 警察 第十一章 墓地、埋火葬

ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ装置ヲナシ且周圍ニ塀
塘ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 擴穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモ
ノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ
届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記ス
ルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ
限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫師ノ死亡届書ヲ添ヘ
テ區長又ハ戶長ノ認可證ヲ乞フヘシ

第十二條 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セン
ト欲スルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認可證ヲ乞フヘシ
妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ區
長又ハ戶長ノ認可證ヲ乞フヘシ

第十三條 變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘ
シ

第十四條 囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ
司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十五條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認可證
ヲ與フヘカラス

第十六條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認可證ヲ一年間保存シ替
察官吏ノ求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十七條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

●死産ノ埋、火葬認可證ニ特別番號ヲ附セシムル件

(明治三十三年六月二十七日
内務省訓令第二十號)

總府縣

墓地及埋葬規則ニ依リ死産ニ關シ埋、火葬認可證ヲ與フルトキハ其順
序ニ從ヒ特別ニ番號ヲ付スヘシ

●刑死者墓標寫眞等取締ノ件

(明治二十四年七月二十七日
内務省令第十一號)

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齢、生死ノ年月日ヲ記入
スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先聖域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス
異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ
得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス
其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二回以上二拾五圓以下ノ罰金若クハ十
一日以上二十五日以下ノ(輕禁錮)ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、勾留、服刑中ノ者若クハ捜査、起訴、
勾留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行
ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ
警視廳長)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必
要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲クル所爲
ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

第三編輯
第二編 衛生

第二編 衛生

- 第一章 傳染病
- 第二章 獸疫
- 第三章 種痘
- 第四章 污物掃除
- 第五章 屠場
- 第六章 飲食物
- 第七章 醫師、藥劑師
- 第八章 產婆、看護婦
- 第九章 鍼術、按摩、口中治療、接骨
- 第十章 一般藥品
- 第十一章 賣藥
- 第十二章 毒物劇物
- 第十三章 阿片、痘苗、血清
- 第十四章 雜則

第 一 章
衛 生

傳 染 病

第二編 衛生

第一章 傳染病

- ◎ 傳染病豫防法 明治三〇年 法律三六號……一
- ◎ 傳染病豫防法施行規則 大正二年 內令二四號……六
- ◎ 傳染病豫防法施行規則實施ニ關スル 注意事項ノ件 大正二年發衛一九五號通牒……一五
- ◎ 傳染病豫防法第二二條ニ關スル件 大正二年衛防三三號通牒……一五
- ◎ 傳染病豫防法施行規則中疑義ノ件 大正二年岡衛一六四號通牒……一六
- ◎ 結核豫防法 大正八年 法律二六號……一六
- ◎ 結核豫防法施行令 大正八年 勅令四五〇號……一七
- ◎ 結核豫防法施行規則 大正八年 內令二〇號……一九
- ◎ 結核豫防法第四條中ノ解釋ニ關スル件 大正二年衛豫二九六號通牒……二〇
- ◎ 結核又ハ「トラホーム」豫防法施行細則 中ノ規定ニ關スル件 大正一〇年衛發二一〇號通牒……二二
- ◎ 結核豫防法中疑義ニ關スル件 大正一〇年衛發七七三號通牒……二二
- ◎ 癩豫防ニ關スル件 明治四〇年 法律一一號……二二
- ◎ 癩豫防ニ關スル件施行規則 明治四〇年 內令一九號……二三
- ◎ 海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癩患者ノ

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

- 取扱ニ關スル件 明治四〇年 勅令二九四號……二四
- ◎ 癩患者ノ救護ニ要スル費用ノ支辨、追徴及負擔ニ關スル件 明治四〇年 法律第十一號第八條ニ依ル 國庫補助ノ件
- ◎ 明治四十年法律第十一號第八條ニ依ル 國庫補助ノ件 明治四〇年 勅令二八五號……二四
- ◎ 癩ニ關スル消毒其他豫防方法ノ件 明治四二年 內務省訓四四號……二五
- ◎ 癩患者汽車輸送賃金ニ關スル件 大正一〇年衛防〇二五號通牒……二六
- ◎ 「トラホーム」豫防法 大正八年 法律二七號……二六
- ◎ 「トラホーム」豫防法施行規則 大正八年 內令二三號……二七
- ◎ 「トラホーム」豫防法中疑義ノ件 大正一〇年發衛一六八號通牒……二六
- ◎ 「トラホーム」豫防法及結核豫防法中 疑義ニ關スル件 大正九年岡衛四二號ノ內通牒……二六
- ◎ 傳染病豫防ノ爲物件輸入禁止ニ關スル件 明治三年 勅令四三四號……二六
- ◎ 「ベスト」豫防ノ爲襪履古綿輸入禁止ノ件 明治三年 內令五四號……二六

- 「ペスト」菌取扱取縮規則 明治三四年 内令三九號……二九
- 傳染病患者鐵道乘車規程 明治三年 遞令三八號……三〇
- 傳染病研究所検査規程 大正六年 文令九號……三〇
- 海港検査法 明治三年 法律一九號……三一
- 海港検査法施行規則 明治四〇年 内令一三號……三三
- 夜間検査信號 明治二年 内告二號……三七
- 内地産獸毛消毒規則 大正一〇年 内令一三號……三七
- 健全證書交付手續 明治三五年 内令九號……三八

第二編 衛生

第一章 傳染病

○傳染病豫防法

〔明治三十年四月一日〕
 法律第三十六號
 〔改正〕
 〔明治三十八年〕
 法律第五六號
 〔大正一一年〕
 法律第三二號

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」、赤痢(疫痢ヲ含ム)、腸「チフス」、「パラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「デフテリア」、流行性腦脊髄膜炎及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲グル病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ前項ニ依リ指定スル傳染病ニ對シ命令ヲ以テ此ノ法律ノ一部ヲ限リ適用シ又ハ地域ヲ限リ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條 此ノ法律ハ「コレラ」及「ペスト」ノ疑似症ニ對シ之ヲ適用ス

「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ命令ノ規定ニ從ヒ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條ノ二 傳染病ノ病原體保有者ハ此ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染

病患者ト看做ス

「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シ此ノ法律中傳染病患者ニ關スル規定ニシテ適用シ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ検査シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、検査委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ検査ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、検査委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行

フヘシ

前項ノ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘキ義務者ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病汚染シ若シ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得

第八條ノ二 傳染病患者ハ業態上病毒傳播ノ虞アル業務ニ従事スルコトヲ得ス

前項ノ業務ノ範圍ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條 傳染病毒ニ汚染シ若シ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官ノヲ定ム

第十七條ノ二 第十九條第七又ハ第八ニ依リ市町村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用水ノ供給ヲ爲スヘシ

第十八條 傳染病流行シ若シ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若シ其ノ船舶汽車電車ノ乘客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車電車中ニ乗組マシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ヲ爲スニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車電車中ニ傳染病患者若シ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ因リ必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若シ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ノ主、首長、管理人又ハ代理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證據ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若シ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出タル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十六條ノ二 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族、昆蟲等ノ驅除及

入出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若シ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車電車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト

二 市町村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト

三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若シ禁止スルコト

四 古著、襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若シハ停止シ又ハ其ノ物件ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若シハ爲サシムルコト

五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ其ノ飲食物ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若シハ爲サシムルコト

六 汽車、船舶、製造所若シ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七 清潔方法、消毒方法ヲ施行シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥留、廁園ノ新設改築變更若シ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

九 鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

第十九條ノ二 傳染病ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ、地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ内務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ手當金ノ交付並手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 諸官廳及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ、其ノ首長ハ、地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ、其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

- 一 豫防委員ニ關スル諸費
- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
- 三 豫防救治ノ爲雇人レタル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具

具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料

六 第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲又ハ二時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七 市町村內ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

八 市町村ニ於テ施行スル鼠族、昆蟲等ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九 第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費

十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

- 一 第十八條ニ關スル諸費
- 二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費
- 三 第十九條第三ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費
- 四 前各號ノ外此ノ法律ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

其ノ他道府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村內ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十二條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ勅令ノ規定ニ從ヒ第二十二條第二十四條ノ北海道地方費又ハ府縣ノ支出ニ對シ其ノ六分ノ一乃至三分ノ一ヲ補助スルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セシム又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限內ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限內ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施行スヘキ事項ヲ施行セシム若ハ之ヲ施行スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限內ニ施行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施行シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追

徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限內ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴訟法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限內ニ履行セサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢索シタル後十二時間以內ニ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條、第五條、第八條ノ二、第九條、第十條、第十二條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

第三編 第二編 衛生 第一章 傳染病

町村制ヲ施行セザル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港並朝鮮臺灣及樺太ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

◎傳染病豫防法施行規則

(大正十一年九月三十日) (内務省令第三十四號)

第一章 傳染病發生ノ通報及届出

第一條 地方官傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ内務大臣ニ報告シ且交通密接ノ地ノ地方官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシ

第二條 地方官ハ傳染病豫防法第一條第一項ニ掲タル十病ノ外同法ニ依リ豫防方法ヲ施行スルノ必要アリト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シ且傳染病豫防法中其ノ適用スヘキ規定及同法ヲ適用スヘキ地域ニ關スル意見ヲ付シ内務大臣ニ報告スヘシ

第三條 傳染病豫防法第三條及第四條ノ届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタル場合ニ於テ其ノ患者又ハ死體ニ關シ既ニ傳染病豫防法第三條ノ届出アリタルコトヲ知リタルトキハ同一事項ニ付更ニ同條ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス其ノ轉送ノ場合亦同シ

八條ヲ適用セス但シ同法第九條中死體ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

一 赤痢 十四日

二 腸チフス、バラチフス 二十一日

三 「チフス」及「チフス」流行性腸脊髄膜炎 七日

第十一條 赤痢、腸チフス及「チフス」ノ病原體保有者ニシテ前條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 便所ハ成ルヘク之ヲ專用トシ上開ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト

二 便所ノ手洗水ニハ消毒藥ヲ用ウルコト

三 便器ハ使用ノ都度之ヲ消毒スルコト

四 屎尿ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒スルコト

「チフス」及流行性腸脊髄膜炎ノ病原體保有者ニシテ前條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 食器、手拭、衣類、寝具、涎掛、玩具等ハ之ヲ專用トシ衣類、寝具ハ時々日光ニ曝スコト

二 鼻汁、唾痰ノ附着シタル布片、紙片其ノ他鼻汁、唾痰ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

三 劇場、寄席、活動寫眞館等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ハ立入ヲサルト

病原體保有者ノ保護者ハ病原體保有者ヲ前二項ノ事項ヲ遵守セシムヘシ

第十二條 「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者其ノ居住ノ場所ヲ他ニ移サルトキハ病原體保有者又ハ其ノ保護者ニ於テ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ届出ヲ受ケタル官吏ハ病原體保有者ノ移轉スヘキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スヘシ

第十三條 第八條第十一條第三項及前條ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治產者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戶主ノ後見人

二 教育、監護又ハ保護ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第三章 清潔方法及消毒方法ノ施行

第十四條 市町村長及豫防委員傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一 「コレラ」、赤痢、腸チフス及「チフス」ニ付テハ井戸側、井戸流、臺所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ就キ不潔ナル場所ヲ掃除シ必要アル場合ニ於テハ其ノ修理及井戸流ヲ無シ且蠅ノ驅除及蠅ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト

二 痘瘡、猩紅熱、「チフス」及流行性腸脊髄膜炎ニ付テハ衣類、寝具、玩具、器、敷物等ヲ清潔ニスルコト

三 發疹「チフス」ニ付テハ蠅ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寝具等蠅ノ棲息シ易

第五條 警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知リタルトキハ五ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官署長ハ地方官ニ、町村長ハ部長ニ報告スヘシ

警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第四條ノ届出ヲ受ケタルトキハ五ニ通知シ且直ニ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムヘシ

第二章 疑似症及病原體保有者

第六條 地方官「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ傳染病ニ對シ適用セラルル傳染病豫防法ノ規定ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 地方官「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法第二條第二項及前條ニ依リ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用シタルトキハ内務大臣ニ報告スヘシ其ノ適用ヲ止メタルトキ亦同シ

第八條 傳染病ノ病原體保有者又ハ其ノ保護者ハ地方官ニ對シ其ノ病原體ノ有無ニ關シ檢査ヲ請求スルコトヲ得

第九條 「コレラ」、「チフス」及流行性腸脊髄膜炎ノ病原體保有者ニ在リテハ二十四時間以上、赤痢、腸チフス及「チフス」ノ病原體保有者ニ在リテハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル檢査材料ニ付細菌學的檢査ヲ行ヒ引續キ二回以上病原體ノ存在ヲ證明セザル場合ニ於テ病原體消失シタルモノト看做ス

前項ノ檢査材料ハ「コレラ」及赤痢ニ付テハ尿、腸チフス及「チフス」ニ付テハ尿、腸チフス及「チフス」及流行性腸脊髄膜炎ニ付テハ鼻咽喉部ノ粘液トス

第十條 傳染病ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ左ノ期間ヲ經過セザル者及地方官ニ於テ特別ノ必要アリト認ムル者ヲ除ク外「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シテハ傳染病豫防法第七條第八條第九條及第十

第十四條 市町村長及豫防委員傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一 「コレラ」、赤痢、腸チフス及「チフス」ニ付テハ井戸側、井戸流、臺所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ就キ不潔ナル場所ヲ掃除シ必要アル場合ニ於テハ其ノ修理及井戸流ヲ無シ且蠅ノ驅除及蠅ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト

二 痘瘡、猩紅熱、「チフス」及流行性腸脊髄膜炎ニ付テハ衣類、寝具、玩具、器、敷物等ヲ清潔ニスルコト

三 發疹「チフス」ニ付テハ蠅ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寝具等蠅ノ棲息シ易

第三編 第二編 衛生 第一章 傳染病

- キ物件ヲ清潔ニスルコト
- 四 「ベスト」ニ付テハ鼠族、蚤及南京蟲ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具、疊、敷物、床下等蚤及南京蟲ノ棲息シ易キ物件及場所ヲ清潔ニシ及掃除スルコト
- 五 室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト
- 前項ノ清潔方法ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ除クノ外消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ施行スヘシ
- 第十八條 前條以外ノ場合ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ
 - 一 宅地及家屋ノ内外ヲ掃除スルコト
 - 二 室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト
 - 三 疊、敷物等ヲ日光ニ曝スルコト
 - 四 床下ハ換氣ヲ充分ニシ濕潤著シキモノハ乾燥セル土砂ノ類ヲ撤布スルコト
 - 五 汚水停留ノ場所又ハ濕潤著シキ場所ハ之ヲ埋メ又ハ排水ヲ充分ニスルコト
 - 六 前各號ノ外特別ノ必要アルトキハ前條第一項第一號乃至第四號ニ準シ處置スルコト
- 第十九條 清潔方法ヲ施行スル場合ニ於テハ蓋ニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス
- 傳染病ノ流行ニ際シ溝渠ヲ掃除スル場合ニ於テ必要アルトキハ煨製石灰末、普通石灰又ハ「クロール」石灰水ヲ以テ消毒シタル後浸漬スヘシ
- 第二十條 清潔方法ノ施行ニ因リ生シタル汚泥、塵芥ノ類ハ適當ノ運搬器具ニ入レ一定ノ場所ニ投棄シ又ハ焼却スヘシ
- 第五章 消毒方法
- 第二十一條 消毒方法ハ左ノ四種トス
 - 一 燒却

- ノハ「スカレット」、「フクシンS」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ著色シ識別シ易カラシムルコトヲ要ス
- 四 煨製石灰 少量ノ水ヲ注ケハ熱煨製石灰ヲ發シ崩壊スルモノ
- 煨製石灰末 煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ
- 煨製石灰末ヲ製スルニハ用ニ臨ミ煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲スヘシ
- 石灰乳 煨製石灰ニ石灰乳分八分
- 石灰乳ヲ製スルニハ定量ノ煨製石灰ニ徐々ニ定量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ
- 石灰乳ハ用ニ臨ミ之ヲ製シ且使用ノ都度之ヲ攪拌スヘシ
- 煨製石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り倍量ノ普通石灰ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 五 「クロール」石灰水 「クロール」石灰五分「クロール」石灰水ノ製法及用法ハ石灰乳ノ例ニ依ル
- 六 「フォルマリン」水 「フォルマリン」水一分水二十四分
- 「フォルマリン」水ヲ製スルニハ用ニ臨ミ定量ノ「フォルマリン」ニ定量ノ水ヲ加フヘシ
- 七 「フォルムアルデヒド」
- 「フォルムアルデヒド」ハ「フォルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ「フォルムアルデヒド」ノ使用ニ關シテハ左ノ事項ニ注意スヘシ
- 一 消毒室内又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フォルマリン」四十「グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「フォルムアルデヒド」五十五「グラム」以上ヲ發生セシメ同時ニ約百「グラム」以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ蒸置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ
- 二 物件ノ内部ニ至ル迄消毒スルノ必要アルモノニハ真空裝置ニ依ル

- 二 蒸氣消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒
- 第二十二條 蒸氣消毒ニハ流通蒸氣ヲ用キ成ルヘク消毒器内ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ
- 蒸氣消毒ヲ施行セムトスルトキハ左ノ事項ニ注意スヘシ
 - 一 消毒ニ因リ褐色ノ塵アルモノハ蒸氣消毒ヲ避ケ他物ニ染色ノ虞アルモノハ他物ト混シ蒸氣消毒ヲ行ハサルコト
 - 二 衣類ハ豫メ補又ハ衣袋ヲ檢索シ爆發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ之ヲ取出スコト
- 第二十三條 煮沸消毒ハ消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後三十分以上煮沸スヘシ
- 煮沸消毒ノ施行ニ關シテハ前條第二項第一號ヲ準用ス
- 第二十四條 藥物消毒ニ用ウヘキ藥品其ノ製法及用法左ノ如シ
 - 一 石炭酸水 消毒用石炭酸三
 - 石炭酸水ヲ製スルニハ定量ノ防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツツ徐々ニ水ヲ注キ定量ニ至ラシムヘシ
 - 石炭酸水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ
 - 二 「クレゾール」水 「クレゾール」水三分水九十分
 - 「クレゾール」水ヲ製スルニハ定量ノ「クレゾール」石鹼液ニ定量ノ水ヲ加フヘシ
 - 「クレゾール」水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ
 - 三 昇水水ヲ製スルニハ定量ノ昇水及普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又ハ昇水錠(錠中昇水〇.五)一錠ニ付水約五百「グラム」ノ割合ニ溶解スヘシ
 - 昇水水ハ金屬製ニ非サル容器ニ之ヲ貯藏シ其ノ昇水錠ヲ用キサルモ

- ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
- 真空裝置ニ依ル消毒時間ハ其ノ裝置ニ依リ之ヲ定ムヘシ
- 三 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒室内又ハ土藏室、洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉、窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
- 第二十五條 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概テ左ノ如シ
 - 一 屎尿、吐瀉物及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
 - 二 死體
 - 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
 - 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
 - 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具、患者ノ食物殘渣等
 - 六 病室ノ疊、敷物等
 - 七 便所、便池、手洗鉢等
 - 八 臺所、臺所器具、井戸、水溝等
 - 九 芥溜、下水溝等
 - 一 瘡瘡及猩紅熱ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概テ左ノ如シ
 - 一 鼻汁、唾痰、膿汁、痂皮、落屑及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
 - 二 死體
 - 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
 - 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
 - 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
 - 六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
 - 一 鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等

- 二 死體
 - 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
 - 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
 - 五 病室ノ疊、敷物等
 - 「チフテリア」及流行性腦脊髄膜炎ニ付消毒方法ノ施行ニ必要トスルモノ概テ左ノ如シ
 - 一 鼻汁、唾液及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
 - 二 患者ノ用ニ供シタル衣類、寢具等
 - 三 看護人及其ノ使用シタル衣類、寢具等
 - 四 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍、玩具等
 - 五 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
 - 「ペスト」ニ付消毒方法ノ施行ニ必要トスルモノ概テ左ノ如シ
 - 一 血液、鼻汁、唾液、膿汁及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
 - 二 死體
 - 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
 - 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
 - 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
 - 六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
 - 七 鼠ノ棲息、交通スル場所
- 第二十六條** 消毒方法ノ應用概テ左ノ如シ
- 一 患者
 - 患者ハ治癒シタルトキ入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ濕温布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケス
 - 入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ第十二條ニ依ル
 - 二 死體
 - 死體ヲ棺ニ歛ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇水ヲ充分撒布シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水、昇水若ハ「フオルマリン」水ニ浸漬シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水、昇水若ハ「フオルマリ」ン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ汽熱ニ堪フルモノニ付テハ蒸氣消毒若ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ
 - 飲食器具、玩具、金屬製品等ノ消毒ニハ昇水若ハ使用スヘカラス
 - 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護膜製品、「セルロイド」製品、護膜附品、糊附品、膠附品、紙製品、毛皮、象牙、魚甲、角等
 - 石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ
 - 蒸氣消毒及煮沸消毒ハ本條ノ消毒ニ適セス
 - 十 室内各部
 - 石炭酸水、「クレゾール」水、昇水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ但シ密閉シ得ヘキ場合ニ於テハ「フオルムアルデヒド」ヲ使用スルコトヲ得
 - 十一 便所、芥溜、溝渠等
 - 便所ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ燻製石灰末、石灰乳又ハ「クロー」石炭酸水ヲ注キ充分攪拌スヘシ但シ尿尿ハ消毒後一週間ヲ経過スルニ非サレハ肥料ニ供スルコトヲ得ス
 - 芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クロー」石炭酸水ヲ注キ燻製石灰末、石灰乳又ハ「クロー」石炭酸水ヲ注キ燻製石灰末ハ之ヲ燒却スヘシ
 - 燻製石灰末ハ乾燥セル場所ノ消毒ニ適セス
 - 十二 井戸、水槽、汚水等
 - 井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ燻製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五十分ノ一ノ「クロー」石炭酸水ヲ投入シ充分攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ熱蒸氣ヲ通シ

- 三十分間以上沸騰セシムヘシ
 - 昇水若ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス
 - 十三 船舶、汽車、電車等
 - 船室又ハ車室内部ノ消毒ハ第十條ニ準スヘシ
 - 船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ燻製石灰末又ハ其ノ容量ノ二千分ノ一ノ「クロー」石炭酸水ヲ加ヘ二十四時間ヲ経過シタル後之ヲ汲出スヘシ
 - 十四 動物ノ死體、消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ消毒費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スヘシ
 - 第二十七條 衣類、寢具、敷物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ第二十一條各號ノ消毒方法ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光ニ曝シ又ハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ
- 第六章 患者、死體、物件ノ處置及交通遮斷、隔離**
- 第二十八條** 市町村長及豫防委員ハ「コレラ」病、痘瘡、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ノ患者アリタル場合ニ於テハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外之ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ池適當ノ場所ニ入ラシムヘシ其ノ他ノ傳染病患者アリタル場合ニ於テ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキ亦同シ
- 第二十九條** 警察官吏及検査委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ「コレラ」、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ニ限リ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得
- 一 患者アル間及患者ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメタル後又ハ患者轉歸ノ後消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト
 - 二 前號ノ外傳染病者ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ノ消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ交通ヲ遮斷スルコト
 - 三 二前號ノ家ノ居住者其ノ他傳染病者ニ汚染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施

- 一 患者、死體、病者汚染物件ノ運搬器具
 - 患者、死體又ハ病者ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ運搬シタル籠、釣籠、車等ハ使用ノ都度石炭酸水、「クレゾール」水、昇水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ
 - 圖書、書類等
 - 「フオルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ
 - 八 硝子器、陶器、磁器、鑲製品、竹木製品等
 - 九 昇水若ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス
 - 三十分間以上沸騰セシムヘシ
 - 昇水若ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス
 - 十三 船舶、汽車、電車等
 - 船室又ハ車室内部ノ消毒ハ第十條ニ準スヘシ
 - 船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ燻製石灰末又ハ其ノ容量ノ二千分ノ一ノ「クロー」石炭酸水ヲ加ヘ二十四時間ヲ経過シタル後之ヲ汲出スヘシ
 - 十四 動物ノ死體、消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ消毒費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スヘシ
 - 第二十七條 衣類、寢具、敷物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ第二十一條各號ノ消毒方法ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光ニ曝シ又ハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ
- 第六章 患者、死體、物件ノ處置及交通遮斷、隔離**
- 第二十八條** 市町村長及豫防委員ハ「コレラ」病、痘瘡、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ノ患者アリタル場合ニ於テハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外之ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ池適當ノ場所ニ入ラシムヘシ其ノ他ノ傳染病患者アリタル場合ニ於テ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキ亦同シ
- 第二十九條** 警察官吏及検査委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ「コレラ」、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ニ限リ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得
- 一 患者アル間及患者ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメタル後又ハ患者轉歸ノ後消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト
 - 二 前號ノ外傳染病者ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ノ消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ交通ヲ遮斷スルコト
 - 三 二前號ノ家ノ居住者其ノ他傳染病者ニ汚染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「コレラ」ニ付テハ五日以内、發疹「チフス」ニ付テハ十四日以内、「ペスト」ニ付テハ十日以内隔離所又ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

四 交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發生シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ更ニ本條ニ依リ處置スルコト

市町村長及豫防委員ハ警察官吏及檢疫委員ノ指シテ前項ノ交通遮斷又ハ隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ

傳染病豫防法第十九條第二號ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル交通遮斷又ハ隔離ハ前二項ニ準シテ行フヘシ

第三十條 市町村立ノ傳染病院、隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費、藥價ヲ徵收スルコトヲ得其ノ金額ニ付テハ市ニ在リテハ地方長官、町村ニ在リテハ部長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 傳染病豫防法第八條ノ二第二項ノ業務ノ範圍左ノ如シ 一 菓子、鮎、煮染、豆腐、氷雪、肉、乳、魚介、蔬菜、果實其ノ他直ニ飲食ニ供シ得ヘキ物ノ製造、販賣、調製又ハ取扱ニ直接從事スル業務

二 旅店、下宿屋、寄宿舍、合宿所其ノ他多衆ノ宿泊スル場所及貸座敷、料理店、飲食店、理髮店、其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者、看護婦、鍼灸按摩治療業者、藝妓、娼妓、酌婦其ノ他直接客ニ接スル業務

三 劇場、寄席、活動寫眞等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ於テ直接多衆ニ接スル業務

地方長官ハ特別ノ事由ニ因リ傳染病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限リ條件ヲ附シ赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ノ患者ニ對シ前項第二號及第三號ノ業務、猩紅熱、「チフス」及流行性腦脊髄膜炎ノ患者ニ對シ前項第一號ノ業務ニ從事スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十五條 檢疫委員ハ應府縣郡島廳ノ官吏、醫師、藥劑師等ニ就キ地方長官之ヲ命ス

第三十六條 檢疫委員ノ職務章程ハ地方長官之ヲ定ム

第三十七條 地方長官ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一號ノ健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十八條 第十四條第十五條第十六條第二十八條及第三十三條ノ場合ニ於テハ警察官吏、衛生官吏及檢疫委員ハ市町村長及豫防委員ニ指示シ其ノ事務ニ從事スヘシ

第八章 船舶、汽車、電車ノ檢疫

第三十九條 地方長官船舶、汽車、電車ノ檢疫ヲ施行セムトスルトキハ檢疫スヘキ傳染病、檢疫ノ目的地、檢疫ヲ施行スル場所及檢疫開始ノ期日ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官檢疫ヲ開始セムトスルトキハ前項ノ事項ヲ告示シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシ其ノ廢止ノ場合亦同シ

地方長官前項ノ告示ヲ爲シタルトキハ内務大臣ニ報告スヘシ

第二項ノ通知ヲ受ケタル地方長官其ノ事項ヲ告示スヘシ

第四十條 檢疫ノ目的地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ハ檢疫ヲ受ケ許シ得タル後ニ非サレハ他ニ進航シ、陸地又ハ他船ト交通シ、船客、乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶及停留中ノ船舶ハ前項其ノ他見揚ノ場所ニ黃旗ヲ掲ケ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ下スコトヲ得ス

第四十二條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル船舶ニ對シテハ檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ

一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サムトスルトキ

二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗濯セムトスルトキ

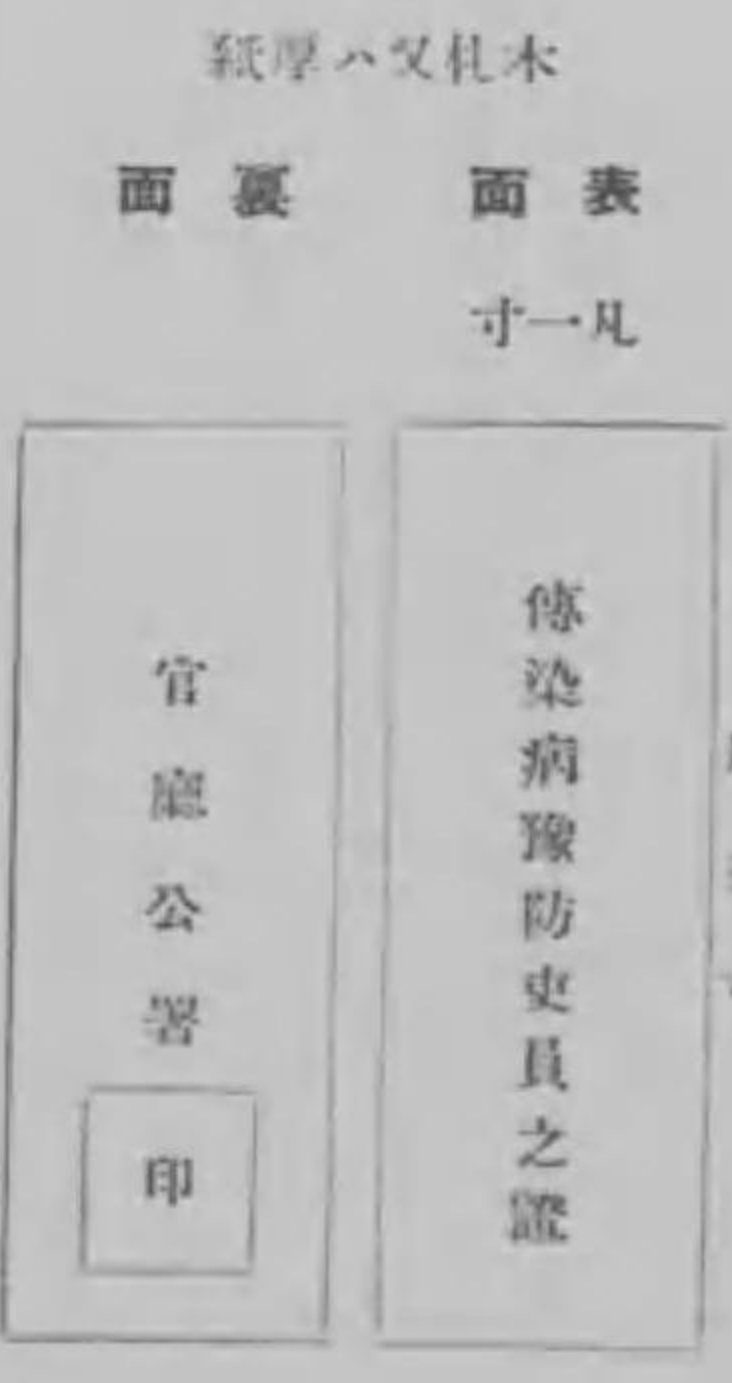
三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セムトスルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テ其ノ認可ヲ爲シタル吏員ハ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スヘシ

第三十三條 傳染病豫防法第十三條ノ死體及家屋其ノ他ニ對シテハ市町村長又ハ豫防委員ニ於テ消毒其ノ他相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第七節 傳染病豫防吏員

第三十四條 警察官吏、衛生官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日出後日没前ニ於テスヘシ其ノ戸主、首長、管理人又ハ代理者ニ示スヘキ證書左ノ如シ



凡三寸

鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ其ノ船舶ヲ適當ノ場所ニ停留シ船客、乗組員ヲ隔離所、船中其ノ他適當ノ場所ニ停留スルコトヲ得

第二十九條第一項第三號及第四號ノ隔離ニ關スル規定ハ前項ノ停留ニ之ヲ準用ス

檢疫係員ハ船舶ヲシテ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得

檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行スル場合ニ於テハ船舶其ノ他ノ乗組員ヲシテ補助セシメ又ハ器具、藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第四十三條 停留中ノ船客、乗組員ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ト交通シ又ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

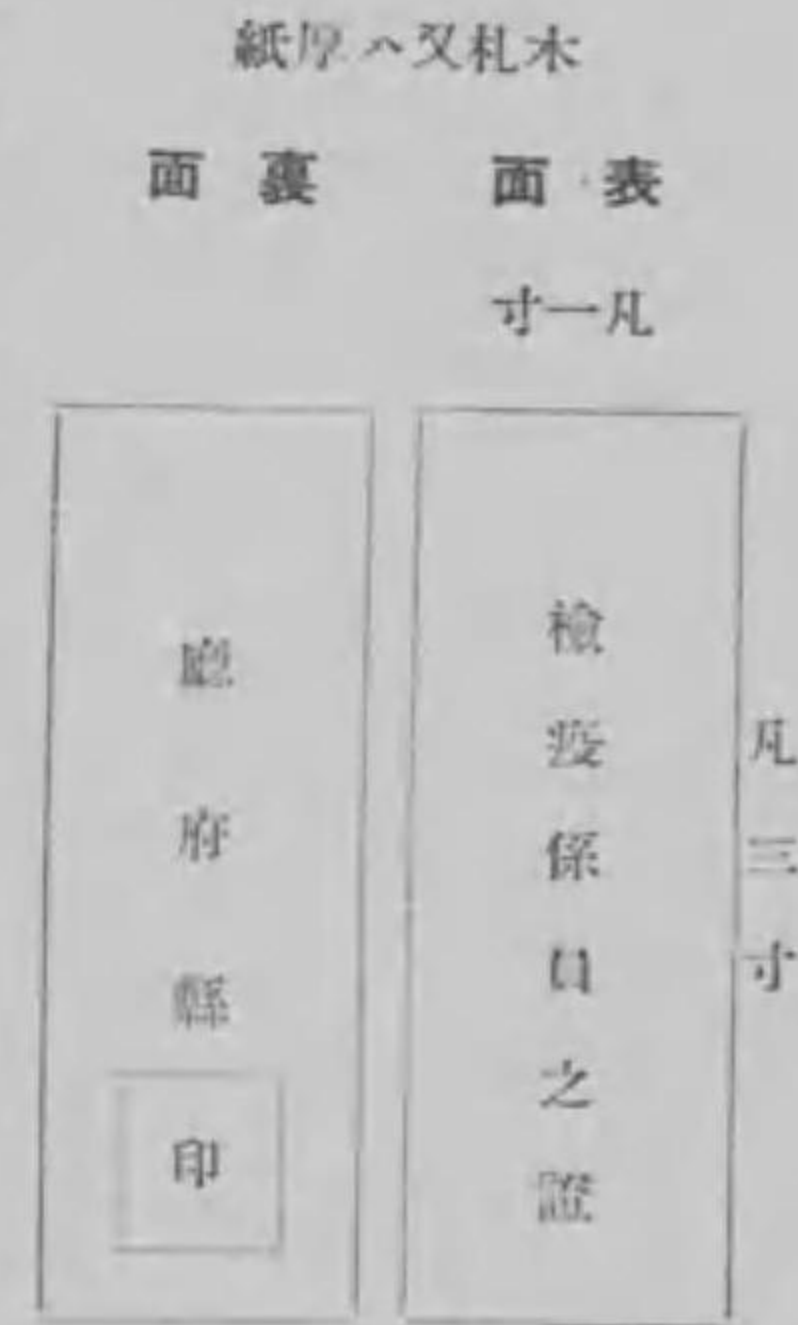
第四十四條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ檢疫係員ニ於テ市町村立ノ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメ死體ハ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第四十五條 第四十二條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ檢疫係員ハ船舶ヲシテ他ノ場所ニ回航セシムルコトヲ得

第四十六條 檢疫係員傳染病豫防法第十八條第二項ニ依リ無償ニテ船舶ニ乗込ム場合ニ於テハ船長又ハ其ノ代理者ニ左ノ證書ヲ示スヘシ

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病



第四十七條 船舶ノ檢疫施行中檢疫ノ目的地以外ノ地ヨリ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ニ檢疫スヘキ傳染病ノ患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ前七條ノ規定ヲ準用ス

第四十八條 第四十二條第四十三條第一項第四十四條第四十六條及第四十七條ハ汽車、電車ノ檢疫ニ之ヲ準用ス但シ第四十二條第一項中船舶ノ停留ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

第九章 手當金及補助

第四十九條 地方長官傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病毒ニ汚染シタル建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用セムトスルトキハ建物及土地ノ所有者又ハ管理者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金額ハ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ市町村長ニ通知スヘシ

第五十條 市町村長地方長官ヨリ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ建物所在ノ市町村番地及手當金額ヲ所有者及建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知シ且一月以上ノ期間公告スヘシ

前項ノ公告期間ヲ經過シタルトキハ市町村長ハ速ニ損害ヲ受ケタル建物

◎傳染病豫防法施行規則實施ニ關スル注意事項ノ件

今般傳染病豫防法中改正法律ノ施行ト共ニ同法施行規則モ改正施行相成候

監之ヲ行フ但シ傳染病豫防法第十八條第三項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 本令中部長ニシテ規定ハ部長ヲ置カサル地ニ於テハ北海道廳支廳長、島司其ノ他部長ニ準スヘキ者ニ、町村又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村又ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第五十四條 傳染病豫防法又ハ本令ノ規定ニシテ其ノ準用又ハ適用シ得ヘキモノヲ除クノ外北海道及沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

町村制ヲ施行セサル地ニ關シ傳染病豫防法中町村ニ關スル規定ヲ準用シ難キ場合及本令ノ規定ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

明治三十年五月內務省令第十一號傳染病豫防法施行規則、明治三十年五月拓殖務省令第四號、傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程、明治三十年五月內務省令第十三號、明治三十年五月拓殖務省令第六號、檢疫委員設置規則、明治三十年七月內務省令第十八號、汽車檢疫規則、船舶檢疫規則、明治三十年八月拓殖務省令第九號、明治三十一年三月內務省令第四號及傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十一年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(大正十一年十月十日
內務省發給第一九五號通牒)
廳府縣長官宛

◎傳染病豫防法第二十二條ニ關スル件

傳染病豫防法第二十二條ニ所謂第十八條ノ諸費中ニハ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離所ニ於テ傳染病患者又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ引取リタル以後之

- 處其實施上注意スヘキ事項左記ノ通り御了知相成度
- 第一條中交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシト規定シタルハ舊施行規則ニ規定セル隣接者クハ船舶汽車交通ノ地ノ地方長官、最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦ノ外學校、工場等通知ヲ必要トスル尙アルヘキヲ以テ之ヲ地方長官ノ認定ニ委シタル義ニ有之
 - 第四條ノ規定ハ既ニ届出アリタル事項ニ付重複シテ届出ヲ爲スノ必要ナキニ其クモノナルヲ以テ他ノ醫師ヨリ届出ナキ限リハ法ニ從テ届出ツルノ義務アル次第ニ付同條ノ規定ニ關シ醫師ニ於テ誤解ナキ檢取計ハレタキコト
 - 第八條ハ病原體保有者又ハ其ノ保護者ニ對シ檢査ヲ請求スルコトヲ得ルノ途ヲ開キタルニ止マルヲ以テ病原體保有者ニ對スル檢査ハ其ノ請求ノ有無ニ拘ラス之ヲ行ヒ病原體ノ消失シタル者ヲシテ猶從業禁止其ノ他ノ制限ヲ受ケシムルコトナキ檢査度
 - 第三十一條ニ掲クル業務ニ從事スル者ニシテ傳染病ニ罹リ又ハ病原體ヲ保有スルニ至リタルトキハ法第八條ノ二ノ規定ニ依リ當然其ノ業務ニ從事スルコトヲ得サル義ナルモ一應之ニ對シ其ノ從業ヲ繼續スヘカラサル旨ヲ警告スル檢査度
 - 舊施行規則第十三條第二項、第十四條ニ規定セル事項ハ自明ノコト、シテ改正施行規則中ヨリ削除セラレタルモ之ヲ不必要トシタルノ趣旨ニ無之爲念

ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ但シ其ノ期間内ニ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ノ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シ手當金ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五十一條 地方長官ハ左ノ各號ニ從ヒ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ北海道地方費又ハ市縣ヨリ市町村ニ交付スヘキ補助ニ關スル規則ヲ定ムヘシ

- 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出額ニ對シ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スル歩合ハ「コレラ」及「ベスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ付テハ支出精算額ノ三分ノ一以上、其ノ他ノ諸費ニ付テハ支出精算額ノ六分ノ一以上トス但シ支出ニ伴フ収入及寄附金アルトキハ支出精算額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ其ノ歩合ヲ定ム
- 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シ別段ノ補助歩合ヲ定メ指定シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但シ本號ニ依リ算出シタル補助ノ金額ナシテ前號三分ノ一又ハ六分ノ一ナラシムルコトヲ得ス
- 支出ニ伴フ収入及寄附金ヲ控除シタル一會計年度ノ支出精算額五十分未満ナルトキハ補助セサルコトヲ得
- 補助ノ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ金額ニ換算スヘシ
- 市町村ヨリ申請セル支出精算額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助スルコトヲ得

第十章 雜則

第五十二條 傳染病豫防法第二條第十八條第十九條第十九條ノ二及本令第一條第二條第八條第十條第三十一條第三十九條ノ地方長官ノ職務及傳染病豫防法及本令ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視廳

ニ關シ要シタル費用ヲ含マサル義ニ有之此ノ種ノ費用ハ船舶カ船籍所屬ノ町村ニ歸米シタル場合ト否トニ拘ラズ傳染病豫防法第十八條第三項ニ依リ地方長官ニ對シ請求シ得ルモノトス

●傳染病豫防法施行規則中疑義ノ件

(大正十一年十二月二十七日)

傳染病豫防法施行規則第十條ハ病原體保有者ニ關スル規定ニシテ即チ傳染病ノ治癒後ノ病原體保有者ニシテ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ同條所定ノ期間ヲ經過セサル者ニ對シ傳染病患者ト同様ニ取扱ヒ之ニ反シ右ノ期間ヲ經過シタル病原體保有者及所謂健康保前者ニ對シテハ傳染病豫防法第七條乃至第九條及第十八條ヲ適用セサルノ趣旨ニ有之候

●結核豫防法

(大正八年三月二十七日)

第一條 本法ニ於テ結核ト稱スルハ肺結核又ハ喉頭結核ニテ病毒傳播ノ危險アルモノヲ謂フ

第二條 醫師結核患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ患者ノ場合ニ在リテハ患者又ハ其ノ居住ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者、死體ノ場合ニ在リテハ死體所在ノ場所ノ管理ヲ爲ス者又ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命令ノ定ムル所ニ依リ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ
前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

第三條 行政官廳ハ結核患者又ハ其ノ死者アリタル場所ニ付家屋物件ノ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ施行シ又ハ其ノ施行ヲ患者又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命令スルコトヲ得

必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス補償金ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第六條 主務大臣ハ結核患者ニシテ療養ニ途ナキモノヲ收容セシムル爲ノ口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シテ結核療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第七條 地方長官ハ結核患者ニシテ療養ニ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ入所ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依リ結核療養所ヲ設置スル公共團體ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第九條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依ラスシテ結核療養所ヲ設置スル公共團體又ハ公益法人ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體又ハ公益法人ノ支出スル經費ノ二分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得

第十條 結核療養所ヲ設置スル公共團體ニテ第八條又ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケルモノハ他ノ公共團體ノ委託アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ途ナキ結核患者ヲ其ノ結核療養所ニ收容スヘシ

第十一條 北海道地方費又ハ府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第四條第一項

第四條 行政官廳ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一 業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スル者又ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於テ職業ニ従事スル者ニ對シ健康診斷ヲ施行スルコト

二 結核患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事ヘルヲ禁止スルコト

三 學校、病院、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ結核豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト
四 古着、古蒲團、古本、紙屑、襪、飲食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲ爲サシメ又ハ其ノ物件ノ廢棄ヲ爲スルコト

地方長官ニ於テ前項ノ規定ニ依リ健康診斷ヲ施行シ又ハ物件ノ廢棄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第五條 地方長官ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ採光、換氣其ノ他ノ關係ニ於テ衛生上不良ナル建物ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ニ因リ生シタル損害ニ對シテハ地方長官

第二號ノ規定ニ依リ從業禁止又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ入所ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補助スヘシ

第十二條 國庫ハ第四條第二項、第五條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ四分ノ一ヲ補助ス

第十三條 官廳、公署、官立公立ノ學校病院製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號第四號及第五條第一項ノ規定ニ準シ結核豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第十四條 第二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十五條 第四條第一項又ハ第五條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年勅令第四九號ヲ以テ)

大正三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス

大正三年法律第十六號ニ依リ設置ヲ命シタル肺結核療養所ハ本法ニ依リ設置ヲ命シタル結核療養所ト看做ス

●結核豫防法施行令

(大正八年十月二十三日)

第一條 結核豫防法第五條第一項ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ニ因リ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者又ハ使用者ニテ同條第二項ノ補償金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ制限又ハ禁止アリタル日ヨリ六十日內ニ地方長官ニ交

付テ申請ス

第二條 補償金ノ額ハ建物ノ使用ノ制限又ハ禁止ニ因リ通常生スヘキ損害ノ限度トシ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徴シテ決定ス

第三條 地方長官前條ノ規定ニ依リ補償金ノ額ヲ決定シタルトキハ之ヲ建物ノ所有者及使用者ニ通知シ且建物所在地ノ市町村長ヲシテ建物ノ所在地及補償金ノ額ヲ所有者及使用者ヲ除ク外建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知セシメ且相當ノ期間公告セシム但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 前條ノ規定ニ依ル公告期間ヲ經過シタルトキハ地方長官ハ速ニ補償金ヲ交付スヘシ但シ公告期間内ニ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ヨリ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シテ其ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五條 結核豫防法第七條ノ規定ニ依リ入所ノ費用ハ結核療養所ヲ設置スル公共團體ノ負擔トス

第六條 結核療養所ノ管理者ハ前條ノ規定ニ拘ラス本人ヨリ入所ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得管理者本人ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ入所ノ費用ノ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
第一項ノ入所ノ費用ニシテ指定ノ期間内ニ納付ナキモノニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七條 結核豫防法第七條ノ規定ニ依リ入所セシメラレタル結核患者入所中死亡シタルトキハ遺留財産ヲ以テ入所ノ費用ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得

第八條 結核豫防法第八條ノ規定ニ依リ國庫補助ハ左ノ區分ニ依ル
一 結核療養所ノ創設費及擴張費並之ニ伴フ初度調辦費ハ支出額ノ二分ノ一
二 其ノ他ノ諸費ハ支出額ノ四分ノ一

第九條 結核豫防法第九條ノ規定ニ依リ國庫補助ハ左ノ區分ニ依ル
一 結核療養所ノ創設費及擴張費並之ニ伴フ初度調辦費ハ支出額ノ四分ノ一乃至二分ノ一
二 其ノ他ノ諸費ハ支出額ノ八分ノ一乃至六分ノ一

第十條 前二條ニ於テ支出額トハ事業ニ伴フ收入、國庫以外ノ補助金又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ但シ他ノ公共團體ヨリ受ケタル委託患者收容料ノ額ハ之ヲ控除セス
前項ノ支出精算額ノ算出ニ付テハ公益法人ノ場合ニ於テハ寄附金ノ額ヲ控除セサルコトヲ得

第十一條 結核豫防法第十條ノ規定ニ依リ收容スヘキ委託患者ノ數ハ結核療養所ノ豫定收容人員ノ十分ノ一以內トス但シ内務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
委託患者ヲ收容シタル公共團體ハ患者ノ收容ヲ委託シタル公共團體ニ

(三〇九)

對シ委託患者收容料ヲ請求スルコトヲ得

委託患者收容料ノ額ハ患者ヲ收容スル公共團體ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケテ決定ム

第十二條 收容シタル委託患者死亡シタルトキハ受託公共團體ハ其ノ旨ヲ委託公共團體ニ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル公共團體ハ死亡者ノ相続人、扶養義務者又ハ家族ヲシテ直ニ其ノ死體ヲ引取ラシムヘシ
前項ノ規定ニ依リ死體ヲ引取ルヘキ者引取ヲ爲ササルトキハ死體ノ引取人ナキトキハ委託公共團體ニ於テ其ノ死體ヲ引取ルヘシ此ノ場合ニ於ケル費用ハ其ノ公共團體ノ負擔トス

第十三條 結核豫防法第十一條ノ規定ニ依リ生活費ノ補給ヲ受クヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル
一 從業ヲ禁止セラレタル者
二 從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相続人ニ限ル
三 前號ニ掲ケル者ヲ除ク外從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ニ依リ扶養ヲ受クヘキ者ニシテ從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

第十四條 生活費ノ補給ハ生活費ノ補給ヲ受ケムトスル者ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其ノ許否ヲ決定ス

第十五條 生活費ノ補給ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 生活費補給ノ程度、方法、期間、廢止及停止ニ關スル事項ハ地方長官ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ決定ム

第十七條 結核豫防法第五條第二項ノ補償金ノ額ヲ決定シ對シ不服アル建物ノ所有者又ハ使用者ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、同法第十二條ノ規定ニ依リ生活費補給ノ申請ヲ拒マレタル者又ハ其ノ生活費ノ補給ヲ廢止若ハ停止セラレタル者ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十八條 本令中市町村長トアルハ市制第六條ノ市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者トス

附 則

本令ハ結核豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正四年勅令第百二號ハ之ヲ廢止ス

●結核豫防法施行規則

(大正八年十月二十三日) (內務省令第二十號) (改正) (省令第五號)

第一條 結核豫防法第二條第一項ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ左ノ各號及第六條ノ規定ニ準據スヘシ
一 唾痰ハ唾壺、布片、紙片又ハ下水、便池其ノ他病毒傳播ノ危險ナキ場所ノ外ニ略出セサルコト
二 唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄シ唾痰ノ附着シタル布片、紙片ハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

- 三 咳嗽、嘔吐ノ際ハ成ルヘク布片、紙片等ニテ口鼻ヲ覆フコト
- 四 患者ノ食器、手拭、寝具等ハ專用トシ衣服、寝具ハ時々日光ニ曝スコト
- 五 患者ノ居室ハ採光換氣ニ注意シ掃除ハ湯布ヲ以テ拭淨ス。等塵埃ノ飛散ヲ防クコト
- 六 患者ノ常用シタル衣服、寝具、書籍其ノ他ノ物件ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシムトスルトキハ消毒スルコト
- 七 患者居室又ハ住家ヲ轉シタルトキハ其ノ使用シタル居室又ハ住家ニシテ必要ト認ムル場所ヲ消毒スルコト
- 八 患者死亡シタルトキハ其ノ使用シタル居室、衣服、寝具、書籍其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルコト

第二條 學校、病院、製造所又ハ鐵道電車、船舶、自動車馬車等ノ發着待合所、劇場、寄席、活動寫眞館、旅店、下宿屋、料理店、理髮店、湯屋其ノ他地方長官ノ指定シタル多衆ノ集合スル場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニハ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察署長又ハ警察分署長ハ前項ノ規定ニ依リ配置シタル唾壺適當ナラス又ハ其ノ箇數十分ナラスト認ムルトキハ期日ヲ指定シテ其ノ變更又ハ増置ヲ命スルコトヲ得

第三條 前條ノ場所ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ス

第四條 地方長官ノ指定シタル鐵泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅館ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ

- 一 營業ノ用ニ供スル寝具ハ白布ヲ以テ被包スルコト
- 二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト
- 三 結核患者若ハ其ノ疑アル患者ノ宿泊シタル室又ハ使用シタル物件ヲ他人ニ使用セシムトスルトキハ消毒スルコト

●結核豫防法第四條中ノ解釋ニ關スル件

前項ノ規定ハ前項以外ノ旅店及下宿屋、貸座敷其ノ他ノ場所ニシテ地方長官ノ指定シタルモノニ之ヲ準用ス

第五條 病院其ノ他患者ヲ收容スル場所ニ於テハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ

- 一 結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト
- 二 結核患者ヲ收容シタル病室ニハ消毒スルニ非サレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト
- 三 結核病室ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト
- 第六條 第二條第四條第五條ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ大正十一年九月內務省令第二十四號ニ依ルヘシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石炭酸水(動液用石炭酸五分)ヲ使用スヘシ
- 第七條 結核豫防法第六條ノ規定ニ依リ療養所ノ設置ヲ命セラレタル公共團體ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置、設計及其ノ收容人員ヲ定ムヘシ其ノ變更ニ付亦同シ
- 第八條 結核豫防法第三條行政官廳ノ職務ハ警察署長又ハ警察分署長、同法第四條行政官廳ノ職務ハ內務大臣又ハ地方長官ノヲ行フ

結核豫防法結核豫防法施行令及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附 則
本令ハ結核豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年法律第二十六號結核豫防法第四條第一項第一號中ニハ左記各號ノ

(大正十一年九月十九日
內務省令第二十四號) (大正九年
各府縣知事宛高知縣ヲ附ク)

01103

01102

者ヲ包含スル義ト解釋差支無之候

- 一、一般工場ノ職工徒弟(工場法ノ適用ヲ受ケル)
- 二、表面上直接其ノ業ニ從事セサルモ事實上時々其ノ業ヲ補助スト認メラル、菓子屋、宿屋等ノ家族雇人等

●結核又ハ「トラホーム」豫防法施行細則中ノ規定ニ關スル件

(大正十年六月二十九日
內務省令第七二號) (大正九年
各府縣知事宛)

府縣ノ制定ニ係ル結核又ハ「トラホーム」豫防法施行細則中醫師ニ對シ患者又ハ死者ノ所在地、氏名、年齢等ヲ警察官署ニ届出又ハ通報スヘキ義務ヲ負ハシメタル向有之候得共法規ニ依リ此等ノ義務ノ履行ヲ強制スルハ現在ノ情況ニ於テハ却テ豫防ノ目的ニ副ハサル結果ヲ生スルノ虞モ可有之候存候ニ付テハ右等ノ規定ヲ設ケタル向ニ對シテハ適當ノ時期ニ於テ修正相成候様致度旨依命及通牒候條御了知相成度

●結核豫防法中疑義ニ關スル件

(大正十年十月十二日
內務省令第七三號) (大正九年
各府縣知事宛)

- 一、地方長官ハ結核豫防法第七條ニヨリ結核療養所ニ療養ノ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ入所セシムルコトヲ得ルハ勿論結核療養所ノ設置ヲ命セラレタル市ノ市長ハ營造物管理者トシテ結核患者ニシテ療養ノ途ナキ者ノ任意ノ出願ニ對シテハ入所セシムルコトヲ得
- 二、結核豫防法施行令第五條ニ依レハ入所費用ハ結核療養所ヲ設置スル公共團體ノ負擔タルヘキモ同令第六條ニ於テ第五條ノ規定ニ係ラス入所費用ノ全部又ハ一部ヲ本人又ハ扶養義務者ヨリ徴收スル事ヲ得ルト規定セラレタルヲ以テ療養ノ途ナキモノト雖豫防法第七條ニ依リ地方長官ニ於テ入所セシメタル者ナル限り若シ本人又ハ扶養義務者ニ於テ負

●癩豫防ニ關スル件

(明治四十年三月十九日
法律第十二號) (大正九年
法律第二一號)

擔能力アリト認タル場合ハ之ヲ徴收スルコトヲ得

第一條 醫師癩患者ヲ診斷シタルトキハ患者及家人ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合及死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ

第二條 癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防方法ヲ行フヘシ

第三條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノハ行政官廳ニ於テ命令ノ定ムル所ニ從ヒ療養所ニ入ラシメ之ヲ救護スヘシ但シ適當ト認ムルトキハ扶養義務者ヲシテ患者ヲ引取シムヘシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者)ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲ニ必要ナル療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

前項療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣ハ私立ノ療養所ヲ以テ第一項ノ療養所ニ代用セシムルコトヲ得

第四條ノ二 前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被救護者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

第五條 救護ニ要スル費用ハ被救護者ノ負擔トシ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス
第三條ノ場合ニ於テ之カ爲要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 扶養義務者ニ對スル患者引取ノ命令及費用辨償ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但シ東京府下伊豆七島小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス

一 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル救護費

二 檢診ニ關スル諸費

三 其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費

第四條第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四條第三項ノ場合ニ於テ關係道府縣ハ私立ノ療養所ニ對シ必要ナル補助ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ前項ノ例ニ依ル

第八條 國庫ハ前條道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一ヲ

第二條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其ノ旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍、住所、氏名及病況並扶養義務者ノ住所、氏名等ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經テル上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第三條 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ内務大臣ノ指定シタル設立地ノ地所長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對シ命令條件ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條ノ二 療養所ノ長ハ被救護者ニ對シ左ノ懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

- 一 誹責
 - 二 三十日以内ノ謹慎
 - 三 七日以内常食量二分ノ一マテノ減食
 - 四 三十日以内ノ監禁
- 前項第三號ノ處分ハ第二號又ハ第四號ノ處分ト併科スルコトヲ得
第一項第四號ノ監禁ニ付テハ情狀ニ依リ管理者タル地方長官又ハ代用療養所所在地地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ期間ヲ二箇月マテ延長スルコトヲ得

至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

癩ト診斷セラレタル者又ハ其ノ扶養義務者ハ行政官廳ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ求ムルコトヲ得

行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得

第十條 醫師第一條ノ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

癩豫防ニ關スル件施行規則

〔明治四十年七月二十日〕
〔內務省令第十九號〕
〔省令第二四號〕
〔大正五年〕
〔省令第六號〕

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ
癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其ノ事實ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第五條ノ三 前條ノ外懲戒又ハ檢束ニ關シ必要ナル規則ハ管理者タル地方長官又ハ代用療養所所在地地方長官ノ認可ヲ經テ療養所ノ長之ヲ定ム

第六條 明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署ニ之ヲ行フ

警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳ニ之ヲ行フ

第九條 第二條及第六條ノ地方長官ノ職權其ノ他癩豫防上警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視廳監之ヲ行フ

附則

本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市京都市及大阪市ニ於テハ區長ツシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癩患者ノ取扱ニ關スル件

(明治四十年九月十四日)

海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル船舶ニ癩患者アル場合ニ於テ其ノ患者外國人ナルトキハ地方長官ハ其ノ上陸ヲ禁止スベシ但シ已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ條件ヲ附シテ一時上陸ヲ許可スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎癩患者ノ救護ニ要スル費用ノ支辨、追徴及負擔ニ關スル件

(明治四十年七月十日)

第一條 明治四十年法律第十一號第三條ニ依リ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ノ一時救護ニ要スル費用ハ必要アルトキハ救護地道府縣ニ於テ之ヲ繰替支辨スベシ

市町村長ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ必要アルトキハ市町村ニ於テ繰替支辨スベシ

第二條 前條ニ依リ繰替支辨シタル費用ハ被救護者ニ、被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ニ其ノ辨償ヲ求ムベシ此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ義務者ノ住所地方若ハ所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ其ノ徵收ヲ委託スルコトヲ得

辨償金ノ徵收ニ關シテハ府縣稅徵收ノ例ニ依ル

市町村ニ於テ繰替支辨シタル費用ニシテ前二項ニ依リ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ニ其ノ辨償ヲ求ムベシ

第三條 一時救護ニ要スル費用ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ノ負擔トス

第四條 療養所ニ於テ救護費ヲシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ被救護者ノ本籍地、本籍地ナキカ又ハ不明ナルトキハ救護地ノ屬スル療養所設置區域内道府縣ノ負擔トス療養所ニ送致スル費用ニ付本同シ

第五條 癩患者死亡シタルトキハ救護ノ費用ハ其ノ遺留ノ金錢又ハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍ラサル場合ニ於テ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ遺留物件ヲ賣却シテ之ニ充フルコトヲ得

第六條 本令ニ依リ道府縣ニ於テ繰替支辨シ又ハ負擔スヘキ費用ハ(沖繩縣及)東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ支辨トス

第七條 本令ニ於テ市町村又ハ市町村長ト稱スルハ市制町村制ヲ施行セサル地ノ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎明治四十年法律第十一號第八條ニ依ル國庫補助ノ件

(明治四十年八月五日)

ルニ本病ハ從來非傳染性ト思惟シ來レト其ノ經過緩慢ニシテ長年月ニ渉ルナリ以テ縱令外部ヨリ督勵ヲ蒙ルニシテ雖一般人民ヲシテ自衛ノ途ヲ講セシメ又患者其家人ナシテ公徳ヲ重ンセシムルニ非サレハ隱微ノ間ニ於テ病毒ノ散播ヲ來タジ所期ノ目的ヲ達センコト容易ナラス依テ一般人民ニ對シ常ニ本病ノ性質預防ノ方法等ヲ訓諭シ之カ誘導ヲ怠ラサルハ勿論現ニ患者アル家ニ對シテハ特ニ左記各號ノ事項ヲ指示シ學校、病院、製造所、旅店、船舶等ニ於テ患者ヲ發見シ若ハ患者ヲ入ラシメタルトキ亦之ニ準シ相當處置セシムル等本病預防ノ效果ヲ收ムルニ努ムベシ

癩ニ關スル消毒其ノ他預防方法

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 二 患者ノ衣類、寢具、其ノ他日用品等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル様注意スルコト
- 三 患者ノ常用衣類、敷布、寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト
- 六 病室ニ汚染シタル綿帶、手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑糞類ハ燒却スルコト
- 七 患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ス外出セントスルトキハ清潔ナル衣服ヲ着用シ又消毒アルモノハ其ノ綿帶ヲ更ムルコト
- 八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食器具、(金屬陶器類ヲ除ク)玩具ノ調製又ハ其ノ販賣其ノ他病毒傳播ノ虞アル業ニ從事セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用貸與又ハ授與セサルコト

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

◎癩ニ關スル消毒其他預防方法ノ件

(明治四十二年三月)

(內務省訓令第四十五號)

癩ニ關スル消毒其他預防方法

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シ久シク其ノ病性ヲ認識セラレタルモ癩菌ノ發見ニ依リテ其ノ傳染性ナルコトヲ確定セラレタルモノニシテ主トシテ觸接ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁、唾液、潰瘍部ノ膿汁等ニ汚染シタル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルノ危險アルモノトス是ヲ以テ政府ハ明治四十年三月日本病ノ預防ニ關シテ法律第十一號ヲ發布シ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有ヘス且ツ救護者ナキモノハ之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其ノ他ハ各自ニ於テ消毒其ノ他預防方法ヲ行ハンメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ漸次其ノ根絶ヲ圖ラントス然

五 私立ノ代用療養所ニ對スル其ノ他ノ補助費 六分ノ一

附 則

四 私立ノ代用療養所ノ創設費、擴張費及之ニ伴フ初度調辨費ニ對スル補助費 二分ノ一

三 其ノ他ノ諸費 六分ノ一

二 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル無籍者又ハ本籍不

一 療養所創設費、擴張費及之ニ伴フ初度調辨費 二分ノ一

八條ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

明治四十年法律第十一號ニ依リ道府縣ノ支出精算額ニ對シ國庫ハ同法第

- 十一 患者ノ使用シタル衣類、寝具、器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、授與、移轉又ハ遺棄セサルコト
- 十二 患者ノ一時滞留シタル場合ニ於ケルモ其ノ占居シタル室設其ノ使用シタル衣類、寝具、器具等ニ對シテ亦前二號ヲ適用スルコト
- 十三 看護等ノ爲メ常ニ患者ニ近接シ又ハ病室汚染物等件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被ヲ着用シ時々之ヲ消毒スルコト
- 十四 患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後可成之ヲ火葬スルコト
- 十五 消毒方法ハ明治三十年内務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

●癩患者汽車輸送賃金ニ關スル件

(大正十年七月二十九日 内務省勅令第1015號 通達)

各府縣知事宛

癩患者汽車輸送賃金ニ關シテハ從來接拂ノ取扱ヲ爲シツ、有之候處今同鐵道省ニ於テ現拂ニ改正相成候爲之カ取扱上支障有之旨申出ノ向モ有之候處右ハ原則トシテ現拂ニ改メタルモ警察官署ニ於テ現金支出上差支アリ其旨當該縣長ヘ申出タル時ハ縣長ヨリ所屬長ヘ經向ノ上隨時後拂取扱ヲ爲シ得ル趣ニ付右ニ御了知相成度及通達候也

○「トラホーム」豫防法

(大正八年三月二十七日 法律第二十七號)

第一條 醫師「トラホーム」患者ヲ診斷シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ
當該官吏又ハ吏員ハ必要ト認ムルトキハ「トラホーム」患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

ル施設ヲ爲スヘシ

- 第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス市町村ニ對シ其ノ費用ノ補助ヲ爲スヘシ
- 第七條 國庫ハ前條ノ補助ノ爲其ノ他「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ六分ノ一ヲ補助ス
- 第八條 官廳、公署、官立公立ノ學校製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號ノ規定ニ準シ「トラホーム」ノ豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ
- 第九條 第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス
- 第十條 第四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第十一條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ
一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治產者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戶主ノ後見人
二 教育、監護又ハ備使ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人
- 第十二條 本法中市町村トシテハ市制町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附 則

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

第二條 「トラホーム」患者ハ連ニ醫師ノ治療ヲ受クヘシ

第三條 行政官廳ハ「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受クルノ途ナキ者ニ對シ治療ヲ施行スルコトヲ得

第四條 行政官廳ハ「トラホーム」豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

- 一 檢診ヲ施行スルコト
 - 二 「トラホーム」患者ニ對シ客ニ接スル業務ニ從事スルヲ停止スルコト
 - 三 學校、幼稚園、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ「トラホーム」豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト
- 地方長官ニ於テ前項第一號ノ檢診ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
- 第五條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ「トラホーム」ノ豫防及治療ニ關スル事項ヲ行フ

○「トラホーム」豫防法施行規則

(大正八年八月二十三日 府縣省令第十三號)

- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年勅令第四一三號) 以下同(九月一日ヨリ施行)
- 第一條 「トラホーム」豫防法第一條第一項ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ左ノ各號ニ準據スヘシ
一 患者ノ手拭ハ專用トシ其ノ清潔ニ注意スルコト
二 洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スルコト
三 患者ノ常用シタル手拭、洗面器ノ類ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシムルトスルトキハ者沸スルカ又ハ熱湯ヲ以テ洗淨スルコト
四 眼脂ヲ拭フニハ清潔ナル専用ノ布片類ヲ用キルコト
五 指爪ヲ短剪シ顔面手指ノ清潔ニ注意スルコト
 - 第二條 學校、幼稚園、製造所又ハ鐵道、電車、船舶、自動車、馬車等ノ發着待合所、劇場、寄席、活動寫眞館、旅店、下宿屋、料理店、理髮店、湯屋其ノ他地方長官ノ指定シタル多衆ノ集合スル場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於テハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ
一 手拭又ハ共用手拭ヲ備ヘサルコト但シ使用者毎ニ清潔ナルモノヲ使用セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス
二 手洗水ハ流出裝置トナスコト
 - 第三條 「トラホーム」豫防法第六條ノ規定ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ノ補助ハ左ノ區分ニ依ル但シ市町村ノ支出額三十圓未滿ナルトキハ補助セサルコトヲ得
一 治療ニ關スル費用ハ支出額ノ四分ノ一以上
二 豫防ニ關スル費用ハ支出額ノ六分ノ一以上
- 前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

額ヲ謂フ
第四條 「トラホーム」豫防法第三條行政官廳ノ職務ハ警察署長又ハ警察分署長、同法第四條行政官廳ノ職務ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ
「トラホーム」豫防法及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附 則

本令ハ「トラホーム」豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎「トラホーム」豫防法中疑義ノ件

(大正十年六月二十一日) (内務省發給第一六八號通達)

各地長官宛

- 一、「トラホーム」豫防法第四條第一項第一號及結核豫防法第四條第一項第一號第二號ノ事項ニ付テハ行政官廳ハ現ニ官公立ノ學校製造所等ノ管理權ニ服シテ、アル者ニ對シテ其ノ權限ヲ及ボジ得サルモノトス
- 二、「トラホーム」豫防法上必要アル場合ニ於テハ「トラホーム」疑似症ハ「トラホーム」豫防法第四條第三號第五條第六條第七條第八條ノ規定ニ依リ取扱フコトヲ得ルモノトス

◎「トラホーム」豫防法及結核豫防法中疑義ニ關スル件

(大正九年九月二十四日) (内務省發給第一四一號ノ内通達)

地方長官宛 (岡山縣ヲ除ク)

- 一、「トラホーム」豫防法第五條ニ依リ地方長官ハ豫防及治療ノ爲メ市町村醫ノ設置ヲ命シ猶市町村長ニ命シテ該醫師ヲシテ市町村住民ノ檢診ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其ノ檢診ヲ要スル費用ハ「トラホーム」豫防法第四條第二項ニ依リ縣ノ負擔トス
- 二、地方長官ハ「トラホーム」豫防法第四條第一項第三號ニ依リ私立ノ學校及製造所等ニ對シ醫師ノ設置ヲ命スルコトヲ得ヘク又其ノ場所ノ管理

◎傳染病豫防ノ爲メ物件輸入禁止ニ關スル件

(明治三十三年十一月十八日) (勅令第四百三十四號)

フ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シシ生徒、職工タル「トラホーム」患者ノ治療ヲ命スルコトヲ得ヘシ而シテ公立ノ學校製造所等ニ對シテハ同法第八條ノ規定アルカ放ニ第四條第一項第三號ノ規定ニ依リテハ之カ設置ヲ命スルコトヲ得サルモ其ノ公立ノ學校カ地方長官ノ監督ノ下ニ在ルモノナルニ於テハ監督權ノ作用トシテ第八條ノ規定ニ依リ之ヲ命スルコトヲ得ヘク其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ當該患者ノ治療ヲ命スルニ付テモ亦此ノ方法ニ依リ行フヲ得ヘキモノト存ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎「ペスト」豫防ノ爲メ檳榔古綿等輸入禁止ノ件

(明治三十三年十一月十八日) (勅令第四百三十四號)

「ペスト」豫防ノ爲メ當分ノ内印度、(清國)諸港、香港及臺灣ヨリ檳榔、古綿、古著類、古紙類、古革皮類、古羽毛類、古敷物類、古麻袋類ノ輸入ヲ禁止ス但シ特別ノ事由アリテ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

◎「ペスト」菌取扱取締規則

(明治三十四年十二月二十五日) (内務省發給第三十九號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 生活「ペスト」菌又ハ之ニ疑ハシキ細菌ヲ培養又ハ動物試驗等ヲ行ハントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ
 - 一 検査所ノ名稱及位置
 - 二 検査所建物ノ構造、敷地ノ坪數及圖面
 - 三 所長、主任者及主任代理者ノ氏名、履歷
 前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ更ニ認可ヲ受ケヘシ
- 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得
- 第二條 検査所ノ開始及廢止ハ五日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ
- 第三條 検査所ハ他ノ建物ト隔離スヘシ但シ一建物ヲ區畫シテ其ノ一部ニ検査所ヲ設クルコトヲ得
- 検査所ニハ少クモ左ノ三室ヲ設ケ其ノ出入口ノ戸扉ニハ鎖鑰ヲ備フヘシ
 - 一 「ペスト」菌ノ培養及顯微鏡検査室
 - 二 試驗動物ノ收容及解剖室
 - 三 消毒室
- 第四條 検査所各室ノ床及側壁ハ不透透質ノ材料ニテ造リ洗滌消毒ニ便スヘシ
 - 窓、換氣孔、排水孔其ノ他外部ニ開口スル孔障ハ蚊蠅ノ出入ヲ防クニ足ルヘキ緻密ナル金網ヲ以テ被フヘシ
 - 汚水溜ニハ蓋ヲ設ケ其ノ周壁及排水管ハ不透透質ノ材料ニテ造ルヘシ
- 第五條 検査所ニ於テハ左記ノ器具、裝置ヲ設備スヘシ
 - 一 生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ノ容器
 - 二 試驗動物容器(前子器若ハ培養又ハ金屬板ヲ張りタル箱ニシテ金網製ノ蓋ヲ有スルモノ)

三 消毒裝置(燒却爐、蒸氣消毒器、乾熱消毒器、消毒藥劑ノ類)

- 四 其ノ他「ペスト」菌ノ検査ニ必要ナル物品
- 第六條 検査所主任及其ノ代理者ハ「ペスト」菌ノ培養、「ペスト」菌ノ検査及試驗動物ノ取扱其ノ他ノ取締ニ關シ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
 - 一 主任又ハ其ノ代理者ノ在ラサルトキハ助手、使丁ヲ検査室ニ留マラシムヘカラス
 - 二 検査室、動物室、消毒室等ニハ他人ヲ入ラシムヘカラス
 - 三 何人ト雖モ検査室、動物室、消毒室ニ入ル際ハ豫防衣ヲ著シ出ルトキハ之ヲ脱シ手足ヲ消毒スヘシ又室内ニ於テハ飲食、喫煙スヘカラス
 - 四 豫防衣ハ一週二回以上消毒ヲ行ヒ之ヲ洗濯スヘシ若病者ニ汚染シタルトキハ其ノ都度消毒ヲ行フヘシ
 - 五 検査室ニハ無用ノ物品ヲ置クヘカラス
 - 六 室内ノ物品ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非レハ他ニ搬出スヘカラス
 - 七 生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ハ確實ニ閉鎖シ得ヘキ容器ニ納メ主任又ハ其ノ代理者ノ外手ヲ觸ルヘカラス
 - 八 汚物又ハ汚物ニ觸レタル物品ハ速ニ消毒ヲ行ヒ又ハ燒却スヘシ
 - 九 一度検査室ニ入レタル動物ハ撲殺ノ上燒却スヘシ
 - 十 斃死シタル試驗動物ハ燒却スヘシ
 - 十一 汚水溜ノ汚水ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ搬出スヘカラス
 - 十二 主任又ハ其ノ代理者検査室ヲ退出スルトキハ出入口ノ戸扉ニ鎖鑰ヲ施スヘシ
 - 第七條 生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ノ紛失又ハ試驗中ノ動物逸シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ直ニ所轄警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ
 - 第八條 生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ハ何人ト雖モ之ヲ授受スルコ

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

トフ得ス但シ検査所問又ハ官廳ト検査所問若ハ警察官署ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 生活「ベスト」菌ヲ運送スル場合ニハ培養物ヲ入レタル硝子管ヲ熔閉シ燻過紙又ハ綿等柔軟ナル物ヲ以テ被包シ「プリキ」罐内ニ入レ更ニ之ヲ木箱ニ納メ柔軟ナル物ヲ以テ填充シテ嚴封ヲ施シ「注意物」ト明記スヘシ

患者若ハ死體等ヨリ採取シタル検査材料ヲ運送スル場合ニハ之ヲ密閉シ得ル硝子罐内ニ納メ前項ニ準シテ之ヲ處置スヘシ

第十條 診断ノ目的ヲ以テ臨時施行スル醫師ノ検査ニ對シテハ本則ヲ適用セシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ検査ヲ停止スルコトヲ得

第十一條 第一條第八條ニ違背シタル者ハ二十五回以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第二條第七條ニ違背シタル者ハ十回以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十三條 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ行フ「ベスト」函取扱ニ關シテハ本則ノ規定ヲ準用ス

第十四條 本則施行ノ際現存スル検査所ハ明治三十五年六月三十日迄ニ本則ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

前項ノ期間内ハ其ノ事業ヲ繼續スルコトヲ得

●傳染病患者鐵道乘車規程

第一條 傳染病患者ヲ乘車セシムルトキハ鐵道ハ列車ヲ指定シ其ノ他運送上旅客及公眾ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

第二條 前條ノ申込ヲ受ケタルトキハ鐵道ハ列車ヲ指定シ其ノ他運送上旅客及公眾ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

第三條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ當該吏員ヨリ移送認可ヲ得ルコトヲ要ス

得ス検査ノ成績ヲ表示セントスル場合ニハ其ノ成績ノ全文ヲ記載スヘシ之ヲ増減變更スルコトヲ得

前項ノ規定ニ違反シタル者又ハ傳染病研究所ノ検査ヲ詐稱シタル者ハ拘留以下ノ科料ニ處ス

●海港檢疫法

第一條 海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ内務大臣之ヲ指定ス

第二條 海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其入港前ニ於テ此ノ法律ニ依リ檢疫ヲ受ケ得タル後ニ非レハ其ノ港ニ入港シ陸地又ハ他船舶ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得

第三條 船長其ノ他ノ乗組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ之ニ應

答シ又船長其ノ他ノ乗組員ハ檢疫官吏ノ請求アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其ノ氏名ヲ署シタル明告書ヲ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應ジテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船中船客又ハ乗組員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病ニ汚染シタル疑アルトキニ限り其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ入港前ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲グヘシ

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノ

第五條 海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ港内ニ碇泊中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルモノハ前條ノ規

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

得タルコトヲ證明スルニ非サレハ乘車セシムルコトヲ得

第四條 傳染病患者ニハ少クトモ一人ノ附添人ヲ附スルコトヲ要ス

第五條 傳染病患者ハ貨切車ヲ以テ運送シ普通旅客ト其ノ車輛ヲ區別シ當該掛員ノ外一切之カ交通ヲ遮斷スヘシ

第六條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ移送ノ認可ヲ受ケタル地ノ外輿リニ下車セシムルコトヲ得

第七條 傳染病患者ヲ搭載セル車輛ハ其ノ入口ニ「傳染病者」ノ四字ヲ揭示スヘシ

第八條 傳染病患者車中ニ於テ死亡シタルトキハ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

第九條 乘車中傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ速ニ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

第十條 車輛、器具ノ消毒其ノ他傳染病豫防ニ關スル取締ハ一般法令ノ規定ニ依ル

第十一條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十三年十月一日ヨリ施行)

附則

第一條 傳染病研究所ハ豫防、消毒、治療材料(診斷材料ヲ含ム)ノ検査及病原ノ検査上排泄物、分泌物又ハ血液等ニ就キ細菌學の検査ヲ請フ者アルトキハ其ノ請求ニ應ジ検査ノ成績書ヲ交付ス

第二條 検査ノ請求及検査料ノ納付ニ關スル手續料率ハ東京帝國大學總長ニ於テ文部大臣及内務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ム

第三條 本令ニ依リ検査ヲ受ケタル物ニ就キ廣告揭示印刷物又ハ容器包紙ニ傳染病研究所ノ保證、検査濟其ノ他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ

答シ又船長其ノ他ノ乗組員ハ檢疫官吏ノ請求アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其ノ氏名ヲ署シタル明告書ヲ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應ジテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船中船客又ハ乗組員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病ニ汚染シタル疑アルトキニ限り其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ入港前ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲グヘシ

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノ

第五條 海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ港内ニ碇泊中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルモノハ前條ノ規

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

定ニ從ヒ検査信號ヲ掲ケ其ノ地ノ警察官吏ニ届出テ指揮ヲ待ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ検査ヲ施行スル港ニ回航
ニテ検査ヲ受ケヘシ

第一項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航シ陸地又ハ他
船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

警察官吏ニ於テ第一項ノ事實アリト認メ其ノ旨ヲ告知シタル場合亦前二
項ニ同シ

第六條 検査官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ停船ヲ命シ患者死者又ハ物件
ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒方法若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除
ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル期間船客乗組員ヲ
検査所又ハ船中ニ停留スルコト

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處
分スルコト

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病汚
染シ若ハ汚染シタル疑アルモノハ必要アリト認ムルトキ第一號ノ規定ニ
準シテ處分スルコト

四 停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病汚染ノ若ハ汚染シタ
ル疑アルコトヲ發見シタルトキハ、更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

五 傳染病ノ疑アル患者アルトキ又ハ傳染病ノ病原検査上必要アルトキ

ニ限リ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六 發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒方法又ハ鼠
族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行スルコト、

検査官吏ハ船舶シテ前項ノ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施
行セシムルコトヲ得

第七條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ検査官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其
ノ許可ヲ得ルニ非レハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

入港後前條第一項第五號ノ規定ニ依リ停船ヲ命セラレタル船舶ハ検査官
吏ノ許可ヲ受ケルニ非レハ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物
件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 検査所ニ移轉セシメラレタル船客乗組員ハ検査官吏ノ許可ヲ得ル
ニ非レハ本船其ノ他ト交通シ若ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第九條 船舶及物件ノ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ検査官吏力施
行スル場合ニ於テハ船長其ノ他ノ乗組員ハ其ノ施行上ニ關シ之ヲ補助ス
ルノ義務アリ

前項ノ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ニ關スル費用ハ船主船長若ハ其
ノ代理人ヨリ徴收ス

第十條 検査所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ハ
其ノ乗組員ニ屬スルモノハ船長若ハ其ノ代理人ヨリ其ノ船客ニ關スルモノハ
本人ヨリ之ヲ徴收ス

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

本條及第九條第二項ノ費額及其ノ徴收ニ關シ必要ノ規程ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム

第十條ノ二 検査官吏ハ職務執行上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ
無償ニテ船舶ニ乗込ムコトヲ得

第十一條 第二條第五條第七條第八條ノ規定ニ違背シタルモノハ二千圓以
下ノ罰金ニ處ス

第十二條 此ノ法律ヲ執行シ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ検査官吏ノ尋問ニ
對シテ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ事實ヲ答辯シ又ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ
五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乗組員ノ之ヲ犯
スヲ知テ制止セザルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條ノ二 此ノ法律ハ朝鮮臺灣又ハ樺太ヨリ來ル船舶ノ検査ニ關シ
之ヲ準用ス

第十二條ノ三 朝鮮臺灣又ハ樺太ヨリ來ル船舶、内務大臣ノ指定スル
海外諸港ヨリ來ル船舶及此ノ法律ヲ適用シ難キ船舶ニ對スル検査ニ關シ
テハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

附 則

第十三條 内外國ノ軍艦ニシテ検査ヲ施行セル港ニ來航スルニ當リ第四條
第一項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長及醫官ヨリ書面ヲ以テ檢
疫官吏ニ其ノ旨ヲ明告スヘシ

●海港検査法施行規則

(明治四十年六月二十五日)
(内務省令第十三號)

(改正)
(大正三年)
(省令第一四號)

(同四年)
(省令第一〇號)

(同六年)
(省令第八號)

(同九年)
(省令第九號)

(同十年)
(省令第二〇號)

(同十一年)
(省令第二五號)

内外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項第四條第一項各號ノニ該當スル事實
アルモノハ検査官吏ニ於テ其艦ト陸地又ハ他船トノ交通乗組員ノ上陸、
物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同上ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當ス
ル場合ハ其ノ地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及醫官ヨリ其ノ旨ヲ
検査官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ外軍艦ニ對スル検査ハ検査官吏ニ於テ艦長ト協議シ此ノ法律ノ
規定ニ準シテ執行スルモノトス

第十四條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治三十二年勅令第三
四日ヨリ施行)

第十五條 明治十二年第二十九號布告明治十五年第三十一號布告明治二十
四年勅令第六十五號明治二十七年勅令第五十六號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ
廢止ス

第一條 検査ヲ施行スル海港ハ大阪港、横濱港、神戸港、長崎港、門司港、

第三編 第二編 衛生 第一章 傳染病

敦賀港、下關港、若松港、三池港及口ノ津港トス其ノ他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

下關港、若松港ニ來ル船舶ハ門司港ニ於ケル檢疫所ノ檢疫ヲ受ケヘシ
檢疫官東海港檢疫法第六條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ大阪港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ兵庫縣和田岬ニ、横濱港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ長濱ニ、三池港及口ノ津港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ長崎縣女神ノ回航セシムルコトヲ得

第二條 海港檢疫法第六條第一項ノ處分ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ内務大臣ハ處分ノ必要アル船舶ヲ他ノ檢疫所ニ回航セシムルコトアルヘシ

第二條 檢疫ヲ施行スル傳染病ハ「コレラ」、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱トス其ノ他ノ傳染病ニ對シ臨時檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第二條ノ二 海港檢疫法ニ依ル檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ同一航海中檢疫ヲ施行スル他ノ港ニ來ルモノニ對シテハ檢疫官吏ニ於テ海港檢疫法第三條第一項ノ明告書及船舶ノ狀態ニ依リ船客乗組員ノ檢査其ノ他檢査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ海港檢疫法第二條ノ許可證ヲ交付スヘシ

第三條 海港檢疫法第六條第一項第一號ノ停泊期間ハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ペスト」ハ十日以内、「コレラ」ハ五日以内トス但シ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シタル船舶ニ付テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ニ付テハ事實アリタル時ヨリ起算ス

停船中ト雖モ檢疫官吏ハ一定ノ條件ニ該當スル場合ニ於テ停泊ノ必要ナシト認ムル船客乗組員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ許可スルコトヲ得
第四條 海港檢疫法第六條第一項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ停泊ノ必要アル船舶ニ對シテハ

第三編 第二編 衛生 第一章 傳染病

警察官吏若シ其ノ船舶ノ檢疫ヲ施行スル海港ニ回航シ難シト認ムル場合又ハ相當ノ處置ヲ爲シ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ檢疫所ニ回航セシメス船長及其ノ他ノ乗組員ヲシテ相當ノ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ハ船主、船長若ハ其ノ代理人ノ負擔トス

第十二條 停船中ノ船舶ニシテ特別ノ事情ニ因リ船長又ハ其ノ代理人ニ於テ海外諸港ニ通航センコトヲ請求シタルトキハ檢疫官吏ハ相當ノ設備アル船舶ニ限り條件ヲ附シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第十三條 海港檢疫法第十條ノ二ニ依リ檢疫官吏ノ乗船スルハ左ノ各號ノ場合ニ限ル

- 一 他ノ港ニ回航セシムルトキ
- 二 帝國内他港ニ進航スル船舶内ニ傳染病ノ疑アル患者又ハ「ペスト」ノ疑アル鼠アリテ特ニ乗船調査ヲ必要ト認メタルトキ
- 三 前條第二項ノ通航ヲ許可シタルトキ
- 四 第二十條ニ依リ航海中檢疫ヲ施行セシムルトキ

第十四條 傳染病流行地及海港檢疫法第六條第一項第六號ノ發航地又ハ寄港地ニ該當スヘキ地方ハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

前項後段ノ指定地方ヨリ別ニ告示ヲ以テ指定セル港ニ來航スル船舶ニ對シテハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ行フモノトス但シ積荷ノ種類等ニ依リ檢疫官吏ニ於テ必要ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

要アル船客乗組員ヲ檢疫所ニ移轉セシメタルトキハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル船舶ノ停泊ヲ解除スルコトヲ得

消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル船舶ニシテ相當設備アルトキハ停泊ノ必要アル船客乗組員ヲ船内ニ隔離シ條件ヲ附シテ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五條 海港檢疫法第六條ノ處分ニ關シ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル場合ニ於テ檢疫官吏ハ消毒方法ヲ施行セサル貨物ニ對シ條件ヲ附シテ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第六條 海港檢疫法第三條第一項ノ明告書ハ附錄様式ニ據ルヘシ

第七條 傳染病及其ノ疑アル患者ハ檢疫所ノ病室ニ入ラシムヘシ但シ痘瘡又ハ猩紅熱ナルトキハ本人ノ請求ニ依リ相當ノ設備アル他ノ病院ニ入ラシムルコトヲ得

第八條 檢疫所ノ停泊所ニ移轉セシメタル船客乗組員ニ傳染病ヲ發生シタルトキハ其ノ全部若ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ第三條第一項ノ期間停泊ヲ繼續ス

第九條 海港檢疫法第四條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル船舶ニシテ海外ノ港ニ於テ消毒ノ處分ヲ受ケタルモノト雖モ其ノ消毒ヲ受ケタル時ヨリ起算シ二週日以上ヲ經過セサルモノニ對シテハ同法第六條第一項第三號ニ依リ處分スルコトヲ得

第十條 死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其ノ遺骨ハ引取人又ハ船長若ハ其ノ代理人ニ引渡スヘシ若シ引取人ナク船長若ハ其ノ代理人在ラサルカ又ハ引取ヲ拒ムトキハ行政病人及行政死亡人取扱法ニ依リ處分スヘシ

親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒傳播ノ慮ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ最寄檢疫所ニ回航セシムヘシ但シ船長又ハ其ノ代理人ノ請求アルトキハ他ノ檢疫所ニ回航セシムルコトヲ得

ルトキハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ行フヘシ
前二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ船長又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ其ノ證ヲ交付スヘシ
本條ノ處分ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ同一航海中再ヒ同一ノ處分ヲ行フコトナシ

第十五條 消毒費ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス但シ内外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

船舶消毒費	積荷消毒費
總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿	一箇ニ付 參拾錢
同 百噸未滿又ハ積石數五百石未滿	二箇ニ付 參拾錢
同 百噸以上千噸未滿	四拾圓
同 千噸以上二千噸未滿	六拾圓
二千噸以上一千噸未滿ヲ増ス毎ニ貳拾圓ヲ加フ	
局部消毒費ハ各其ノ四分ノ一トス	
船客乗組員ノ衣服、手荷物、所持品ノ消毒費	一箇ニ付 貳拾錢
一等二等船客及之ニ準スヘキ乗組員 一人分ニ付 貳圓	
三等船客及之ニ準スヘキ乗組員 一人分ニ付 貳拾錢	

第十六條 檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費、患者死者ニ關スル費用及鼠族、昆蟲等ノ驅除費ノ徵收額ハ地方長官之ヲ定ム

第十七條 内外國ノ病院船ニ對スル檢疫ハ軍艦ニ準シ之ヲ施行ス
第十八條 海港檢疫法第十二條ノ三ニ依リ海外諸港ヲ指定スルコト左ノ如シ
關東州諸港
前項以外ノ海外諸港ニ付必要アルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス
第十九條 朝鮮、臺灣、樺太及關東州ヨリ來ル船舶ニ對シテハ海港檢疫法

第四條各號ノ一ニ該當スルモノ及關東州以外ノ海外諸港ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スルモノヲ除クノ外檢疫官吏ハ入港後檢疫ヲ施行スルコトヲ得

前項ニ依リ入港後檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ第二條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第二十條 內務大臣必要アリト認ムルトキハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州及第十八條第二項ニ依リ告示ヲ以テ指定スル海外諸港ヨリ來ル船舶ニ付檢疫官吏ヲ乗込マシメ航海中檢疫ヲ施行セシムルコトアルヘシ

第二十一條 納噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニ對シテハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スル場合ニ限リ海港檢疫法ヲ適用ス

附錄樣式

一、船種	船種	船名
二、總噸數	登簿噸數	
三、船主又ハ其ノ代理人	發航月日	
四、發航地名	發航月日	
五、寄港地名	發航月日	
六、船客	一等 船客男名	
	二等 船客男名	
	三等 船客男名	
	三等 船客女名	
	其ノ他ノ船客男名	
	其ノ他ノ船客女名	
	計 男名	
	計 女名	
七、乘組員事務員以上ノ船員	名	
八、飲料水ヲ汲入レ若ハ食料ヲ積入レタル地名	名	
九、積荷ノ種類及搭載セン地名	名	
十、積荷中糞、古綿等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名	名	
十一、出向地		
十二、航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、「黃熱」、「瘧疾」、「猩紅熱」又ハ該病疑似症ノ有無		
十三、航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、「黃熱」、「瘧疾」、「猩紅熱」ノ外病者ノ有無若アラハ其ノ病名		
十四、航海中寄港中及現在船中ニ死者ノ有無若アラハ其ノ病名		
十五、航海中寄港中「ペスト」、「コレラ」、「黃熱」、「瘧疾」、「猩紅熱」アリタル船及疑ハシキ船トノ交通ノ有無		
十六、航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」鼠又ハ「瘧鼠」ノ有無		
十七、他港ニ於テ検査消毒停船ノ有無		
右之通相違無之候也		
年 月 日		
船長	某 某	
船醫	某 某	

●夜間檢疫信號

夜間檢疫信號左ノ通相定ム但晝間檢疫信號ハ萬國船舶信號ニ依ル

一 檢疫船前橋(船首燈泊燈ノ位置ヨリ凡ソ五尺以上ノ高サニ於ル)ニ於テ綠色球燈一箇赤色球燈一箇各三呎ヲ距テ縱ニ連掲シ檢疫船ノ信號トス

一 船舶ノ進航ヲ止メントスルトキハ其入船ヲ見掛ケタル時大砲ヲ一發シ船ヲ止ムルノ信號トス

一 檢疫船碇泊ノ時ハ船首船尾ニ各一箇ノ碇泊燈ヲ掲ケ

●内地産獸毛消毒規則

第一條 内地産獸毛ノ消毒ヲ行フ稅關又ハ臨時海港檢疫所ニ内地産獸毛ノ消毒ヲ依頼セムトスル者ハ現品ヲ添ヘ第一號樣式ノ消毒依頼書ヲ差出スヘシ

獸毛ノ被包ハ當該官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第二條 内地産獸毛ノ消毒ヲ依頼シタル者當該官吏ヨリ消毒済ノ通知ヲ受ケタルトキハ二日以内ニ第二號樣式ノ受領書ヲ差出シ現品ヲ引取ルヘシ

第三條 當該官吏ハ貼付印紙ノ手数料金額ニ相當スルコトヲ確認シタル後書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ用キ消印ヲ捺捺スヘシ但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一號樣式

收入	消毒依頼書	
印紙	貼付シタル收入印紙ノ額	
品名	斤量	箇數
右消毒ヲ依頼ス		
年 月 日		
住所	何縣臨時海港檢疫所長	宛
依頼者	氏	名
	氏	名

第二號樣式

受領書		
品名	斤量	箇數
右消毒済ニ付受領ス		
年 月 日		
住所	何縣臨時海港檢疫所長	宛
依頼者	氏	名
	氏	名

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

第三輯 第二編 衛生 第一章 傳染病

健全證書交付手續

(明治三十五年三月二十九日) 内務省令第九號
(改正) (大正一三年) 省令第三三號

第一條 外國通ヒノ船舶出港セントスルトキハ海港檢疫ヲ施行スル地ニ於テハ其地ノ稅關長ニ、臨時海港檢疫ヲ施行スル地其他ノ地ニ於テハ其地ノ地方長官ニ健全證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第二條 前條ノ申請ハ稅關支署ニ於テ海港檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ稅關支署長ニ、臨時海港檢疫所ノ設ケアル港ニ於テハ臨時海港檢疫所長ニ差出スヘシ

第三條 健全證書ノ交付ヲ申請スルモノハ手数料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第四條 健全證書ハ左ノ書式ニ依ル

健全證書	
現時何港ニハ傳染病 虎列刺、赤痢、腸管扶私、痘瘡、發疹、瘰癧、ノ流行之レナク且日本日出港(船名)ノ健全ナルコトヲ證明スル爲メ	
此證書ヲ船長某ニ附與ス	
年 月 日	地方長官
	稅關長

附 則

第五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス
明治二十七年内務省令第三號健全證書交付ノ件及明治三十二年内務省令第四十號健全證書交付手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

衛生 第二章 獸疫

第二章 獸疫

- 家畜傳染病豫防法 大正二年 法律二九號……一頁
- 家畜傳染病豫防法施行規則 大正二年 農令一號……五
- 支那、西伯利亞生牛輸入禁止ノ件 明治四二年 農令三三號……七
- 家畜傳染病豫防法施行心得 大正二年 農訓一號……七
- 家畜傳染病豫防ニ關スル消毒方法 大正二年 農告九號……一〇
- 家畜傳染病檢疫規則 大正二年 農令二號……二二
- 家畜傳染病豫防法ニ依リ交付スル手當金ノ最高金額ニ關スル件 大正二年 勅令八號……二五
- 畜牛結核病豫防法 明治三四年 法律三五號……二六
- 畜牛結核病豫防法施行規則 明治三六年 農令四號……一八
- 畜牛結核病豫防法第十三條ノ規定ニ依リ下付スル手當金ノ最高金額ニ關スル件 大正一〇年 勅令二五號……二四
- 家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ニ關スル件 大正二年 勅令九號……二四
- 畜牛結核病豫防心得 明治三六年 農告二六九號……二五
- 畜牛結核病豫防法ニ依ル検査員職務規程 明治三六年 農訓九號……二六

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

○獸疫調査所血清類賣拂規則 大正二年 農令三號……二九頁

第二章 獸疫

◎家畜傳染病豫防法

(大正十一年四月十日)
法律第二十號

第一條 本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、緬羊、山羊、豚、犬、鷄及鷺ヲ謂ヒ傳染病ト稱スルハ牛疫、炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛ノ傳染性肋膜炎、流行性驚口瘡、狂犬病、羊痘、豚虎列刺、豚疫、豚丹毒、牛ノ傳染性流産、馬、緬羊、山羊ノ疥癬、加奈陀馬痘及家禽虎列刺ヲ謂フ

畜類傳染病豫防上必要アルトキハ勅令ヲ以テ前項ノ家畜又ハ傳染病以外ノ畜類又ハ傳染性病ニ付本法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條 家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アルトキ又ハ牛疫若ハ狂犬病ニ感染シタル處アルトキハ所有者、保管者又ハ診斷若ハ檢案シタル獸醫ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨届出ツヘン但シ家畜カ船車ニ搭載スルモノナルトキハ船長、鐵道係員又ハ軌道係員ハ最初ニ寄港又ハ停留シタル地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ届出ツヘン

第三條 前條ノ家畜ニ付テハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ家畜ノ隔離其ノ他傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘン前項ノ家畜ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ殺スコトヲ得ス但シ鷄及鷺ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 家畜カ牛疫ニ罹リ若ハ之ニ感染シタル處アルトキ又ハ狂犬病ニ罹リタルトキハ所有者又ハ保管者ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ殺スヘン但シ牛疫ニ感染シタル處アル家畜ニシテ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行フモノハ此ノ限ニ在ラス

狂犬病ニ罹リタル犬ニ付所有者又ハ保管者緊急ノ必要アリト認ムルトキハ前項ノ指揮ヲ待タズシテ之ヲ殺スコトヲ得

第五條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛ノ傳染性肋膜炎、流行性驚口瘡、羊痘、豚虎列刺、豚疫、豚丹毒、緬羊、山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リタル家畜ニ付所有者又ハ保管者ニ對シテ之ヲ殺スコトヲ命スルコトヲ得牛疫ニ感染シタル處アル家畜ニシテ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行ヒタルモノニ付亦同シ

地方長官ハ前項ノ家畜ニ付所有者又ハ保管者知レサル等ノ爲前項ノ規定ニ依リ命令ヲ爲スコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ之ヲ殺サシムルコトヲ得

第六條 地方長官傳染病豫防上病性鑑定ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ノ屍體ヲ剖檢セシメ又ハ剖檢ノ爲家畜ヲ殺サシムルコトヲ得

第七條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニテ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防疫ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハムルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員前項ノ場合ニ於テ助力ヲ求ムルトキハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ之ヲ拒ムコトヲ得

第八條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル處アル家畜ノ屍體ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒却又ハ埋却スヘシ但シ鷄及鷺ノ屍體ニ付テハ指揮ヲ待タズシテ之ヲ燒却又ハ埋却スルコトヲ得

前項ノ規定ハ假性皮疽又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體及牛ノ傳染病性流産又ハ馬、山羊、羊、疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化學製スルモノ、竝牛ノ傳染性流産又ハ馬、山羊、羊、疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ殺屍體ニ之ヲ適用セス病性鑑定又ハ學術研究ノ爲メ地方長官ノ許可ヲ受ケタル家畜ノ屍體ニ付亦同シ

第九條 傳染病ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ但シ家畜虎列刺ノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タズシテ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スルコトヲ得

前項又ハ第五條第二項ノ場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但シ北海道地方費又ハ府縣費ハ第二十三條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ノ定ムル所ニ依リ個人ノ負擔ニ屬スル費用ヲ其ノ個人ヨリ徵收スルコトヲ得

第十五條 警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舎、船車其ノ他家畜ノ所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十六條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ區域ヲ限リ一定種類ノ家畜ノ出入若ハ往來又ハ其ノ家畜ノ屍體若ハ傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ運搬ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上緊急ノ必要アリト認ムルトキハ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル處アル家畜ノ所在ノ場所及其ノ隣接區域ニ對シ一定ノ期間交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第十七條 地方長官狂犬病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ道路、公園、社寺境内、墓地其ノ他ノ場所ニ徘徊スル犬ヲ抑留セシムルコトヲ得警察官吏前項ノ規定ニ依リ犬ヲ抑留シタルトキハ其ノ所有者又ハ保管者ニ其ノ旨通知シ之ヲ受領セシムシ所有者及保管者知レサルトキハ抑留ノ旨ヲ公示スヘシ前項ノ規定ニ依リ公示後命令ノ定ムル期間内ニ犬ノ返還ノ請求ヲナキ

第十條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ若ハ牛疫ニ感染シタル處アル家畜ノ屍體又ハ傳染病ノ病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アル物品ヲ埋却シタル土地ハ之ヲ發掘スルコトヲ得但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル處アル家畜ノ所在ノ畜舎、船車其ノ他ノ場所ハ其ノ所有者、管理人、船長、鐵道係員又ハ軌道係員ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ消毒スヘシ但シ家畜虎列刺ノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タズシテ之ヲ消毒スルコトヲ得

第十二條 傳染病ノ病毒ニ觸接シ又ハ觸接シタル疑アル者ハ直ニ消毒ヲ爲スヘシ警察官吏又ハ家畜防疫委員必要アリト認ムルトキハ前項ノ消毒ニ付指揮ヲ爲スコトヲ得

第十三條 牛、馬、山羊、山羊又ハ豚カ疾病ノ爲メ斃死シタルトキハ所有者又ハ保管者ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨届出ツヘシ

第十四條 第三條、第四條、第八條、第九條、若ハ第十一條ノ規定ニ依リ義務者又ハ第五條ニ規定スル處分ニ依リ義務者カ其ノ義務ニ屬スル事項ヲ行ハス又ハ行フコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ行フコトヲ得

ハ地方長官ハ其ノ大ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ屠場若ハ化學製場ノ事業ノ停止又ハ家畜市場、家畜共進會若ハ競馬會ノ開設其ノ他家畜ヲ集合セシムル施設ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十九條 農商務大臣傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類其ノ他傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ輸入又ハ移入ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二十條 家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類ハ傳染病豫防ノ爲メ施行スル檢疫ヲ受ケルニ非サレバ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得

第二十一條 檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ航海日誌其ノ他ノ書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十二條 第二條乃至第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條ノ規定ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ檢疫官吏トス

第二十三條 傳染病豫防ニ關スル費用ハ國、北海道地方費、府縣、市町村又ハ個人ノ負擔トス其ノ負擔區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 地方長官ハ左ノ區分ニ從ヒ家畜又ハ物品ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得

- 一 傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜但シ犬及第七條ノ規定ニ依リ豫防疫ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リタル家畜ヲ除ク 評價額ノ三分ノ一
 - 二 第六條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜 評價額ノ五分ノ三
 - 三 牛疫ニ感染シタル處アリ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜、第七條ノ規定ニ依リ豫防疫ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜及第七條ノ規定ニ依リ免疫血清若ハ豫防疫ノ注射 又ハ藥浴ヲ行ヒタル爲斃死シタル家畜 評價額ノ五分ノ四
 - 四 第九條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ燒却又ハ埋却シタル物品及第十四條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員力燒却又ハ埋却シタル物品 評價額ノ二分ノ一
- 前項ノ規定ハ輸入又ハ移入ニ付検査ヲ施行スル場合ニ於ケル家畜及物品ニ付テハ之ヲ適用セズ
- 第一項ノ評價額ハ地方長官三人以上ノ評價人ヲ選定シテ發病前又ハ病毒汚染前ノ價格ニ依リ之ヲ定メシム地方長官其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシムルコトヲ得
- 第二十五條** 前條ノ手當金ハ所有者又ハ保管者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其ノ家畜又ハ物品ニ付テ之ヲ交付セズ
- 一 第二條、第三條第一項、第四條第一項若ハ第九條又ハ第二十條

- 一 項ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ
 - 三 第六條、第七條第一項又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ
- 第二十六條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第二條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲ササル獸醫
 - 二 第三條、第四條第一項又ハ第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者
 - 三 第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條、第十八條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタル者
 - 四 第五條第二項、第六條、第七條第一項、第十四條第一項又ハ第二十二條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタル者
- 第二十七條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第二條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲ササル所有者、保管者、船長、鐵道係員又ハ軌道係員
 - 二 第八條乃至第十一條ノ規定ニ違反シタル者
 - 三 第十二條第二項ノ規定ニ依ル指揮ニ從ハサル者
 - 四 正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢閱ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者

◎家畜傳染病豫防法施行規則

- (大正十二年一月十九日 農商務省令第一號)
- 第一條** 警察官吏又ハ家畜防疫委員家畜傳染病ノ發生又ハ發生ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨地方長官ニ報告シ且市町村長ニ通報スヘシ
- 第二十八條** 第十三條ノ届出ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス
- 第二十九條** 航海中ノ船舶ニ在リテハ船長ハ第三條、第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス命令ノ定ムル所ニ依リ傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ
- 第三十條** 第三條ノ規定ハ宮内省又ハ國ノ管理ニ屬スル家畜其ノ他ノ物ニ之ヲ適用ス
- 前項ノ規定ハ軍用ノ家畜ニシテ軍需ニ於テ検査ヲ行フモノニ之ヲ適用セズ
- 第三十一條** 本法中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス
- 第三十二條** 本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス
- 本法中市町村トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附 則

- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年勅令第七號ヲ以テ同一年一月二十日ヨリ施行)
- 獸疫豫防法及大正九年法律第三號ハ之ヲ廢止ス
- 本法施行前ニ獸疫豫防法第四條、第四條ノ二、第五條又ハ第八條第一項ノ場合ニ該當シタルモノニ對シテ手當金ノ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
- 前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ旨部内ニ公示スヘシ
- 第二條** 傳染病發生シ又ハ終熄シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨部内ニ告示シ且農商務大臣及隣接府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ
- 牛疫若ハ流行性痘口瘡發生シタルトキ又ハ傳染病蔓延ノ兆アリト認ムルトキハ地方長官ハ農商務大臣並隣接府縣及家畜集放上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ急報スヘシ
- 家畜傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要ト認ムル傳染性病發生シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨農商務大臣ニ急報スヘシ
- 第三條** 假性皮膚、牛ノ傳染性流産、馬糞山手ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜及犬以外ノ家畜ニシテ狂犬病ニ感染シタル處アルモノニ限り警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ隔離ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ隔離以外ノ處置ニ止ムルコトヲ得
- 第四條** 地方長官家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ家畜ニ付検査、免疫血清若ハ豫防疫ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハンメトスルトキハ家畜ノ種類、區域及日時ヲ告示スヘシ但シ緊急ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條** 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル處アル家畜ノ屍體又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アル物品ヲ運搬セムトスルトキハ牛疫、氣腫疽、牛ノ傳染性肋膜炎、流行性痘口瘡又ハ牛ノ傳染性流産ノ場合ニ在リテハ牛、鼻疽、假性皮膚又ハ加奈陀馬痘ノ場合ニ在リテハ馬、炭疽ノ場合ニ在リテハ牛又ハ馬ヲ用ケルコトヲ得
- 第六條** 前條ノ屍體又ハ物品ヲ埋却スル土坑ハ屍體又ハ物品ヲ投入スルモ尙地表迄四尺以上ノ餘地ヲ有スルモノタルコトヲ要シ屍體又ハ物品ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ撒布シ土ヲ以テ填塞スヘシ
- 第七條** 燒却又ハ埋却スヘキ屍體ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ裁切スルコトヲ得
- 第八條** 第五條ノ屍體又ハ物品ノ燒却又ハ埋却ハ人家、飲料水、河流又ハ

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

道路ニ接近セザル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ
前項ノ埋却ヲ爲シタル場所ハ之ヲ標示スヘシ

第九條 家畜傳染病豫防法ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 地方長官家畜傳染病豫防法第十六條第一項又ハ同法第十八條ノ規定ニ依ル停止ヲ命ジタルトキ又ハ之ヲ解除シタルトキハ其ノ旨管内ニ告示シ且農商務大臣並隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第十一條 家畜傳染病豫防法第十七條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ犬ノ種類・性・年齢・毛色及特徴・之ヲ捕ヘタル場所及日時並其ノ抑留ノ場所ヲ記載スヘシ

第十二條 家畜傳染病豫防法第十七條第三項ノ期間ハ三日トス

第十三條 航海中家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ船長ハ其ノ家畜ヲ隔離シ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル場所及物品ハ之ヲ消毒スヘシ

第十四條 家畜防疫委員ハ地方長官其ノ所屬ノ官吏・吏員若ハ市町村吏員又ハ獸醫ノ中ヨリ之ヲ命スヘシ評價人ハ地方長官其ノ所屬ノ官吏・吏員又ハ市町村吏員及畜産業ニ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スヘシ

第十五條 家畜傳染病豫防法第十五條ノ證書ハ別記様式ニ依ル

第十六條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本則中市町村長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準

第七條 家畜傳染病豫防法第十九條ニ依リ當分ノ内支那、西伯利ヨリ又ハ之ヲ經テ生牛ヲ輸入スルコトヲ停止ス但シ食用ノ爲ニスルモノニシテ検査ヲ受ケタル後直ニ検査官ノ指定シタル屠場ニ於テ屠殺スルモノハ此ノ限ニ在ラス
本令ハ明治四十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
改正 (大正一二年) 農商務省令第三十三號 (省令第四號)

支那、西伯利ヨリ生牛輸入禁止ノ件

家畜傳染病豫防法第十九條ニ依リ當分ノ内支那、西伯利ヨリ又ハ之ヲ經テ生牛ヲ輸入スルコトヲ停止ス但シ食用ノ爲ニスルモノニシテ検査ヲ受ケタル後直ニ検査官ノ指定シタル屠場ニ於テ屠殺スルモノハ此ノ限ニ在ラス
本令ハ明治四十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

家畜傳染病豫防法施行心得

一 家畜傳染病發生シタルトキハ其ノ終熄スル迄第一號様式ニ依リ毎月十日迄ニ前月ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ牛疫、牛ノ傳染性助腺肺炎、流行性驚口瘡、羊痘及豚皮刺刺ニ付テハ日表ノ外特種ノ狀況ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

二 家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ免疫血清又ハ豫防液ノ注射ヲ行ヒタルトキハ注射完了後其ノ成績ヲ調査シ遲滞ナク第二號様式又ハ第三號様式ニ依リ其ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

三 免疫血清、豫防液又ハ診斷液ノ交付ヲ受ケタルトキハ毎年四月三十日迄ニ第四號様式ニ依リ前年度ニ於ケル其ノ受拂フ獸疫調査所長ニ報告スヘシ

四 家畜傳染病豫防法第十三條ノ規定ニ依ル届出ハ一年分ヲ取纏フ第五號様式ニ依リ翌年一月末日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

五 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ヲ殺サムトスル場合ハ其ノ所在ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ埋却又ハ埋却ヲ爲ス場所ニ於テ殺ス場合又ハ化糞

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

場若ハ屠場ニ於テ殺ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
六 家畜傳染病豫防法第八條第二項ノ規定ニ依ル化製ハ消毒裝置其ノ他病毒ノ散逸ヲ防止スルニ足ルヘキ設備ヲ有スル化製場ニ於テ之ヲ爲サシユヘシ
七 家畜傳染病豫防法第二十條ノ検査ヲ行ヒタルトキハ毎月十日迄ニ前月中ノ検査成績ヲ第六號様式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ
第一號様式
甲

病名	畜類		頭數	發病頭數	死亡頭數	殺頭數	快復頭數	摘	要
	牛	馬							
備考	發病地、流行地方、系統、病勢其ノ他參考トナルヘキ事項								

【注意】
(一) 總死、殺及快復頭數ハ既ニ其ノ家畜ノ發病報告ヲ爲シタルモノニ付テハ朱書スヘシ
(二) 牛疫感染ノ虞アル家畜ニシテ殺シタルモノニ付テモ之ヲ本表中ニ加ヘ且ツ病名欄ニ其ノ旨記入スヘシ
(三) 累計ノ病名、畜類別ニヨリ同年一月以降ノ頭數ヲ記載スヘシ以下之ニ依リ

スヘキモノトス
附 則
本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年農商務省令第一號ハ之ヲ廢止ス
(別 記)
證票様式
三 寸

面 裏
面 表
分 五 寸 一

第 號 大正 年 月 日交付

家畜防疫委員 證票

縣 府 印

氏 名

家畜傳染病豫防法第十五條 警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舎、船車其ノ他家畜所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證書ヲ携帯スヘシ
家畜傳染病豫防法第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
四 正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ検査ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者

乙

検査中ニ於ケル家畜傳染病調査表(何年月分) 検査港名

船名	入港 月日	病名	畜類	搭載				検査 要
				地名	頭數	病 頭數	死 頭數	
計								
累計								
備考	系統、病勢其ノ他参考トナルヘキ事項							

【注意】 甲ニ同シ

第二號様式

甲

何々免疫血清注射成績表 (注射施行始期年月日) 上終期年月日) 廳府縣名

目的	畜類	注射		注射後				摘 要
		頭數	發病 頭數	病 頭數	死 頭數	殺 頭數	快復 頭數	
備考	注射ノ爲生シタル事故ノ狀況							

【注意】 使用シタル血清ニ付テハ其ノ製造所ノ官公私別ニ大體ノ歩合ヲ備考欄ニ記載スヘシ

乙

検査中ニ於ケル何々豫防疫注射成績表 (同上) 検査港名

搭載 地名	畜類	注射		注射後				摘 要
		第一回 注射 頭數	第二回 注射 頭數	病 頭數	死 頭數	殺 頭數	快復 頭數	
備考	甲ニ同シ							

【注意】 甲ニ同シ

第四號様式

血清類受拂表 (何年度分) 廳府縣名

種 類	前年度ヨリ 繰越數量	受入數量	應用數量	廢棄數量	翌年度ニ 繰越數量	備考
廢棄事由其ノ他参考トナルヘキ事項						

乙

検査中ニ於ケル何々免疫血清注射成績表 (同上) 検査港名

搭載 地名	目的	畜類	注射		注射後				摘 要
			頭數	發病 頭數	病 頭數	死 頭數	殺 頭數	快復 頭數	
備考	甲ニ同シ								

【注意】 甲ニ同シ

第三號様式

甲

何々豫防疫注射成績表 (注射施行ノ始期年月日) 上終期年月日) 廳府縣名

畜類	注射		注射後				摘 要
	第一回 注射 頭數	第二回 注射 頭數	病 頭數	死 頭數	殺 頭數	快復 頭數	
備考	注射反應ノ概況、注射ノ爲生シタル事故ノ狀況						

【注意】 使用シタル豫防疫注射ニ付テハ其ノ製造所ノ官公私別ニ大體ノ歩合ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第五號様式

家畜斃死表 (何年分) 廳府縣名

計	備考	家畜斃死					
		牛	馬	山羊	豚	猪	其他

【注意】 傳染性病及流行病ニ付テハ病名ノ分明セルモノハ其ノ病名別頭數ヲ各摘要欄ニ記入スヘシ
本表中ニハ法律ニ規定シタル傳染病ノ爲斃死シタルモノヲ合マス

第六號様式

甲 検査成績表 (何年何月分)

検査港名	猪		牛		馬		羊		其他	
	頭数	検査率	頭数	検査率	頭数	検査率	頭数	検査率	頭数	検査率
検査所ニ於ケル	豚		牛		馬		羊		其他	
	肉		肉		肉		肉		其他	
備考	検査中ニ於ケル事故ノ状況、其日検査ノ畜種別頭数其ノ他参考トナルヘキ事項									
	備考									

【注意】 本表ニハ其ノ日検査終了解放シタルモノヲ記入スヘシ

乙 検査所ニ於ケル毛消毒成績表 (何年何月分)

検査港名	種	類	数	消毒方法	摘要
備考	消毒施行状況其ノ他参考トナルヘキ事項				

●家畜傳染病豫防ニ關スル消毒方法 (大正十二年一月十九日)

(農商務省告示第五九號)

第一 家畜傳染病豫防ノ爲施行スル消毒ノ方法ハ左ノ四種トス

- 一 蒸氣消毒
 - 二 煮沸消毒
 - 三 藥物消毒
 - 四 酸酵消毒
- 第二 蒸氣消毒ハ消毒ノ目的物ヲ一時間以上蒸氏百度以上ノ温度ニ觸レシムヘシ
- 第三 煮沸消毒ハ消毒ノ目的物ヲ水中ニ浸シ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ
- 第二ニ掲ケルモノノ外肉、骨、角、蹄、飼料等ノ消毒ニ適ス
- 第四 藥物消毒ニ用キル薬剤及其ノ用法ハ左ノ如シ
- 一 燻製石灰末
 - 用ニ臨ミ燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シ之ヲ製スヘシ
 - 畜舎ノ床、糞便、厩肥、糞尿溜、汚水溝、濕潤ナル土床等ノ消毒ニ適ス
 - 一 石灰乳(十倍) (燻製石灰一分、水九分)
 - 用ニ臨ミ燻製石灰ニ水ヲ徐々ニ加ヘ攪拌シテ之ヲ製スヘシ
 - 畜舎ノ隔壁、隔木若ハ床又ハ欄柵其ノ他病畜ニ汚染セル場所ノ消毒ニ適ス
 - 一 クロール石灰
 - 畜舎ノ床、井水、用水、汚水溝等ノ消毒ニ適ス
 - クロール石灰水(二十倍) (クロール石灰五分、水九十五分)
 - 用ニ臨ミ「クロール」石灰ニ水ヲ加ヘ攪拌シテ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用ウヘシ
 - 用法ハ石灰乳ニ同シ

- 一 石炭酸水(二十倍) (助殺用石炭酸五分、鹽酸一分又ハ食鹽三分、水九十四分又ハ九十二分)
 - 加熱燻製セシメタル防疫用石炭酸ヲ水ニ加ヘ攪拌シタル後鹽酸又ハ食鹽ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ
 - 手足、畜舎、屍體、欄柵、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス但シ手足等ノ消毒ニハ石炭酸水ヲ更ニ水ヲ以テ二倍ニ稀釋シタルモノヲ用ウヘシ
- 一 昇汞水(千倍) (昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十九分)
 - 鹽酸ヲ加ヘタル少量ノ水ニ昇汞ヲ溶解シタル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ
 - 昇汞錠(錠中昇汞〇.五)ヲ用ウル場合ハ其ノ一錠ヲ五百立方センチメートルノ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ
 - 手足、畜舎、畜體、器具機械ノ消毒ニ適ス但シ金屬器具機械ノ消毒ニハ之ヲ用ウヘカラス
- 一 フォルムアルデヒド
 - 室内、被服、毛布、畜舎、骨、毛、角、蹄、革具類、貴重ナル器具機械等ノ消毒ニ適ス但シ密閉シ得サル室内ノ消毒ニハ適セス
 - 「フォルムアルデヒド」ヲ以テ消毒スルニハ室内又ハ消毒用器ノ容積百立方尺ニ付フォルマリオン四十立方センチメートル以上ヲ噴霧若ハ蒸發セシメ又ハ「フォルムアルデヒド」十五グラム以上ヲ發生セシメ同時ニ百立方センチメートル以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ
 - 「フォルムアルデヒド」ヲ以テ毛束、被服、毛布又ハ之ニ類似ノ物品ヲ其ノ内部ニ至ル迄消毒スル場合ハ真空裝置ニ依ルヘシ此ノ場合ニ於ケル消毒時間ハ裝置及物品ノ種類ニ依リ之ヲ定ムヘシ
 - フォルマリオン水(フォルマリオン一分、水二十四分)
 - 畜舎、畜體、屍體、器具機械、骨、毛、角、蹄、革具類等ノ消毒ニ適ス

第六

消毒方法ノ應用

- 一 消毒
 - 一 クレゾール水(クレゾール石炭酸三分、水四十七分)
 - クレゾール石炭酸液ヲ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ
 - 手足、被服、畜舎、畜體、欄柵、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス
 - クレゾール硫酸溶液(硫酸一分、水九十七分)
 - 粗製「クレゾール」ニ粗製硫酸ヲ混和攪拌シ二十四時間以上ヲ經過セタル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ
 - 一 糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス
 - クレゾール水、クレゾール水(クレゾール、水九十七分)
 - 石炭酸水ニ代用スルコトヲ得
 - 一 硫黃石灰水(昇汞一分、水四十分)
 - 燻製石灰一分ヲ水四十分ニ溶解シ昇汞硫黃三分ヲ加ヘ蒸發水分ヲ補ヒツツ二時間攪拌煮沸シタル後水百分ヲ加ヘ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用ウヘシ
 - 一 藥浴ニ適ス
 - 鹽酸食鹽水(鹽酸二分、食鹽十分、水八十八分)
 - 皮ノ消毒ニ適ス
 - 粗製鹽酸、粗製硫酸
 - 一 糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス
 - 酸酵消毒ハ幅四、五尺深サ五、六寸長サ適宜ノ土溝ヲ造リ之ヲ病畜ニ汚染セサル敷藁、厩肥等ニテ埋メ其ノ上ニ消毒スヘキ糞便、敷藁、厩肥等ヲ四、五尺ノ高サニ堆積シ其ノ表面ハ病畜ニ汚染セサル藁、草、敷藁、厩肥等ヲ以テ適當ノ厚サニ之ヲ覆ヒ其ノ上ニ土ヲ覆ヒ少クトモ二週間放置スヘシ牛糞、豚糞ノ消毒ニ在リテハ酸酵ヲ充分ナラシムル爲適宜ノ藁類ヲ混スヘシ

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

- 一 畜舎ノ土床ハ深サ一尺以上掘起搬出シタル後製石灰末又ハ「クロール」石灰ヲ撒布シ新鮮ノ土ヲ入レ搬出シタル土ハ燒却又ハ埋却スヘシ但シ牛ノ傳染性流産、馬、山羊ノ疥癬、家畜皮列刺、加奈陀馬痘、假性皮膚ノ場合ニ在リテハ土床ヲ掘起セシテ製石灰末、クロール石灰、フオルマリン水、クレゾール水ヲ充分ニ撒布シ消毒スルコトヲ得
- 一 著シク汚物ノ固着セル畜舎又ハ欄柵ノ消毒ハ豫メ熱湯汁(粗製加里石五分又ハ新製木灰一分)又ハ熱湯ヲ以テ洗滌シタル後之ヲ行フヘシ本五分ヲ消毒シテ驅ス
- 一 畜體ノ消毒ハ昇永水、フオルマリン水又ハ「クレゾール」水ヲ以テ温シタル布片ヲ以テ清拭シテ汚物ノ附着セル部分ハ前記消毒藥液ヲ以テ洗滌スヘシ
- 一 屍體又ハ物品ヲ運搬セムトスルトキハ昇永水、石炭酸水、フオルマリン水又ハ「クレゾール」水ニ温セル布片又ハ綿類ヲ以テ病毒ヲ漏ラス度アル天然孔其ノ他ノ箇所ヲ塞キ昇永水、石炭酸水、フオルマリン水又ハ「クレゾール」水ニ温シタル蒸、蒸類ヲ以テ全體ヲ包裹スヘシ
- 一 病畜牽付途中又ハ屍體運搬中ニ於テ糞尿其ノ他汚物ヲ漏ラシタル時ハ病毒ヲ含有セサルモノヲ除クノ外之ヲ除去シ其ノ場所ニ昇永水、石炭酸水又ハ「クレゾール」硫酸水ヲ充分撒布シ除去シタル汚物ハ適當ノ場所ニ於テ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ
- 一 糞尿溜汚水溝ハ製石灰末、クロール石灰、クレゾール水、クレゾール硫酸水、粗製硫酸又ハ粗製硫酸ヲ投入攪拌シ其ノ汚物ヲ浸漬シタル後更ニ石灰乳、クレゾール水又ハ「クレゾール」硫酸水ヲ以テ消毒スヘシ浸漬シ能ハサルトキハ覆フ爲シ五日間以上放置スヘシ浸漬シタル汚物ハ深ク埋却スヘシ
- 一 皮ハ鹽酸食鹽水中ニ二日間以上浸漬スヘシ

◎家畜傳染病檢疫規則

(大正十二年一月十九日) (農商務省令第二號) (改正) (舊令第八號) (同) (舊令第二號)

- 一 芽胞性病毒ニ對シテハ次ノ消毒藥ノ一ヲ用ウヘシ
昇永水
石炭酸水 鹽酸ヲ加ヘタルモノ
クレゾール硫酸水
フオルマリン水
クロール石灰水
粗製硫酸
粗製硫酸
鹽酸食鹽水
- 第一條 家畜傳染病檢疫法第二十條ノ檢疫ハ北海道函館港、同小樽港、大阪府大阪港、神奈川県横浜港、兵庫縣神戸港、長崎縣長崎港、同縣嚴原港、福井縣敦賀港、山口縣下關港、福岡縣門司港及鹿兒島縣鹿兒島港ニ於テ之ヲ行フ但シ當分ノ内鹿兒島港ニ在リテハ家畜及其ノ屍體並ニ羊毛、駱駝毛、アルバカ毛及カシミヤ毛以外ノ獸毛ノ檢疫、爾節港、小樽港、長崎港、嚴原港、下關港及門司港ニ在リテハ羊毛、駱駝毛、アルバカ毛及カシミヤ毛以外ノ獸毛ノ檢疫ハ之ヲ行ハス
- 第二條 於ケル檢疫期間ハ當分ノ内四月一日ヨリ十二月三十一日迄トス
- 第三條 農商務大臣檢疫施行上必要アリト認ムルトキハ檢疫ヲ受クヘキ物ノ種類ヲ限リ其ノ檢疫ヲ受クヘキ海港ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ十日以前ニ其ノ旨ヲ告示ス
- 第三條 外國又ハ家畜傳染病檢疫法ヲ施行セサル地方ヨリ入港シタル船舶ニシテ傳染病ニ罹リ、罹リタル疑アリ若ハ牛疫ニ感染シタル處アル家畜ルコトヲ得
- 二 馬 十日但シ支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノハ五日迄短縮スルコトヲ得
- 三 豚 十日但シ指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得
- 四 鶏、鶩 二日
- 傳染病ニ罹リタル家畜ハ其ノ恢復後二十日間、狂犬病ニ感染シタル處アル家畜ハ九十日間、狂犬病ニ感染シタル處アル家畜ニシテ檢疫所ニ於テ豫防液ヲ注射シタルモノハ十四日間之ヲ留置スヘシ
- 傳染病ニ罹リタル疑アル家畜ハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ留置スヘシ
- 留置中家畜カ牛疫、流行性驚口瘡、羊痘ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舎及檢疫官吏ニ於テ病毒ニ感染シタル處アリト認ムル場所ニ留置シタル牛、山羊、山羊ハ畜舎又ハ場所ノ消毒完了後二十日間之ヲ留置スヘシ但シ牛疫ニ感染シタル處アル家畜以外ノ家畜ニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得
- 留置中家畜カ炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮膚、牛ノ傳染性肋膜炎、豚皮列刺、豚疫、豚痘、加奈陀馬痘、山羊山羊ノ疥癬ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舎ニ留置シタル家畜ハ畜舎ノ消毒完了後十日間之ヲ留置スヘシ但シ檢疫所ニ隣接シタル指定屠場又ハ場所ニ於テ殺ス場合ハ七日迄短縮スルコトヲ得
- 留置中家畜カ皮列刺ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舎ニ留置シタル家畜ハ畜舎ノ消毒完了後五日間之ヲ留置スヘシ但シ指定屠場ニ於テ殺ス場合ハ三日迄短縮スルコトヲ得
- 傳染病ニ罹リタル疑アル家畜生シタルトキハ之ト同一場所ニ留置シタルモノハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ留置スヘシ
- 前六項ノ規定ハ傳染病ニ罹リタル家畜ト同一船ニ在リタル家畜ヲ留置場

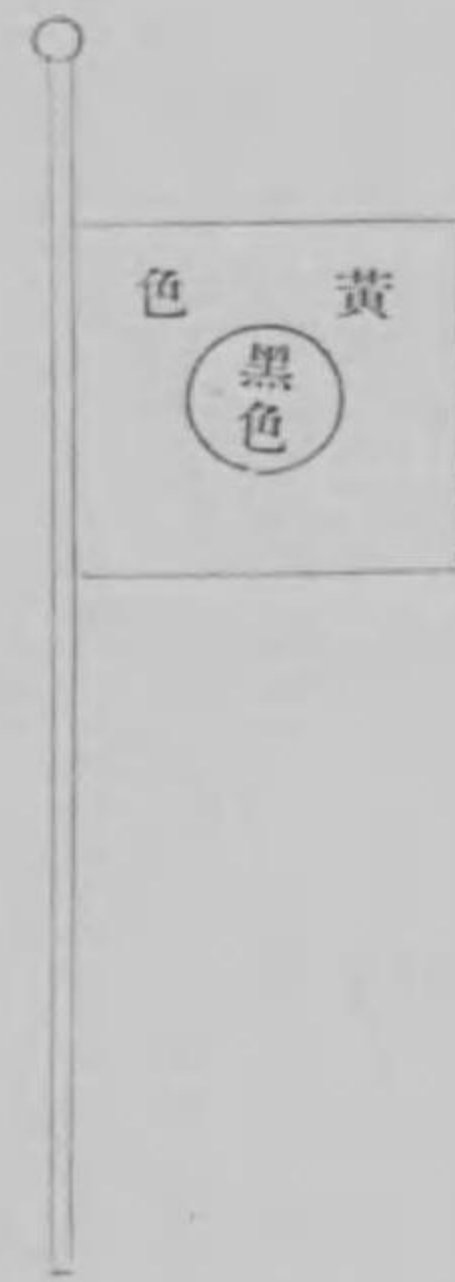
第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

- 又ハ其ノ屍體ヲ搭載スルモノハ其ノ船舶内ニ於ケル檢疫及消毒ヲ終ル迄檢疫信號ヲ掲クヘシ
- 前項ノ信號ハ晝間ハ前橋頭ニ第一號樣式ノ旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅燈一箇其ノ下ニ白燈二箇ヲ上下ニ連掲スヘシ
- 第四條 檢疫官吏ハ檢疫ヲ受クヘキ物ヲ搭載シタル船舶ニ臨檢シ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ尋問シ第二號樣式ノ調書ヲ作成スヘシ
- 第五條 檢疫官吏ハ船舶ニ於テ家畜ノ檢診若ハ家畜ノ屍體ノ檢案又ハ肉骨皮毛類ノ檢査ヲ行ヒ左ノ處分ヲ爲スヘシ
- 一 家畜傳染病預防法第四條及第五條ノ家畜ニシテ殺スコトヲ必要トスルモノハ之ヲ殺場ニ送致セシムルコト
- 二 前號以外ノ家畜ハ直ニ之ヲ留置場ニ送致セシムルコト但シ朝鮮、韓督府ノ發給シタル檢疫證明書ヲ有スル畜牛ニシテ全許健康ト認ムルモノ竝大及支那、西比利亞以外ノ地ヨリ輸入若ハ移入スル鶏、鶩ニシテ檢疫官吏ニ於テ留置ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 家畜ノ屍體ハ燒却場ニ送致セシムルコト
- 四 肉骨皮毛類ハ消毒場ニ送致セシムルコト但シ輸出地ニ於ケル日本官憲ノ發給シタル屠殺前ノ健康證明書及屠肉檢査ノ證明ヲ有スル生肉及移出地ニ於ケル屠肉檢査ノ證明ヲ有スル生肉其ノ他檢疫官吏ニ於テ消毒ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 前條第二號ノ規定ニ依リ留置場ニ送致セシメタル家畜ノ留置期間左ノ如シ
- 一 牛、山羊、山羊 十五日但シ支那(青島港ヲ除ク)、西比利亞、朝鮮ヨリ輸入又ハ移入スルモノニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノ及支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノニ在リテハ七日迄、支那青島港ヨリ輸入スルモノニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノニ在リテハ二日迄短縮ス

- ルコトヲ得
- 二 馬 十日但シ支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノハ五日迄短縮スルコトヲ得
- 三 豚 十日但シ指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得
- 四 鶏、鶩 二日
- 傳染病ニ罹リタル家畜ハ其ノ恢復後二十日間、狂犬病ニ感染シタル處アル家畜ハ九十日間、狂犬病ニ感染シタル處アル家畜ニシテ檢疫所ニ於テ豫防液ヲ注射シタルモノハ十四日間之ヲ留置スヘシ
- 傳染病ニ罹リタル疑アル家畜ハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ留置スヘシ
- 留置中家畜カ牛疫、流行性驚口瘡、羊痘ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舎及檢疫官吏ニ於テ病毒ニ感染シタル處アリト認ムル場所ニ留置シタル牛、山羊、山羊ハ畜舎又ハ場所ノ消毒完了後二十日間之ヲ留置スヘシ但シ牛疫ニ感染シタル處アル家畜以外ノ家畜ニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得
- 留置中家畜カ炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮膚、牛ノ傳染性肋膜炎、豚皮列刺、豚疫、豚痘、加奈陀馬痘、山羊山羊ノ疥癬ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舎ニ留置シタル家畜ハ畜舎ノ消毒完了後十日間之ヲ留置スヘシ但シ檢疫所ニ隣接シタル指定屠場又ハ場所ニ於テ殺ス場合ハ七日迄短縮スルコトヲ得
- 留置中家畜カ皮列刺ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舎ニ留置シタル家畜ハ畜舎ノ消毒完了後五日間之ヲ留置スヘシ但シ指定屠場ニ於テ殺ス場合ハ三日迄短縮スルコトヲ得
- 傳染病ニ罹リタル疑アル家畜生シタルトキハ之ト同一場所ニ留置シタルモノハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ留置スヘシ
- 前六項ノ規定ハ傳染病ニ罹リタル家畜ト同一船ニ在リタル家畜ヲ留置場

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

ニ送致シタル場合ノ緊留期間ニ之ヲ準用ス
 指定屠場ニ送付スル家畜ハ檢疫證明書交付ノ當日之ヲ屠殺セシムヘシ
第七條 前三條ノ規定ハ家畜傳染病豫防法第二十條第二項ノ規定ニ依リテ
 行フ檢疫ニ之ヲ準用ス
第八條 檢疫官吏檢疫ヲ終リタルトキハ第三號様式ノ證明書ヲ交付スヘシ
 但シ消毒ヲ爲シタル獸毛ニ付テハ包裝毎ニ第四號様式ノ證明書ヲ交付ス
 ヘシ
第九條 檢疫港所轄ノ地方長官ハ所屬官吏(待遇官吏ヲ含ム)ニ檢疫官吏
 ヲ命スルコトヲ得
第十條 第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
附 則
 本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十九年農商務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス



第二號様式

一	船籍船種及船名
二	發航ノ地名及年月日
三	寄港ノ地名及發着ノ年月日
四	家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類ノ種類、頭數、數量及性狀
五	家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類搭載ノ地名及年月日並仕向地名
六	航海中發病又ハ斃死シタル家畜ノ種類頭數及症狀並之ニ對シ爲シタル處置
七	傳染病發生シタル船舶又ハ傳染病流行地ヨリ來リタル船舶ト交通ノ有無
八	他港ニ於テ檢疫ヲ受ケタルコトノ有無
九	尋問ヲ受ケタル者ノ氏名
年 月 日	検査官官氏名印

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

第三號様式

第 號	品 目	數	量	検査證明書 輸(移)入申告者 何 某
年 月 日	牛 馬 綿羊 山羊 豚 犬 鶏 鶩 肉 骨 皮 毛			
右ハ何國何港ヨリ到着ニ付家畜傳染病豫防法ニ依リ制限ノ檢疫ヲ施行シ終了セシコトヲ證ス				
道(府縣) 港 検査官官氏名印				

第四號様式

第 號	消毒證明書 輸(移)入申告者 何 某
年 月 日	道(府縣) 港 検査官官氏名印
右ハ家畜傳染病豫防法ニ依リ制限ノ消毒ヲ終了セシコトヲ證ス	
一	獸毛ノ種類
二	包裝ノ種類
三	商標
四	重量
五	搭載地名
六	消毒月日

◎家畜傳染病豫防法ニ依リ交付スル手當金ノ最高金額ニ關スル件

- 一 家畜傳染病豫防法第二十四條第一項第一號ノ場合
 牛、馬 一頭ニ付 二百五十圓
 綿羊、山羊、豚 一頭ニ付 十三圓

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

二 同第二號ノ場合

牛、馬	一頭ニ付	四百五十圓
羶羊、山羊、豚	同	二十四圓
犬	同	十二圓
鷄、鶩	一羽ニ付	一圓五十錢

三 同第三號ノ場合

牛、馬	一頭ニ付	六百圓
羶羊、山羊、豚	同	三十二圓
犬	同	十六圓
鷄、鶩	一羽ニ付	二圓

四 同第四號ノ場合

總額		三十圓
----	--	-----

附 則

本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●畜牛結核病豫防法

第一條 乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ハ結核病ノ有無又ハ輕重ヲ

(明治三十四年四月十三日)
法律第三十五號
(明治三十五年)
法律第三號
(同四一年)
法律第四五號
(大正三年)
法律第一〇號
(同一年)
法律第八四號

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

ヲ得

第八條 前條ニ依リ輸入又ハ移入ヲ禁止セラレタル者畜牛ヲ撲殺セムトスルトキハ稅關長及検査員ノ指揮ニ從フヘシ

第九條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所結核病ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ消毒スヘシ

第十條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分、皮角蹄ヲ除クノ外検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ糞尿場所並汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ所有者ニ對シ畜牛又ハ物品ノ評價額ノ二分ノ一ニ相當スル手當金ヲ下付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

定ムル爲行政官廳ニ於テ之ヲ検査ス其ノ他ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノニ付亦同シ

第二條 前條ノ検査ハ臨床的診察ニ依リ又ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ行フ

第三條 検査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス

第一條ニ掲ケタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ之ヲ届出ツヘシ

第五條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ隔離スヘシ

第六條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第七條 外國ヨリ輸入スル畜牛及主務大臣ノ指定シタル地方ヨリ移入スル畜牛ハ特定メタル場所ニ於テ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ検査ス但シ主務大臣ニ於テ必要ナント認メタル畜牛ニ對シテハ「ツベルクリン」ノ應用ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ検査ニ關シテハ稅關長及検査員ノ指揮ニ從フヘシ

第一項ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルトキハ稅關長又ハ検査員ニ於テ其ノ輸入又ハ移入ヲ禁止、緊留其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第十四條 左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セズ

一、検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ

二、第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ

三、検査ヲ受ケスニシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入又ハ移入シタルトキ

左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セズ

一、前項各號ノ一ニ該當スルトキ

二、第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

三、第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

第十五條 手當金ヲ受ケヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫、北海道地方費、府縣及一個人ニ於テ之ヲ負擔ス

第十七條 本法ニ於テ外國種牛、雜種牛、內國種牛、乳用牛又ハ雜種種牡牛ト稱スル畜牛ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、検査ヲ受ケスニシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入若ハ移入シタル者、第五條若ハ第六條ニ違背シタル

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若ハ第十二條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用ス

附 則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●畜牛結核病豫防法施行規則

(明治三十六年五月三十日) (農商部省令第四號)

- (改正) (明治三十七年) (同九年)
- (省令第九號) (同三八年)
- (省令第九號) (同三九年)
- (同四一年)
- (同四二年)
- (省令第一九號) (同四三年)
- (大正三年)
- (省令第一號) (同五年)
- (同五年)
- (省令第一八號)

第一條 外國種牛トハ歐羅巴種及亞米利加種ノ畜牛ヲ謂フ 雜種牛トハ外國種牛ノ血統ト其ノ他ノ畜牛ノ血統トヲ有スル畜牛ヲ謂フ 內國種牛トハ外國種牛及雜種牛ニ非サル畜牛ヲ謂フ 乳用牛トハ持乳用ニ供シ又ハ供セムトスル畜牛ヲ謂フ 雜種種牛トハ雜種牛ニシテ種牛検査ニ合格シタル畜牛及其ノ検査ヲ

十日ヲ、區域ハ一部又ハ一市ヲ超ユルコトヲ得ス 前項ノ命令ハ移轉ノ禁止又ハ制限ノ期間ノ初日ヨリ少クトモ十五日以前ニ於テ之ヲ發見シ

第七條 正當ノ事由ニ依リ検査ノ日時又ハ場所ニ於テ検査ヲ受タルコト能ハサル者ハ豫メ其ノ旨ヲ官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ 前項ノ届出アリタルトキハ官廳又ハ公署ハ其ノ者ニ付テ別ニ検査ノ日時又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條 「ツベルクリン」ノ用ニ依リ検査ノ方法ハ皮下注射、皮膚注射及點眼法トス 第九條 「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ左ノ各號ノ一ニ該當スル畜牛ハ之ヲ重症結核病ニ罹リタル畜牛トス其ノ反應顯著ナラサルモ結核病ノ臨床的症狀重大ナルモノ亦同シ

- 一 乳房結核
 - 一 重症肺結核
 - 一 汎發結核
 - 一 前各號ノ外著シク營養ヲ損害セル結核病
 - 一 「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ臨床的症狀輕微ナル畜牛ハ之ヲ輕症結核病ニ罹リタル畜牛トス
 - 一 「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應顯著ナラスシテ臨床的症狀疑ハシキ畜牛ハ之ヲ結核病ニ罹リタル疑アル畜牛トス
- 第十條 検査員検査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 健全ナ 畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號様式ノ一ノ健康證書ヲ、臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依ルモノニハ第三號様式ノ二ノ健康證書ヲ交付ス
 - 一 重症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ直徑五分ノ圓形孔ヲ穿ツ
 - 一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ第四號様式ノ耳標ヲ付ス

受ケムトスル畜牛ヲ謂フ 第二條 乳用牛、外國種牛及雜種種牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官カ告示シタル検査ノ期日三十日前迄ニ其ノ住所、氏名、畜牛ノ頭數、種類、牝牡、年齡、毛色、用途及所在地ヲ畜牛ノ所在地ヲ管轄スル官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ

前項届出期間後新ニ検査未済ノ畜牛ヲ所有シ又ハ管理スルニ至リタル者ハ前項ニ準シ三日以内ニ届出ツヘシ 検査未済ノ畜牛ニ關シ前二項ノ届出事項ニ變更アリタルトキハ三日以内ニ之ヲ届出ツヘシ但シ畜牛所在地ノ變更ニシテ他ノ官廳又ハ公署ノ管轄區域ニ亙ルトキハ新舊兩地ノ官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ

第三條 地方長官ハ一箇年毎ニ乳用牛、外國種牛及雜種種牛ノ検査ヲ行フ但シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ對シ二回以上之ヲ行フコトヲ得 地方長官ハ隨時結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ検査ヲ行フ

結核病ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ検査ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ畜牛ニシテ「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタルモノニ付テハ皮下注射後四十五日ヲ經ルニ非サレバ検査ヲ請求スルコトヲ得ス 第四條 前條第一項ノ検査ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ定メ検査ノ期日ヨリ少クトモ四十五日以前ニ之ヲ告示ス

官廳又ハ公署必要ト認ムルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項告示以外ノ期日又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得 前條第二項ノ検査ノ期日及場所ハ公署隨時之ヲ指定スヘシ 第五條 官廳又ハ公署ハ前條第一項ノ期日及場所ノ範圍内ニ於テ日時及場所ヲ指定ス

第六條 地方長官検査ノ爲必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ定メ乳用牛、外國種牛及雜種種牛ノ移轉ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得但シ期間ハ三

一 結核病ノ疑アル畜牛ニハ左耳ニ第五號様式ノ耳標ヲ付ス 前項第一號ノ健康證書ハ次回検査ノトキ之ヲ返付セシメ第三號及第四號ノ耳標ハ之ヲ付スヘキ事由消滅シタルトキハ之ヲ除去スヘシ

第一項第一號ノ健康證書ヲ交付シタル畜牛ニシテ「ツベルクリン」ヲ皮下注射後第三條第三項但書又ハ第二十四條第一項ニ規定シタル期間ヲ經過セサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ健康證書ヲ返付セシメ耳標ヲ除去シタルモノナルトキハ更ニ同一ノ耳標ヲ付スヘシ

第十一條 前號ノ耳標ニ毀損又ハ喪失アリタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ該項ノ畜牛ニ關シ官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ 前項ノ届出アリタルトキハ検査員又ハ警察官ニ於テ耳標ノ毀損若ハ喪失ヲ發見シ又ハ毀損若ハ喪失ノ處アリト認ムルトキハ前條ニ準シ更ニ耳標ヲ付スヘシ

第十二條 畜牛ノ所有者又ハ管理者検査員ノ指定シタル隔離ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトベルトキハ検査員ノ許可ヲ受クヘシ 第十三條 外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ検査ハ大阪府大阪港、神奈川県横浜港、兵庫県神戸港、時崎港、同縣姫原港、山口縣下關港及福井縣敦賀港ニ於テ之ヲ行フ

第十四條 税關長ハ畜牛ノ輸入又ハ移入ノ申告アリタルトキハ検査ノ日時、場所其ノ他検査ノ爲必要ナル事項ヲ輸入又ハ移入申告者ニ通知スヘシ 第十五條 検査員外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ検査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號様式ノ一ノ健康證書ヲ、臨床的診察及「ツベルクリン」ノ注射ノ方法ニ依ルモノニハ第三號様式ノ二ノ健康證書ヲ交付ス
- 一 重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右標ニ第六號様式ノ記號ヲ烙

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用ス

附 則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●畜牛結核病豫防法施行規則

(明治三十六年五月三十日)

(改正) (明治三十七年) (同九年) (省令第九號) (同九年) (省令第一〇號) (同九年) (省令第一〇號) (同九年) (省令第一〇號)

(同四年) (省令第八號) (同四年) (省令第八號) (同四年) (省令第八號) (同四年) (省令第八號)

(大正三年) (省令第一號) (同五年) (省令第一八號)

第一條 外國種牛トハ歐羅巴種及亞米利加種ノ畜牛ヲ謂フ 雜種牛トハ外國種牛ノ血統ト其ノ他ノ畜牛ノ血統トヲ有スル畜牛ヲ謂フ 內國種牛トハ外國種牛及雜種牛ニ非サル畜牛ヲ謂フ 乳用牛トハ搾乳用ニ供シ又ハ供セムトスル畜牛ヲ謂フ 雜種種牛トハ雜種牛ニシテ種牡牛検査ニ合格シタル畜牛及其ノ検査ヲ

十日ヲ、區域ハ一部又ハ一市ヲ超ユルコトヲ得ス 前項ノ命令ハ移轉ノ禁止又ハ制限ノ期間ノ初日ヨリ少クトモ十五日以前ニ於テ之ヲ發見シ 第七條 正當ノ事由ニ依リ検査ノ日時又ハ場所ニ於テ検査ヲ受タルコト能ハサル者ハ豫メ其ノ旨ヲ官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ 前項ノ届出アリタルトキハ官廳又ハ公署ハ其ノ者ニ付テ別ニ検査ノ日時又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得 第八條 「ツベルクリン」ノ用ニ依リ検査ノ方法ハ皮下注射、皮膚注射及點眼法トス 第九條 「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ左ノ各號ノ一ニ該當スル畜牛ハ之ヲ重症結核病ニ罹リタル畜牛トス其ノ反應顯著ナラサルモ結核病ノ臨床的症狀重大ナルモノ亦同シ

- 一 乳房結核
一 重症肺結核
一 汎發結核
一 前各號ノ外著シク營養ヲ損害セル結核諸症
「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ臨床的症狀輕微ナル畜牛ハ之ヲ輕症結核病ニ罹リタル畜牛トス
「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應顯著ナラスシテ臨床的症狀疑ハシキ畜牛ハ之ヲ結核病ニ罹リタル疑アル畜牛トス

第十條 検査員検査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
一 健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號様式ノ一ノ健康證書ヲ發給シ、臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依ルモノニハ第三號様式ノ二ノ健康證書ヲ交付ス
一 重症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ直徑五分ノ圓形孔ヲ穿ツ
一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ第四號様式ノ耳標ヲ付ス

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

受ケムトスル畜牛ヲ謂フ

第二條 乳用牛、外國種牛及雜種種牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官カ告示シタル検査期日三十日前迄ニ其ノ住所、氏名、畜牛ノ頭數、種類、牝牡、年齡、毛色、用途及所在地ヲ畜牛ノ所在地ヲ管轄スル官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ 前項届出期間後新ニ検査未済ノ畜牛ヲ所有シ又ハ管理スルニ至リタル者ハ前項ニ準シ三日以内ニ届出ツヘシ 検査未済ノ畜牛ニ關シ前二項ノ届出事項ニ變更アリタルトキハ三日以内ニ之ヲ届出ツヘシ但シ畜牛所在地ノ變更ニシテ他ノ官廳又ハ公署ノ管轄區域ニ亙ルトキハ新舊兩地ノ官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ

第三條 地方長官ハ一箇年毎ニ乳用牛、外國種牛及雜種種牛ノ検査ヲ行フ但シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ對シ二回以上之ヲ行フコトヲ得 地方長官ハ臨時結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ検査ヲ行フ 結核病ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ検査ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ畜牛ニシテ「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタルモノニ付テハ皮下注射後四十五日ヲ經ルニ非サレバ検査ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條 前條第一項ノ検査ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ定メ検査ノ期日ヨリ少クトモ四十五日以前ニ之ヲ告示ス 官廳又ハ公署必要ト認ムルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項告示以外ノ期日又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得 前條第二項ノ検査ノ期日及場所ハ官廳又ハ公署臨時之ヲ指定スヘシ 第五條 官廳又ハ公署ハ前條第一項ノ期日及場所ノ範圍内ニ於テ日時及場所ヲ指定ス

第六條 地方長官検査ノ爲必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ定メ乳用牛、外國種牛及雜種種牛ノ移轉ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得但シ期間ハ三

一 結核病ノ疑アル畜牛ニハ左耳ニ第五號様式ノ耳標ヲ付ス 前項第一號ノ健康證書ハ次回検査ノトキ之ヲ返付セシメ第三號及第四號ノ耳標ハ之ヲ付スヘキ事由消滅シタルトキハ之ヲ除去スヘシ 第一項第一號ノ健康證書ヲ交付シタル畜牛ニシテ「ツベルクリン」ヲ皮下注射後第三條第三項但書又ハ第二十四條第一項ニ規定シタル期間ヲ經過セサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ健康證書ヲ返付セシメ耳標ヲ除去シタルモノナルトキハ更ニ同一ノ耳標ヲ付スヘシ 第十一條 前條ノ耳標ニ毀損又ハ喪失アリタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ遲延ナク官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ 前項ノ届出アリタルトキハ検査員又ハ警察官ニ於テ耳標ノ毀損若ハ喪失ヲ發見シ又ハ毀損若ハ喪失ノ處アリト認ムルトキハ前條ニ準シ更ニ耳標ヲ付スヘシ

第十二條 畜牛ノ所有者又ハ管理者検査員ノ指定シタル隔離ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトハルトキハ検査員ノ許可ヲ受クヘシ 第十三條 外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ検査ハ大阪府大阪港、神奈川県横浜港、兵庫県神戸港、長崎縣長崎港、同縣嚴原港、山口縣下關港及福井縣敦賀港ニ於テ之ヲ行フ 第十四條 税關長ハ畜牛ノ輸入又ハ移入ノ申告アリタルトキハ検査ノ日時場所其ノ他検査ノ爲必要ナル事項ヲ輸入又ハ移入申告者ニ通知スヘシ

第十五條 検査員外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ検査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
一 健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號様式ノ一ノ健康證書ヲ發給シ、臨床的診察及「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依ルモノニハ第三號様式ノ二ノ健康證書ヲ交付ス
一 重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右耳部ニ第六號様式ノ記號ヲ烙

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

- 一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右管部ニ第七號様式ノ記號ヲ烙印ス
- 一 結核病ノ疑アル畜牛ニ付テハ右管部ニ第八號様式ノ記號ヲ烙印ス
- 第十六條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ埋却若ハ燒棄スヘキ場所又ハ認可ヲ經タル裝置ヲ有スル化學場ニ於テ之ヲ行フヘシ
- 第十七條 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ヲ屠殺セントスルトキハ検査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケ屠殺場内待ニ區畫シタル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ得其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトヲ得
- 前項ノ規定ハ外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ヲ撲殺セムトスル場合ニ於テ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニ關シ之ヲ準用ス
- 第十八條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ移動セムトスルトキハ検査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ爲スヘシ
- 第十九條 畜牛ノ死後結核ノ病的變狀又ハ之ニ疑ハシキ變狀ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ検査員又ハ所轄警察官署ニ届出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第二十條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ死シタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ直ニ検査員又ハ所轄警察官署ニ届出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第二十一條 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ屠殺シタル場合、前條ノ場合又ハ畜牛ノ死後ニ於テ結核ノ病的變狀ヲ發見シタル場合ニ於テ結核ノ病的變狀一變器及其ノ淋巴腺ニ局限セルカ又ハ結核ノ病的變狀二三ノ變器及其ノ淋巴腺ニ發生セルモ各部ノ變狀小部ニ局限シ急性結核ノ變狀ヲ呈セルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ検査員、屠畜検査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ患部及之ニ近接セル組織ヲ切除シ之ヲ燒棄又ハ消毒ノ上埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化學スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ場合ニ以テ二箇以上ノ變器及其ノ淋巴腺ニ於ケル結核ノ病的變狀蔓延セルトキ又ハ急性結核ノ變狀ヲ呈スルトキハ重症結核ニ罹リタル畜牛ニ準シ之ヲ處分スヘシ
- 第二十二條 地方長官ハ所屬ノ官吏、吏員及獸醫ノ中ヨリ検査員ヲ命シ所屬ノ官吏、吏員又ハ郡市町村吏員及畜産業ニ經驗アル者ノ中ヨリ評價人ヲ命スヘシ
- 第二十三條 検査員タルヘキ獸醫ハ助手ノ職務ヲ行フ者ヲ除ク外左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス
 - 一 畜牛結核病検査講習生規則第六條ノ修業證書ヲ有スル者
 - 二 官立學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 三 獸疫調査所ニ於テ六月以上畜牛結核病ニ關スル試驗ニ從事シ其ノ證明書ヲ有スル者
 - 四 三年以上検査員トシテ助手獸醫ノ職務ヲ行ヒタル者
- 第二十四條 地方長官又ハ官廳又ハ公署ノ告示又ハ指定シタル検査期日四十五日以前ヨリ検査確定ニ至ル迄乳用牛、外國種牛及雜種種牝牛ニ「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ爲スコトヲ得
- 地方長官ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獸醫ニ非サレバ乳用牛、外國種牛及雜種種牝牛ニ「ツベルクリン」ノ應用ヲ爲スコトヲ得
- 前二項ノ規定ハ正當ノ事由ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第二十五條 前條第二項及第三項ニ依リ乳用牛、外國種牛及雜種種牝牛ニ「ツベルクリン」ノ應用ヲ用ヒタル者ハ運送ナク検査員又ハ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

- 第二十六條 地方長官ハ毎年少クトモ一回畜牛結核病豫防ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第二十七條 地方長官ハ第三條ニ依リ行ヒタル検査ノ成績及其ノ狀況ヲ翌年四月三十日限リ第九號様式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 稅關長ハ第十三條ノ検査終了後其ノ検査ノ成績ヲ其ノ月末日限リ第十號様式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第二十八條 畜牛結核病豫防法第四條ノ届出ハ検査員又ハ畜牛ノ現在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ爲スヘシ
- 第二十九條 畜牛結核病豫防法第十條ニ規定スル化學裝置ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ所轄警察官署ヲ經由シテ地方長官ニ出願スヘシ
- 第三十條 畜牛結核病豫防法第十二條ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ埋却ノ年月日及發掘ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ニ出願スヘシ
- 第三十一條 検査員、評價人、其ノ他行政職ノ命ヲ承ケテ公務ヲ行フ者畜牛結核病豫防法又ハ本則ノ執行ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ二十五日以下ノ(重禁錮)又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十二條 第十條ノ記號ヲ滅失セシメ又ハ耳標ヲ毀損又ハ喪失セシメタル者ハ二十五日以下ノ(重禁錮)又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十三條 第三條第三項但書ニ違背シテ検査ヲ受ケタル者又ハ第六條第一項ノ命令ニ違背シ若ハ第二十四條ニ違背シタル者ハ二十日以下ノ(重禁錮)又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十四條 第二條、第七條第一項、第十七條、第十八條、第二十一條、第二十五條、第三十七條ニ違背シタル者及第十九條、第二十條ノ届出ヲ爲サス又ハ指揮命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三號様式 (分八寸三) 白

第 號		畜牛健康證	
種類	住所	所有者(管理者)	何 某
名 號	用途	(輸入、移入申告者)	
年 齡	牝 牡		
特 徵	毛 色		
右臨床検査ヲ遂ケシ處結核病ノ症候ヲ認メス			
年 月 日			
検査員署名捺印		検査年月日	備 考
検査員署名捺印		検査年月日	備 考
廳 府 縣 (稅關) 印 證			

第三十六條 本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年農商務省令第六號輸入畜牛結核病検査規則ハ之ヲ廢止ス

第三十七條 本則施行ノ際ニ限リ第二條第一項ノ届出ハ七月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一號様式 第二號様式 (削除)

(五寸五分)

種類	内國				外國				總計
	乳用牛	種牡牛	其他牛	合計	乳用牛	種牡牛	其他牛	合計	
用途									
検査牛數									
健康牛									
疑症牛									
輕症牛									
重症牛									

第九號様式

〔明治〕何年甲(乙)號畜牛結核病検査成績報告

成績表

應府縣

年月日 検査ノ状況

農商務大臣宛

地方長官名

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

二ノ式様號三第

表

(分八寸三)色青

検査日署名捺印	検査年月日	備考
第 號 畜牛健康證 住所 所有者(管理者) (輸入、移入申告者) 何 某 用途 毛色 牝牡 種類 名號 年齢 特徴 右臨床及ツベルクルン(應用検査皮下注射、皮膚注射 又ハ點眼法)ヲ達ケシ處結核病ノ症候ヲ認メス 年月日 應府縣(税關) 印證		

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

(五寸五分)

第六號様式

縦二寸五分
横二寸



第七號様式

縦二寸五分
横二寸



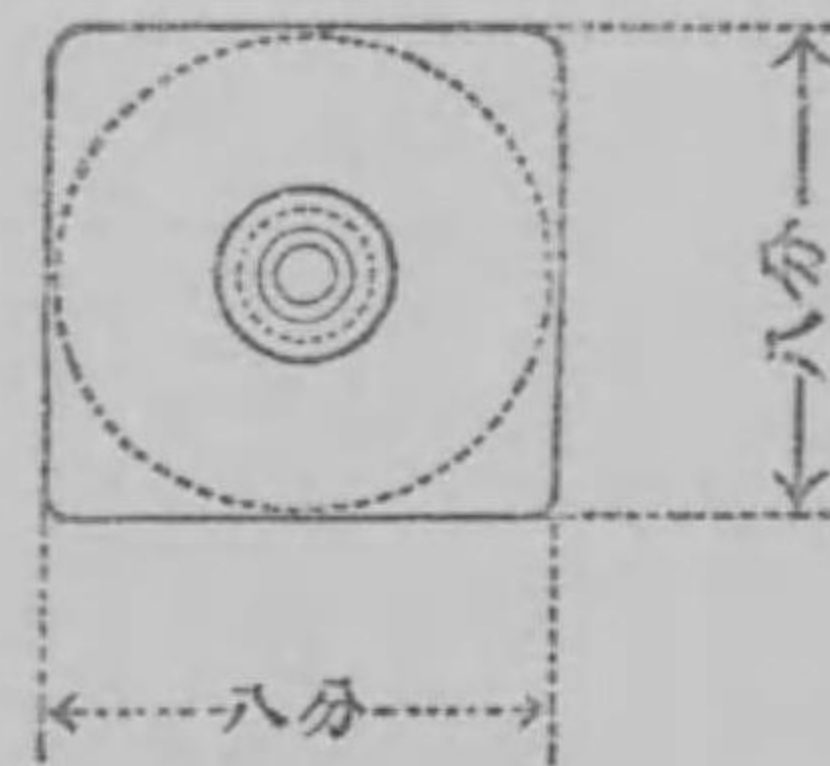
第八號様式

縦二寸五分
横二寸

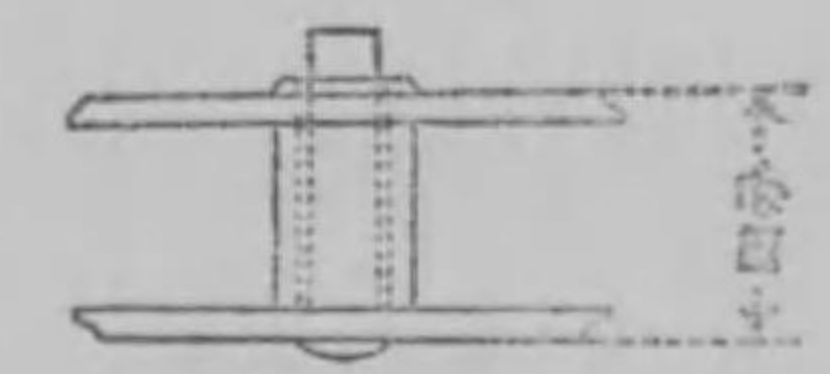


標耳式様號五第

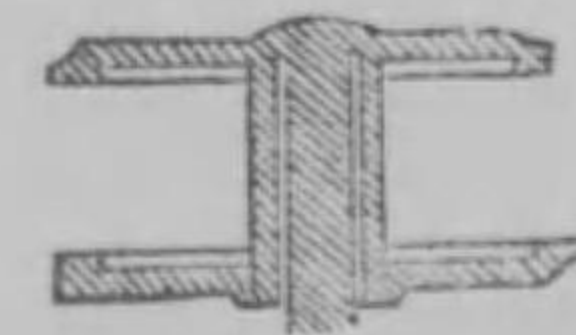
面平



面立

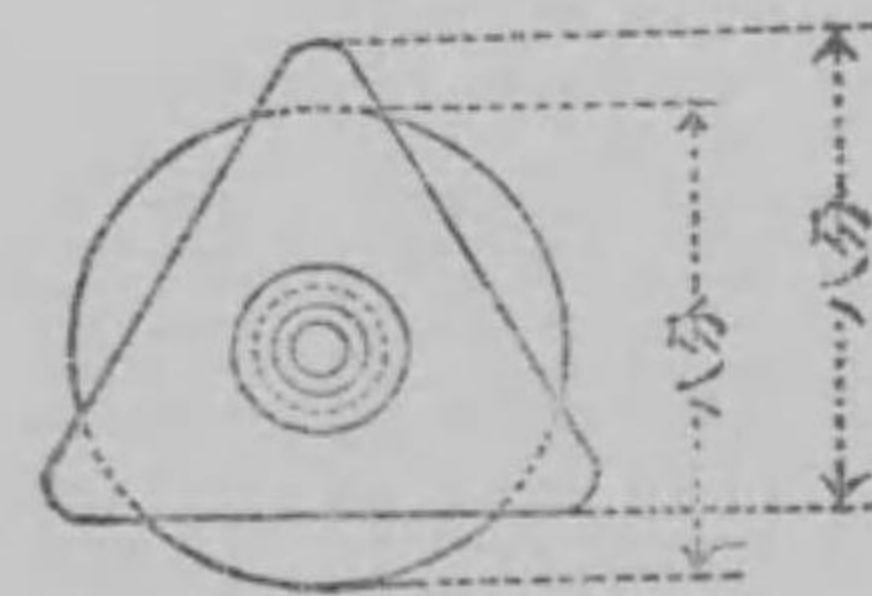


面斷

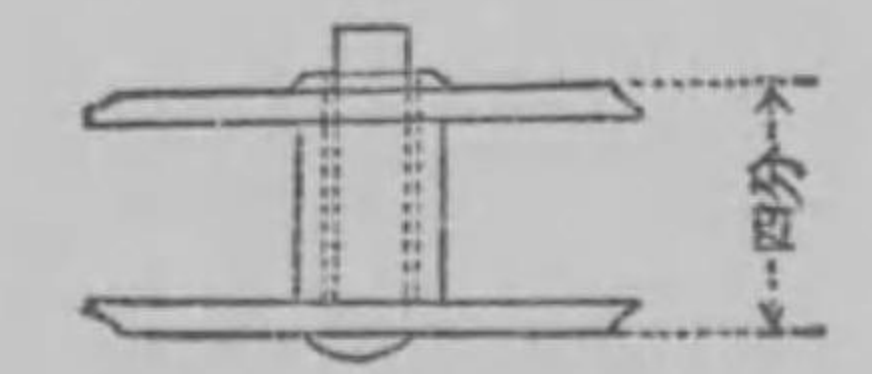


標耳式様號四第

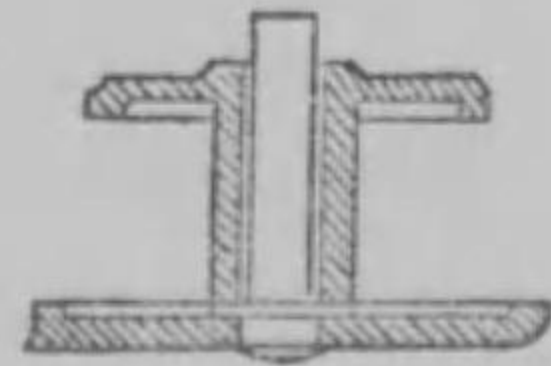
面平



面立



面斷



第十號様式

輸入畜牛結核病検査成績報告

成績表

税關

種類	内國				外國				總計
	乳用牛	種牡牛	其他牛	合計	乳用牛	種牡牛	其他牛	合計	
用途									
検査牛數									
健康牛									
疑症牛									
輕症牛									
重症牛									

備考

第三條第一項ニ依リ行ヒタル検査ノ成績報告ニハ甲號ト記シ
第二項及第三項ニ依リ行ヒタル検査ノ成績報告ニハ乙號ト記
スヘシ

内國種ノ欄中種牡牛及其ノ他ノ畜牛ノ欄ニハ内國種牛ニシテ
結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノノ検査成績ヲ記スヘシ
検査ノ状況ノ項ニハ検査ノ始期、終期、検査ノ日數、検査員
及評價人ノ資格、人員、豫防ニ關スル施設、畜産業ニ及ホシ
タル影響等ヲ記スヘシ

年月日

検査ノ状況

税關長名

備考

検査ノ状況ノ項ニハ輸入ノ年月日、検査ノ期日、輸入ノ禁止
及撲殺頭數、畜牛ノ留置其ノ他ノ處分及豫防ニ關スル施設等
ヲ記スヘシ

農商務大臣宛

地方長官名

第三輯 第二編 衛生 第二章 獸疫

●畜牛結核病豫防法第十三條ノ規定ニ依リ下付スル手當金ノ最高金額ニ關スル件

(大正十年四月二十三日勅令第百二十五號)

畜牛結核病豫防法第十三條ノ規定ニ依リ下付スル手當金ノ最高金額ハ畜牛ニ在リテハ生後六月以上ノモノハ一頭ニ付百八十五圓、生後六月未滿ノモノハ一頭ニ付三十五圓トシ物品ニ在リテハ二十五圓トス

附 則

本令ハ大正十年法律第八十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ニ關スル件

(大正十二年一月十九日勅令第九號)

家畜傳染病豫防法第二十三條及畜牛結核病豫防法第十六條ノ規定ニ依リ家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分左ノ通定ム

- 第一 左ニ掲グル費用ハ國ノ負擔トス
- 一 市町村吏員タル家畜防疫委員以外ノ家畜防疫委員ノ旅費
- 二 傳染病豫防ノ爲臨時傭入レタル獸醫ノ手當及旅費
- 三 評價人ノ手當及旅費
- 四 家畜傳染病豫防法第二十四條第一項及畜牛結核病豫防法第十三條第一項ノ規定ニ依ル手當金
- 五 牛疫免疫血清ノ購入及配送並「ツベルクリン」ノ製造及配送ニ要スル費用

●畜牛結核病豫防法第十三條ノ規定ニ依リ下付スル手當金ノ最高金額ニ關スル件

(大正十年四月二十三日勅令第百二十五號)

畜牛結核病豫防法第十三條ノ規定ニ依リ下付スル手當金ノ最高金額ハ畜牛ニ在リテハ生後六月以上ノモノハ一頭ニ付百八十五圓、生後六月未滿ノモノハ一頭ニ付三十五圓トシ物品ニ在リテハ二十五圓トス

附 則

本令ハ大正十年法律第八十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ニ關スル件

(大正十二年一月十九日勅令第九號)

家畜傳染病豫防法第二十三條及畜牛結核病豫防法第十六條ノ規定ニ依リ家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分左ノ通定ム

- 第一 家畜ノ牽付、送致、隔離、殺及家畜傳染病豫防法第三條第一項ノ處置ニ要スル費用
- 第二 檢疫、検査、隔離又ハ繋留中ニ要スル飼養管理費
- 第三 抑留シタル犬ヲ返還スル場合ニ於テ其ノ犬ノ抑留中ニ要スル飼養管理費及返還ニ要スル費用
- 第四 家畜傳染病豫防法第九條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ指揮ヲ待タスシテ消毒ヲ行ヒタル場合ニ要スル費用
- 第五 屍體及物品ノ焼却又ハ埋却ニ要スル費用
- 第四 屠場、化製場、家畜市場及之ニ附屬スル物品ノ消毒ニ要スル費用ハ場主又ハ開設者ノ負擔トス

(二五九)

●畜牛結核病豫防心得

(明治三十四年八月十五日勅令第百六十九號)

畜牛結核病ハ他ノ獸畜傳染病ト自ラ其ノ性質ヲ異ニシ病性頑固ニシテ汎ク牛群ニ蔓延シ人畜衛生及農業經濟ニ及ホス危害極メテ大ナリ抑木病ハ歐羅巴種牛ノ一部ニ原發シ漸次各國ニ傳播セシモノニシテ從來本邦土産ノ畜牛ハ殆ント之ニ罹ルモノナカリシモ外國種雜種ノ畜牛増殖スルニ隨テ結核病ハ年ヲ逐テ蔓延シ其ノ勢ノ熾ナル底止スル所ヲ知ラサルモノノ如シ今ニ迄シテ之ヲ制遏ノ法ヲ講セシムルハ他日防禦ノ策ナキニ至ラン畜牛飼養者ハ單ニ法令ノミニ一任セズ能ク本病ノ性質ヲ知悉シ各自警戒ヲ加ヘ日常自衛ノ法ヲ怠ラサルヲ要ス仍テ左ニ本病ノ性質、原因、傳染ノ状態及自衛法ノ要點ヲ掲ク

第五 前各項ニ掲グルモノヲ除ク外家畜傳染病又ハ畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

附 則

本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十四年勅令第百三十九號ハ之ヲ廢止ス

畜牛結核病ハ他ノ獸畜傳染病ト自ラ其ノ性質ヲ異ニシ病性頑固ニシテ汎ク牛群ニ蔓延シ人畜衛生及農業經濟ニ及ホス危害極メテ大ナリ抑木病ハ歐羅巴種牛ノ一部ニ原發シ漸次各國ニ傳播セシモノニシテ從來本邦土産ノ畜牛ハ殆ント之ニ罹ルモノナカリシモ外國種雜種ノ畜牛増殖スルニ隨テ結核病ハ年ヲ逐テ蔓延シ其ノ勢ノ熾ナル底止スル所ヲ知ラサルモノノ如シ今ニ迄シテ之ヲ制遏ノ法ヲ講セシムルハ他日防禦ノ策ナキニ至ラン畜牛飼養者ハ單ニ法令ノミニ一任セズ能ク本病ノ性質ヲ知悉シ各自警戒ヲ加ヘ日常自衛ノ法ヲ怠ラサルヲ要ス仍テ左ニ本病ノ性質、原因、傳染ノ状態及自衛法ノ要點ヲ掲ク

第一項 結核病ハ結核菌ト稱スル一種ノ細菌ニ原由スル慢性難治ノ傳染病ニシテ家畜ノ中牛、豚最モ之ニ罹リ易ク牛、馬、犬、羊、山羊、家畜等ニ傳染ス牛ニ於テハ主トシテ肺臟、胸膜、腹膜及淋巴腺ニ發シ又關節、乳房、生殖器、腸及腸ヲ侵スコトアルモ他ノ臟器ニ發スルハ罕ナリ馬、豚、犬ニ於テハ主トシテ腸及其ノ他ノ腹腔臟器ノ結核ヲ見ル
結核菌ハ病原菌ノ中比較的抵抗力ニ富ミ乾燥スルモ容易ニ毒力ヲ失ハス能ク温熱、腐敗作用ニ耐フ乳汁ノ如キ液體中ニ在リテハ熱ニ對スル抵抗力薄弱ニシテ攝氏七十度ノ熱ヲ加フレハ概ネ五分時乃至十分時ニシテ毒力ヲ失フ腐敗物中ニ在リテハ百餘日間毒力ヲ存スルコトアリ消毒藥ニ

對スル抵抗力モ亦他ノ病毒ト異ニシテ克ク昇永ニ抵抗シ其ノ千倍溶液ノ如キハ十數時ヲ後始メテ僅ニ結核菌ヲ殺シ得ルノミ獨リ日光ノ消毒力較ニ強ク數分間乃至數時間ニシテ其ノ毒力ヲ失ハシム

第二項 從來結核病傳播ノ原因ニ付テハ重キヲ遺傳ニ置キタリト雖實驗ニ徴スレハ疾病其ノモノノ遺傳ハ稀有ニシテ僅ニ要素ヲ傳フルニ過キス牡牛ノ生殖器結核ハ交尾ノ際牝牛ニ傳染スルコトナキニアラサルモ牝牛ヨリ胎兒ニ傳染セシ適例ハ未ダ證明スルヲ得ヌ又母牛ノ結核病ハ胎盤ニ發シスルカ或ハ其ノ血液中ニ多數ノ結核菌ヲ含有スルニアラサレハ胎兒ニ傳ハルコトナシ故ニ胎内傳染ノ例モ亦極メテ少數ニ止ルモノトス

第三項 結核病ハ他ノ傳染病ノ如ク概ネ出產後ノ傳染ニ由ル傳染ノ本源ハ結核菌其ノモノニシテ病源ハ專ラ呼吸、咳嗽、唾液、乳汁、創液、糞尿等ニ含有セラレ直接又ハ間接ニ他ノ健獸ニ傳染ス但シ間接傳染ノ媒介トナルモノハ畜舎、舍内器具、草、取扱人等ナリ

第四項 結核菌毒侵入ノ徑路ハ呼吸器及消化器ニシテ罕ニハ皮膚及粘膜ノ創傷ヨリ侵入ス其ノ最モ普通ノ傳染状態ハ左ノ如シ

- 一 呼吸器ハ結核菌毒ノ侵入スル普通ノ徑路ニシテ畜舎内ノ傳染ハ概ネ之ニ基ク是レ呼吸器結核ノ多キ所以ナリ結核菌毒ハ咳嗽ノ如キ深強ノ呼吸ヲナス際略痰霧狀ヲナシテ呼吸中ニ飛散シ又ハ塵埃ニ含有セラレ健牛ノ吸入スル所トナル換氣不良ニシテ殊ニ多數ノ牛ノ密棲セル畜舎ニ於テ此ノ危險最モ甚シトス
- 二 消化器傳染ハ呼吸器傳染ニ比スレハ較ニ難ナクシテ結核菌毒ヲ含有セル飼料、草、飲料水、乳汁、結核菌器等ヲ攝取スルニ由ル馬、豚、犬等ノ結核病ハ概ネ此ノ原因ニ出ツ
- 三 犢ハ呼吸器傳染ノ外屢ニ結核菌ヲ含有セル乳汁又ハ洗乳ヲ飲用スルニ由テ本病ニ感染ス

第五項 結核病傳染ノ難易及其ノ病勢ハ病毒ノ多少、性質ニ由ルト雖又大

ニ動物體質ノ強弱ニ關ス體質強健ナレハ假令病毒ニ觸ルルモ容易ニ之ニ感染セス之ニ反シ體質虛弱ナレハ傳染シ易ク且重症ニ陥ルノ傾多シ之ヲ素因ト謂フ

主要ナル素因ハ肺癆ノ發育不全、營養不給、呼吸器及消化器ノ加答兒ニシテ其ノ他不合理ノ搾乳、不良ノ飼料、換氣ノ失宜、小舎内畜牛ノ密集、運動ノ不足、早齡ノ交尾等ハ何レモ素因トラサルナシ故ニ畜牛ノ飼養者ハ努メテ這般不衛生ノ事項ヲ避ケサルヘカラス

第六項

一 畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ平素畜牛ノ健康状態ニ注意シ咳嗽、淋巴腺ノ腫脹、毛毳ノ粗硬其他結核病ノ疑ヲ生セシムル徵候ヲ認ムルトキハ直ニ獸醫ヲ招キ臨床的診察並ニツベルクリンノ注射ヲ請ヒ木病ニ罹リタルモノ又ハ其ノ疑アルモノハ自家ノ牛群ヨリ排斥シ健牛ノミヲ以テ蕃殖ヲ圖ルヘシ

二 健牛ト病牛トノ隔離ヲ履行シ相互ノ交通ヲ絶チ病牛ニハ特別ノ器具ヲ用ヒ成ルヘタ異リタル管理人ナシテ之ヲ取扱ハシムヘシ已ムヲ得ス同一人ナシテ健牛並病牛ヲ取扱ハシムルトキハ每次健牛ヲ先ニシテ次病牛ノ管理ヲナシ後石鹼水、石炭酸水等ヲ以テ其ノ手指ヲ洗滌スヘシ

三 輕症結核病ニ罹リタル畜牛又ハ結核病ノ疑アルモノノ産出セシ積ハ出產後直ニ母牛ヨリ之ヲ隔離シ攝氏八十度以上ノ熱ヲ加ヘタル健牛ノ乳汁ヲ以テ人工的哺乳ヲナスヘシ哺乳器及哺乳者ノ手指ハ微温石鹼水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

四 購入シタル畜牛ハ先ツ別舎ニ繋キ臨床的診察及ツベルクリンノ注射ヲ行ヒ健全ト認メタル後ニアラサレハ自家ノ牛群中ニ混入スヘカラス

第七項 結核病牛ノ附近ニハ豚、鶏、犬等ヲ接近セシメサル様注意スヘシ
第八項 排水設備ノ良否ハ畜舎内外ノ空氣ノ淨否ニ大ニ關係アルモノニシ

第三條 畜牛ノ所有者又ハ管理者中其ノ畜牛ノ種類ヲ誤リ又ハ知ラサルカ爲法令ノ規定ニ違反セル者アルコトヲ發見シタルトキハ懲罰ニ之ヲ説諭シ法令ノ規定ニ依ラシムヘシ故意ニ法令ニ違反セル者ニ關シテハ直ニ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 検査ノ爲奉付タル畜牛ハ爲ルヘク其ノ外貌ニ依リ健康ナルモノト異狀アルモノトヲ區別シ各別ニ之ヲ繋留セシムヘシ
「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ検査ヲ行フ場所ニハ成ルヘク寒目ヲ防キ消毒ニ便ナル施設ヲ爲スヘシ

第四條ノ二 乳用牛、外國種牛、雜種種牡牛及結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ検査スヘシ但シ營利ノ目的ヲ持テ乳用ニ供セサル乳用牛及種牡牛ニ非サル外國種牛ハ「ツベルクリン」ノ應用ニ依ラサルコトヲ得

第四條ノ三 「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル検査ハ皮下注射ノ方法ニ依ルヘシ但シ検査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ皮膚注射又ハ點眼法ヲ行フコトヲ得

第四條ノ四 「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ行ヒタル後四十五日以内ニ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ臨床的診察、皮膚注射又ハ點眼法ニ依ルコトヲ得

第四條ノ五 「ツベルクリン」ノ皮下注射ニ依ル結核病タル反應ハ「ツベルクリン」注射後攝氏一度以上ノ増温ヲ呈シ熱候稽留スルモノトス

皮膚注射ニ依ル結核病タル反應ハ注射部胡桃大以上ノ限局性腫脹ヲ呈スルモノトス點眼法ニ依ル結核病タル反應ハ結膜著シク潮紅シ涙液又ハ膿液ノ漏出スルモノトス

第五條 「ツベルクリン」ハ稀釋シタルモノト否トヲ問ハス光線ヲ遮リタル清涼ナル場所ニ置クコトヲ注意スヘシ

第六條 皮下注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」一分ニ煮沸水ヲ以テ溶解シタル二百倍ノ石炭酸水九分ヲ加ヘテ之ヲ稀釋スヘシ

テ排水法不完全ナルトキハ排泄物及其ノ他ノ汚物ハ停滯シテ大氣ハ其ノ發散セル不淨ノ分子ヲ含有スヘク動物ハ此ノ如キ不潔ノ大氣ヲ呼吸スルニ因テ終ニ其ノ健康ヲ傷フニ至ルヘシ故ニ畜舎内外ノ排水設備ハ完全ナラムコトヲ期スヘシ

第九項 病牛ノ糞尿、其ノ他ノ排泄物、辱草等ハ充分ニ消毒ヲ行ヒ病毒ノ浸潤シタル床土、運動場ノ表土等ハ新鮮ナル土砂ト取換フヘシ
本項ニ依リ消毒シタル排泄物等ハ充分日光ニ曬シタル後肥料トシテ使用スルハ妨ナシ

第十項 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁ハ法律ノ規定ニ從ヒ廢棄處分ヲ行フコトヲ要スト雖輕症結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ乳汁モ危險ノ虞アルカ故ニ攝氏八十度以上ノ熱ヲ加ヘタル後ニ非サレハ人畜ノ飲用ニ供セサルヲ安全ナリトス

畜牛結核病豫防法ニ依ル検査員執務規程

- (明治三十六年八月十九日) (農商務省令第九號)
(明治三十七年) (同令第五號)
(明治三十八年) (同令第一〇號)
(明治三十九年) (同令第一〇號)
(明治四十年) (同令第一〇號)
(大正三年) (同令第六號)
(同九年) (同令第五號)

警視廳 道廳 府縣 (東京府ヲ除ク)
第一條 検査員ハ其ノ職務ノ執行ニ關シ上司ノ指揮命令ヲ遵奉シ公平誠實ヲ旨トスヘシ

第二條 検査員ハ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ結核病ノ豫防制遏ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スヘシ

皮膚注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」一分ニ滅菌蒸餾水一分ヲ加ヘテ之ヲ稀釋スヘシ
點眼法ニハ濃厚「ツベルクリン」ヲ用フヘシ

第七條 検査器ハ感度鋭敏ニシテ標準トスヘキ正確ナル検査器ニ對照シテ度數ノ加減ヲ明確ニシタル堅牢ナルモノヲ用フヘシ

第八條 注射器ハ注射ニ用ユル前又ハ注射ニ用キタル毎二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒ヲ行ヒタル後煮沸水ニテ洗滌スヘシ

第九條 左ノ畜牛ハ検査猶豫ノ取扱ヲナスコトヲ得
一 結核病以外ノ疾病又ハ傷痍ノ爲検査ヲ受タルコト能ハサルモノ
一 分娩前一箇月以内若ハ分娩後十日以内ノモノ
一 六箇月未滿ノ幼牛

第十條 「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ行ハムトスルトキハ其ノ當日注射前ニ三回體温ヲ檢スヘシ

第十一條 「ツベルクリン」ヲ皮下注射スヘキ部位ハ頸部ノ側面トシ豫メニ十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒スヘシ

第十二條 皮下注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ左ノ分量ニ依ルヘシ
一 成 牛 ○・五乃至○・六立方仙達
一 一歳以上二歳未滿ノ畜牛 ○・三乃至○・四立方仙達
一 一歳未滿ノ幼牛 ○・一乃至○・二立方仙達

第十三條 「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタル後第八時ヨリ第二十時ニ至ル迄二時間毎ニ體温ヲ檢スヘシ但シ最高體温ニ達シタル後二回以上ノ檢温ニ於テ其ノ體温漸次下降スルコトヲ認メタルトキ又ハ二十時間以内ニ於テ常溫ニ復スルトキハ其ノ後體温ヲ檢スルヲ要セス

前項ノ場合ニ於テ第二十時ニ至リ畜牛ノ發熱稽留シテ下降セザルトキハ第三十二時ニ至リ更ニ體温ヲ檢スヘシ
第十三條ノ二 皮膚注射ヲ行フヘキ部位ハ尾根ノ皺襞トシ豫メ酒精ヲ以テ

消毒スヘシ

皮膚注射ニ用フル「ツベルクリン」ノ分量ハ〇、一立方仙達トシ注射後第二十四時ニ注射部ヲ檢シ其ノ反應確實ナラサルトキハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

第十三條ノ三、點眼法ヲ行フニハ右眼又ハ左眼ノ結膜囊内ニ二滴又ハ三滴ノ「ツベルクリン」ヲ點下シ點眼後第十二時ニ之ヲ檢シ其ノ反應確實ナラサルトキハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

第十四條 畜牛ノ診斷ハ検査員中主任獸醫ニ於テ之ヲ爲シ助手獸醫ハ單ニ補助ノ職務ヲ行フヘシ但シ一年以上助手ノ職務ヲ行ヒタル獸醫ハ地方長官ノ命ヲ承ケ主任獸醫ノ職務ヲ代理スルコトヲ得

結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ臨床上ノ症状及「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル結核病タル反應ハ精密ニ之ヲ記録シ検査終了ノ後地方長官ニ報告スヘシ

第十五條 (削除)

第十六條 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ隔離ヲ命スルトキハ左ノ事項ヲ指示スヘシ

- 一 別棟ノ畜舎ニ輕症結核ニ罹リタル畜牛ノミツ緊留スル場合ニ於テハ他ノ畜牛ト接近セシメサルコト
- 一 同一畜舎内ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト其ノ他ノ畜牛トヲ緊留スル場合ニ於テハ地盤ヨリ天井又ハ地盤ヨリ九尺ノ高さニ至ル迄土壁、木壁其ノ他堅牢ナル隔壁ヲ以テ舎内ヲ分割シ出入口及排洩溝ヲ異ニシ輕症結核ニ罹リタル畜牛ト他ノ畜牛トヲ各別ニ緊留セシムルコト
- 一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ他ノ畜牛ト交通ヲ絶タシムルコト但シ交尾ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 本條第一號及第二號ノ場合ニ於テ畜舎ニ附屬スル運動場アルトキハ

輕症結核病ニ罹リタル畜牛及其ノ他ノ畜牛ニ付各別ニ運動場ノ區域ヲ指示スルコト

一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ指定シタル畜舎若ハ運動場以外ニ出サシメサルコト但シ検査員ニ於テ場所及方法ヲ指示シテ放牧若ハ使役ヲ認可シ又ハ相當ノ間隔ヲ置キ結核病ノ疑アル畜牛ヲ同一畜舎ニ緊留セシムルコトヲ得

第十七條 前條ノ規定ハ重症結核病ニ罹リタル畜牛及結核病ニ罹リタル疑アル畜牛ノ隔離ニ之ヲ準用ス但シ重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ在リテハ放牧、使役又ハ交尾ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十八條 隔離ヲ命シタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ讓渡其ノ他正當ノ事由ニ依リ隔離ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ願出ツルトキハ前二條ノ規定ニ依リ更ニ之ヲ指示シ變更ノ場所他ノ警察官署ノ管轄區域ニ互ルトキハ其ノ所轄警察官署ニ通知スヘシ

隔離ヲ命シタル畜牛ヲ屠殺ノ爲隔離ノ場所ヨリ牽出スコトヲ願出ツルトキハ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設及屠殺スヘキ場所並期間ヲ指示シ之ヲ許可スヘシ

第十九條 検査員ハ隔離ヲ命シタル畜牛ヲ隨時監視スヘシ

第二十條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ヨリ搾取シタル乳汁ハ搾取後直ニ石炭酸水又ハ石灰乳ヲ混シ其ノ漏出ヲ防キ廢棄處分ヲ行フヘシ

第二十一條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ検査員ニ於テ十五日以内ニ之ヲ行ハシムヘシ

前項ノ畜牛ヲ撲殺ヲ行フヘキ場所ニ來行ク場合ニハ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ指示スヘシ

第二十二條 消毒ノ方法、埋却スヘキ屍體ノ措置、屍體又ハ畜牛ヲ移動スル場合ニ於ケル病毒ノ散布ヲ防クヘキ施設及結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體、其ノ部分並病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却スヘキ土

(二五八)

●獸疫調査所血清類賣拂規則

(大正十二年一月十九日 農商務省令第三號)

坑、場所ニ付テハ獸疫豫防法施行細則及獸疫豫防心得ノ規定ヲ準用ス

第一條 獸疫調査所ニ於テ賣拂フ爲ス血清類左ノ如シ

- 炭疽血清
 - 氣腫疽血清
 - 豚虎列刺血清
 - 豚丹毒血清
 - 加奈陀馬痘血清
 - 家禽痘血清
 - 家禽質扶的里血清
 - 腺疫血清
 - 炭疽第一豫防液
 - 炭疽第二豫防液
 - 狂犬病豫防液
 - 豚虎列刺豫防液
 - 豚丹毒豫防液
 - 豚疫豫防液
 - 牛ノ傳染性流産豫防液
 - 腺疫豫防液
 - ツベルクリン
 - 炭疽沈澱素血清
 - 豚丹毒沈澱素血清
 - 氣腫疽沈澱素血清
 - 豚丹毒沈澱素血清
 - 馬肉沈澱素血清
 - 牛肉沈澱素血清
 - 血清類ノ賣拂價格ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第二條 血清類ノ賣拂價格ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第三條 第一條ノ血清類中炭疽第一豫防液、炭疽第二豫防液、狂犬病豫防液、豚虎列刺豫防液、豚丹毒豫防液及牛ノ傳染性流産豫防液ハ官公署、畜産組合又ハ獸醫ニ限リ之ヲ賣拂フモノトス
- 第四條 血清類ノ賣拂ヲ受ケムトスル者ハ種類及數量ヲ記載シ獸疫調査所長ニ願出ツヘシ
- 第五條 血清類ノ代金ハ買受申出ノ際獸疫調査所ニ之ヲ納付スヘシ

附 則

本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第 三 章
衛 生

種 痘

第三章 種痘

- ◎種痘法 明治四年 法律三五號……………一頁
- ◎種痘法施行規則 明治四年 內令二六號……………三
- ◎種痘施術心得 明治四年 內告二七九號……………七
- ◎種痘法第八條ニ依ル符號記入方 明治四年 司令三三號……………七

第三章 種痘

◎種痘法

(明治四十二年四月十四日)
法律第三十五號

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月

ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

二 第二期 數ハ歳十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス

第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條 左ニ掲クル者ハ未成年ノ生徒、院生若ハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

一 學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長其ノ他首長

二 教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者

前項各號ニ掲クル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條 新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生ジタルトキハ種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者ヲシテ六月以内ニ種痘ヲ受

ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

前項ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長市長以下市町村長ハ區長員ニ届出ツヘシ

未成年者ヲ傭使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシムル場合ト雖前二項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第七條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得

前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其ノ證ヲ交付スヘシ

第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戶籍吏ニ通知シ戶籍吏ハ戶籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戶籍法第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條 種痘ノ意ヲタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證據不明ナル者ノ定期外ニ

受ケタル種痘ハ第一條第二項ノ場合ヲ除ク外其ノ定期種痘ト看做ス

第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市

町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ

受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘濟證ヲ交付スヘシ

第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付ス

ヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十

日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ

第十三條 醫師ハ其ノ診察ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過

證ヲ交付スヘシ

第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘

濟證又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ

限ニ在ラス

第十五條 地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受ケヘキ者ノ

範圍及期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得

臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條 醫師虛偽ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セシメテ種痘證ヲ交付シ

タルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ニ掲タル者ハ科料ニ處ス

一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ

種痘ヲ受ケシムル者

第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十九條 官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及第四

條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又

ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又

ハ禁治産者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ

之ニ準スヘキモノニ該當ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ハ七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其

ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘、數ハ八歳以後ニ種痘ヲ

受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第

種痘法施行規則

四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

(明治四十二年十二月二十一日) (内務省令第一二六號)

〔改正〕(大正八年) (省令第一〇號)

第一條 市町村長ハ市長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セハ毎

年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ現住人中左記各號ニ該當スル者ノ種痘期

日ヲ指定スヘシ

一 前年中出生ノ者

二 數ハ歳十歳ノ者

三 前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者

地方長官ハ警察官ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス種痘期

日ヲ指定セシムルコトヲ得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スヘシ

第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スヘシ

第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシ

テ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケシム

ヘシ

第四條 市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布坪利亞、梅毒、麻疹、百日咳

ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ又

ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フヘシ

第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ事

故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシ

ムヘシ

第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ運クモ次回ノ種痘

施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘシ

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フヘ

シ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之

ヲ指定スヘシ

第八條 種痘濟證、種痘證及種痘猶豫證ハ附録様式ニ據ルヘシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘濟證交

付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スヘシ

一 第一期種痘善感シタル者

二 第一期第二期ノ種痘不善感ナル者

三 第一期種痘施行前痘瘡ヲ經過シタル者

第十條 市町村長ハ戶籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ

依ル符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者カ本籍地

外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明

書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ出テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ届出ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請求アル場合

ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セザルコトヲ證明ス

ル者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示スルコトヲ要セス

一 痘瘡經過證

二 種痘猶豫證

三 小學校、之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ

保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ

第三輯 第二編 衛生 第三章 種痘

四 第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戸籍謄本又ハ抄本

五 市町村長ノ證明書

六 種痘又ハ痘瘡ノ痕痕但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ證據

附 則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様 式

用紙赤色紙

第一號(第一期第一回又ハ同第二回)

第一期種痘濟證

住所 道府縣都市區町村某女 何

年 月 日 月種痘(第一回)善感 類

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日 道府縣郡 市町村長 何

某 年 月生 某 師

〔注意〕 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十回以下ノ科料ニ處セララルヘシ

用紙赤色紙

第二號(第一期第二回ニ不善感)

第一期種痘濟證

住所 道府縣都市區町村某女 何

年 月 日 月種痘(第二回)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日 道府縣郡 市長村長 何

某 年 月生 某 師

〔注意〕 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十回以下ノ科料ニ處セララルヘシ

用紙青色紙

第三號(第二期第一回又ハ同第二回)

第二期種痘濟證

住所 道府縣都市區町村某女 何

年 月 日 月種痘(第一回)善感 類

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日 道府縣郡 市町村長 何

某 年 月生 某 師

〔注意〕 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十回以下ノ科料ニ處セララルヘシ

第三輯 第二編 衛生 第三章 種痘

第五號(第一期又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘濟證

住所 道府縣都市區町村某女 何

年 月 日 月種痘 不善感

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

年 月 日 道府縣郡 市町村長 何

某 年 月生 某 師

〔注意〕 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十回以下ノ科料ニ處セララルヘシ

用紙白紙

第四號(第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘濟證

住所 道府縣都市區町村某女 何

年 月 日 月種痘(第二回)不善感

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日 道府縣郡 市町村長 何

某 年 月生 某 師

〔注意〕 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十回以下ノ科料ニ處セララルヘシ

用紙青色紙

第七號(第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘濟證

住所 道府縣都市區町村某女 何

年 月 日 月種痘(第二回)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日 道府縣郡 醫師 何

某 年 月生 某 師

〔注意〕 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十回以下ノ科料ニ處セララルヘシ

第六號(第一期第一回又ハ同第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘濟證

住所 道府縣都市區町村某女 何

年 月 日 月種痘(第一回)善感 類

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日 道府縣郡 市長村長 何

某 年 月生 某 師

〔注意〕 此證ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十回以下ノ科料ニ處セララルヘシ

第三輯 第二編 衛生 第三章 種痘

〔注意〕 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラレヘシ

第八號 (第二期第一回又ハ第二期第二回)

第二期種痘證

住所 道府縣都市區町村某男 何 年 某 月 某 日 道府縣都市區町村 醫師 何 某 〇

〔注意〕 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラレヘシ

第九號 (第二期第一回又ハ第二期第二回)

第二期種痘證

住所 道府縣都市區町村某男 何 年 某 月 某 日 道府縣都市區町村 醫師 何 某 〇

〔注意〕 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラレヘシ

第十號 (第一期第一回又ハ第二期第一回)

第一期種痘證

住所 道府縣都市區町村某男 何 年 某 月 某 日 道府縣都市區町村 醫師 何 某 〇

〔注意〕 此證ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラレヘシ

第十一號

第一期種痘證

住所 道府縣都市區町村某男 何 年 某 月 某 日 道府縣都市區町村 醫師 何 某 〇

〔注意〕 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラレヘシ

第三輯 第二編 衛生 第三章 種痘

種痘術心得

(明治四十二年十二月二十一日)

- 第一條 種痘ニ要スル痘苗ハ牛痘苗ヲ用フヘシ
第二條 痘苗ハ冷暗所(氷室、地下室、又は深井内等)ニ貯藏シ製造所ノ指定シタル期間内ニ之ヲ使用スヘシ
第三條 痘苗ノ接種量ハ製造所ノ指定ニ從フヘシ
第四條 痘苗使用ノ際ハ其ノ内容ヲ發盤上ニ出シ能ク之ヲ攪拌混和スヘシ
第五條 痘苗接種ノ部位ハ上膊ノ伸側ヲ可トス
第六條 種痘ノ場所ハ相當廣潤ニシテ清潔ナル場所ヲ選ビ其ノ換氣、採光、燈室ニ注意スヘシ
第七條 施術者ハ成ルヘク上衣ヲ著シ且豫メ手指ヲ消毒スヘシ
第八條 發盤及種痘針ハ使用ニ先チ「アルコホル」又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ之ヲ消毒シ次ニ滅菌シタル「ガーゼ」ヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ但シ適當ナル他ノ消毒方法ニ依ルモ妨ナシ
第九條 接種ノ方法ハ切種式ニ依ルヘシ即チ局部ノ皮膚ヲ緊張シ相當量ノ痘苗ヲ塗布シタル後切種用種痘針ヲ以テ其ノ部ニ淺キ十字切乃至二分若ハ單線切三分ヲ施シ更ニ種痘針ノ平面ヲ以テ痘苗ヲ擦入スヘシ
第十條 接種數ハ第一期種痘ニ在リテハ右上膊四切乃至六切、第二期種痘其ノ他ニ在リテハ左上膊六切トシ各切ノ距離ハ五分以上ナルヲ要ス但シ必要アルトキハ他側又ハ他ノ部位ニ接種スルモ妨ナシ

種痘法第八條ニ依ル符號記入方

(明治四十二年十二月二十四日)

- 第一條 (戶籍吏)カ種痘法第八條ノ通知ヲ受ケタルトキハ本人ノ戶籍ノ欄外氏名ノ下ニ左ノ區別ニ從ヒ符號ヲ記入スヘシ
善感者ナルトキ
第一期種痘施行前痘苗ヲ經過シタル者ナルトキ
第二期 (戶籍吏)ハ毎年十二月末日迄ニ前年中出生ノ本籍人ニシテ其ノ戶籍ニ前條ノ符號ノ記入ナキモノノ本籍地及ヒ氏名ヲ市町村長ニ通知スヘシ
附 則
本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第 四 章
衛 生

污 物 掃 除

第三輯 第二編 衛生 第四章 汚物掃除

第四章 汚物掃除

- ◎ 汚物掃除法 明治三年 法律三號……一頁
- ◎ 汚物掃除法施行規則 明治三年 内令五號……一

第四章 汚物掃除

◎汚物掃除法

(明治三十三年三月七日)
法律第三十一號

- 第一條 市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ
- 第二條 市ハ本法其他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除ク外其ノ区域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ
- 第三條 市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ処分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲生スル收入ハ市ノ所得トス
- 第五條 地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得
- 第六條 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得
- 第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ
- 前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ必要ノ期限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第三輯 第二編 衛生 第四章 汚物掃除

第九條 汚物ノ種類汚物掃除並清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

- 第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十一條 地方長官ハ區町村、町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

◎汚物掃除法施行規則

(明治三十三年三月八日)
内務省令第五號

(改正) (明治四三年)
省令第一二號

(大正六年)
省令第一二號

- 第一條 汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥汚泥汚水及屎尿トス
- 第二條 市内ノ土地ノ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ
- 建物ノ所有者ハ其ノ建物アル土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 建物ナキ土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 第三條 掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥ヲ其ノ容器ニ蒐集スヘシ
- 汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ
- 土地ニ定著シタル塵芥溜ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第四條 溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排洩スヘシ
 地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラズ別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得
 地方長官ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排洩セシムヘカラスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲ爲サシムヘシ

第五條 市ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ可成之ヲ焼却スヘシ

第六條 市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排洩スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕スヘシ

第七條 公共溝渠ニ汚水ハ之ヲ適當ノ場所ニ排洩スヘシ

第八條 市ハ公共便所ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第九條 市ハ其ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除、掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其ノ汚物ノ處分ニ關シ方法順序ヲ定メ、地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視員ノ職務ハ左ノ如シ

- 一 汚物掃除法第二條及第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス
- 二 公共溝渠公共便所塵芥焼却場其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ監視ス
- 三 汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル私人ノ施設ヲ監視ス
- 四 汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ履行ス

第十一條 市ハ掃除監視員ノ職程章程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 掃除監視員汚物掃除法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日

出後日没前ニ於テシ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 掃除監視員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職程章程ニ別段ノ規定アル場合ノ外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ發スヘシ

第十五條 汚物ノ爲又ハ溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル施設ノ爲衛生上危害ヲ受クル者ハ掃除監視員ニ申告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ掃除監視員ハ職程章程ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ屎尿ヲ注流シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十八條 下水道ヲ施設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ履行セス

第十九條 公共道路ノ掃除ハ當分ノ内從前ノ成規ニ依ル但シ公共道路ヲ掃除シタル塵芥ニ關シテハ第三條第五條及第九條ヲ適用ス

第二十條 地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラズ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

汚物掃除法施行前廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ構造設備ヲ爲シタル塵芥溜ニシテ汚物掃除法施行ノ際現ニ存スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ内其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 屎尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ市ヲシテ處分セシムヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ處分方法ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以内ヲ限リ公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ本則ニ定ムルモノ、外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其ノ他清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 東京市及八王子市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

(附 録)

戒 告 書

履行スヘキ事項
 (記載例)
 (臺所流ヨリ公共溝渠ニ通スル小溝ノ處處破壊セル部分ヲ修繕スルコト)
 (井戸流ノ板ノ腐朽セルヲ改築スルコト又該流ヨリ溝渠迄ノ間ニ水路ナキヲ以テ溝渠ヲ築造スルコト)
 (東側ノ椽ニ沿フテ設ケタル洗面所ノ下ノ吸込ミトナリタル場所ニ排水上適當ノ施設ヲ爲スコト)
 (履行スヘキ期限 送達ノ日(又ハ時)ヨリ何日(又ハ何時間)以内)

右汚物掃除法第七條ニ依リ戒告ス

年 月 日 氏 名 殿 職 氏 名 印

年月日時送達 氏 名

衛生
第五章

屠
場

第五章 屠場

- 屠場法
明治三九年 法律三三號……………一頁
- 屠場法施行規則
明治三九年 内令一六號……………二
- 切迫屠殺ニ關スル件
明治三九年 衛保二四六號回答……………三
- 屠場ノ構造設備標準
明治三九年 内令一七號……………三
- 屠畜検査心得
大正二年 内訓一三號……………四
- 屠畜取締ノ費用負擔及検査手数料ニ
關スル件
明治三九年 勅令一七二號……………七

第五章 屠場

◎屠場法

(明治三十九年四月十二日)
(法律第三十二號)

- 第一條** 本法ニ於テ屠場ト稱スルハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺スル屠場ヲ謂フ
- 第二條** 本法ニ於テ獸畜ト稱スルハ牛、羊、豚及馬ヲ謂フ
- 第三條** 屠場以外ニ於テハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺解體スルコトヲ得ス但シ自家用其ノ他特別ノ事情アル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
- 第四條** 屠場ニ於テハ屠畜検査員ノ検査ヲ經サル獸畜ヲ屠殺解體スルコトヲ得ス
- 屠肉、内臓其ノ他食用ニ供スル部分ハ屠畜検査員ノ検査ヲ經ルニ非サレハ屠場外ニ搬出シ又ハ製造ノ用ニ供シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス
- 第五條** 屠場ニハ屠畜検査ノ爲ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ
- 第六條** 市町村ニ於テ屠場ヲ設立スルトキハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ必要ト認ムル地區内ニ於ケル私設屠場ノ廢止ヲ命スルコトヲ得
- 第七條** 屠場ヲ設立スル市町村ハ廢場ヲ命セラレタル私設屠場主ニ對シ屠場ノ使用廢止ノ爲受クヘキ損失ヲ補償スヘシ

第三輯 第二編 衛生 第五章 屠場

- 前項ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
- 第八條** 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ屠場ノ設置ヲ市町村ニ命スルコトヲ得
- 第九條** 市町村ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ認可ヲ得ルニ非サレハ屠場ヲ廢止スルコトヲ得ス
- 第十條** 市町村立屠場ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市町村ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得
- 第十一條** 衛生上危害ヲ生シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ屠場ノ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得
- 第十二條** 地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ必要ト認ムルトキハ屠場設備ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第十三條** 第三條、第四條ニ違背シタル者又ハ第十一條ノ停止ヲ犯シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條** 屠畜ニ關スル營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定

代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 屠畜ニ關スル營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カレコトヲ得ス

第十六條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ノ罰金ニキテハ其ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十七條 本法施行ノ際現ニ存スル屠場ハ本法施行後三箇年間ハ本法ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ許可期間三箇年以内ナルトキハ其ノ期間ニ依ル

第十八條 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區、一級町村、二級町村及沖繩縣ノ區其ノ他市町村ニ準スヘキ地ニ適用ス

第十九條 本法ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

屠場法施行規則

(明治三十九年六月二十二日) (內務省令第十六號) (舊令第一九號)

了前解放セラレタルモノノ屠殺解體ヲ爲ス場合ハ屠殺解體終了後直ニ居室、繋留所、生體検査所、通路及業務上使用スル物件並ニ生皮、内臓、血液、胃腸内容物其ノ他検査員ノ特ニ必要ト認ムル場所、物件ニ對シ検査員ノ指示ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

第九條 生體検査ノ際検査員ニ於テ獸畜力疾病ニ罹リ食用ニ供スヘカラスト認メタルトキハ屠殺ヲ禁シ角又ハ前蹄若ハ腎部ニ禁字ヲ烙印スヘシ其ノ傳染病ナル場合ハ直チニ隔離セシメ病畜ニ汚染シタル場所、物件ニ對シ消毒方法、清潔方法ヲ施行セシムヘシ

第十條 病畜ハ生體検査ニ於テ食用ニ供スルモ衛生上危害ノ虞ナシト認メラレタルモノト雖モ病畜居室以外ニ於テ屠殺スルコトヲ得ス但シ検査員ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 屠殺解體ヲ終リタルトキハ検査員ハ屠内、内臓其ノ他食用ニ供スル部分ニ烙印ヲ爲スヘシ

第十二條 屠殺解體後検査員ニ於テ獸畜力傳染病ニ罹レルコトヲ發見シタルトキハ居室其ノ他病畜ニ汚染シタル場所、物件ニ對シ消毒方法、清潔方法ヲ施行セシムヘシ

第十三條 地方長官ハ食用ニ供スヘカラスト認メタル屠内、内臓其ノ他ノ部分ニ關シ明治三十三年法律第十五號第一條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第一條 屠場法第二條ニ依リ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ依リ)ニ於テ屠場ノ設立ヲ私人ニ許可スルトキハ一定ノ期限ヲ附スルコトヲ要ス

第二條 地方長官ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ屠場主ノ名義ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條 左ニ掲タル場合ニ於テハ屠場法第三條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
一 獸肉販賣業者、旅店、飲食店又ハ料理店ニ非スシテ積(一年未満)、羊、豚ヲ自家用ニ供スル場合
二 不慮ノ災害ニ因リ負傷シ若ハ救フヘカラサル状態ニ陥リ又ハ難産、産褥痲痺若ハ急性鼓脹症ニ因リ切迫屠殺ヲ必要トスル場合但シ此ノ場合ニ於テハ屠場以外ニ於テ解體スルコトヲ得ス

第四條 屠場使用料及屠殺料ハ其ノ額ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ増減スルコトキ亦同シ

第五條 屠場主又ハ屠畜業者ハ定額以外ノ料金ヲ受ケ又ハ正當ノ事由ナクシテ屠場ノ使用若ハ屠殺ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 屠場ハ獸畜ノ屠殺解體ノ外他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 屠場ハ常に清潔ナラシムヘク居室、繋留所、生體検査所及業務上使用スル器具ハ屠殺終了後之ヲ洗滌シ血液、汚物及汚水ハ検査員ノ指示ニ從ヒ之ヲ廢置スヘシ

第七條ノ二 支那、西伯利亞ヨリ輸入スル牛羊ノ屠殺解體ヲ爲ス場合及支那、西伯利亞以外ノ地方ヨリ輸入若ハ移入スル牛羊ニシテ検査期間滿

第十四條 第九條第二項ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ(重禁錮)ニ處ス
第十五條 第二條第四條第五條第六條第十條ニ違背シタル者及第七條第七條ノ二第九條第一項第十二條ノ命令ニ應ゼサル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第八條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本則ハ明治三十九年法律第三十二號屠場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

切迫屠殺ニ關スル件

(大正十四年四月十六日) (內務省令第四六號) (舊令第二四六號)

屠場法施行規則第三條第二號中急性鼓脹症トアルハ狹義的ニ牛羊ノ急性鼓脹症ノミヲ指稱スルモノト解シ可然ト存候

屠場ノ構造設備標準

(明治三十九年六月二十七日) (內務省令第十七號)

屠場ノ位置ハ獸畜ノ搬入屠内ノ搬出及給水並排水ニ便ニシテ左ノ各號ノ地域外タルコトヲ要ス

一 離宮、御用邸又ハ御陵墓ヨリ五町以内ノ地
二 社寺、學校、病院、公園又ハ水道水源ヨリ二町以内ノ地
三 前各號ノ外地方長官、東京府ニ於テハ警視總監ニ於テ風致上若ハ公衆及獸畜ノ衛生上不適當ト認メタル地

屠場ニハ繋留所、生體検査所、居室、検査室、血液溜、汚水溜、汚物溜、消毒所及隔離所ヲ設ケ其ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 繋留所ハ地盤ヲ石、コンクリート又ハ煉瓦ニ止ムヲ得サルトキハ漆喰又ハ厚板)ニテ築造シ後方ニ汚水溝ヲ設ケ牛、馬ハ一頭毎ニ積、羊、豚ハ適宜ニ區劃ヲナシ各區ニ番號ヲ附記スルコト

二 生體検査所ハ地盤ヲ石、コンクリート又ハ煉瓦(止ムヲ得サルトキハ漆喰又ハ厚板)ニテ築造シ體量及體尺ノ計測設備保定ニ關ス

第十四條 第九條第二項ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ(重禁錮)ニ處ス
第十五條 第二條第四條第五條第六條第十條ニ違背シタル者及第七條第七條ノ二第九條第一項第十二條ノ命令ニ應ゼサル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

- ル設備ヲナスコト
- 三 屠室ハ屠室、牛馬屠室、犢羊屠室、豚屠室、病畜屠室、内蔵取扱室及外皮取扱室ニ區別シ生體、屠肉、内臓等ノ搬出入口ヲ各別ニ設ケ地盤ハ石又ハ「コンクリート」又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ血液、汚水ヲ排除スヘキ溝ヲ設ケ勾配ヲ付シ内臓ニハ（石又ハ煉瓦造ノ場合ヲ除ク）金屬又ハ石板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲナシ彩光換氣ノ爲窓ヲ設ケ内臓検査臺、屠肉懸吊器、屠肉秤量器ヲ備フルコト
- 四 検査室ニハ顯微鏡其ノ他検査ニ必要ナル器具、藥品ヲ備フルコト
- 五 検査室ニハ検査員詰所ヲ附屬セシムルコト
- 六 血液溜、汚水溜、汚物溜ハ屠室ヨリ三間以上ノ距離ヲ有シ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ其ノ周壁ハ地盤ヨリ五寸以上ヲ高メ且ツ雨水ヲ防クヘキ装置ヲナスコト
- 七 消毒所ハ場内適當ナル場所ニ之ヲ設ケ消毒上必要ナル装置ヲナスコト
- 八 屠場ノ周圍ニハ見透ササル模塼塼ヲ設ケ之ニ閉鎖シ得ヘキ門戸ヲ附スヘシ前各項ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ應シ之カ省略ヲ許可スルコトヲ得
- 九 屠羊、豚ノ屠殺目的トスル屠場ニ關シテ亦同シ

●屠畜検査心得

- 第一條 生體検査ハ左記各號ニ據リ之ヲ行フヘシ
- (一) 検査ハ屠殺ノ當日之ヲ行フヘシ
- (二) 牛馬ノ検査ハ保定設備アル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ

〔改正〕
 (大正二年六月十四日
 内務省訓令第十三號)
 (昭和二年
 訓令第一〇號)
 (昭和四年
 訓令第五號)
 臨時縣(東京府ヲ除ク)

屠肉

- (三) 獸種ノ異ナルニ從ヒ特ニ左ノ方法ニ依リ検査ヲ行フヘシ
- (イ) 牛ニアリテハ内外咬筋特ニ外咬筋ヲ下顎ト併行シテ切斷シ肝臓ハ輸尿管及スピゲル葉ヲ横斷シ又腎臓ハ脂肪ヲ成ルヘク分離シ子宮ハ切開スヘシ
- (ロ) 犢ニアリテハ臍及關節ヲ検査スヘシ
- (ハ) 馬ニアリテハ頭ヲ縱斷シテ鼻中隔ヲ切斷シ鼻中隔、鼻腔並其ノ粘膜ヲ検査スヘシ
- (ニ) 豚ニアリテハ腹筋、横膈膜、頸、心臟、舌、咽喉、頭部ヲ切斷シ且肉片ヲ採取シテ鏡検査スヘシ
- (ホ) 羊ニアリテハ、肝臓、肺臓、心臟ヲ切斷シ又頭蓋ヲ開キテ検査スヘシ
- (四) 検査員ハ前二號ノ検査ヲ行フニ當リ必要アルトキハ肉、臟器等ヲ截切シテ精検査スヘシ但必要ノ程度ヲ超ヘサル様注意スヘシ
- 検査ニ依リ異狀ヲ發見シ必要ヲ認メタルトキハ進テ機宜ノ検査ヲ行フヘシ
- (五) 獸體ノ局部食用ニ供スヘカラサルモノ左ノ如シ
- 化膿性又ハ壞疽性皮膚炎アル部分
- 外傷ノ部分
- 結締織筋、腱、臟器ノ炎症アル部分
- 著シキ畸形ノ部分
- 炎性産物ニヨリ汚染シタル部分
- 腫瘍ノ部分
- 石灰變性ノ部分
- 放線菌腫、葡萄菌腫ノ部分
- 疾病ノ爲メ筋肉又ハ臟器ノ萎縮セル部分
- 寄生蟲及寄生蟲ヲ分離シ能ハサル部分

- (三) 獸畜ハ清潔ニシ草鞋、不必要ナル繩索等ヲ去リ正シク繫留セシムヘシ
- (四) 獸畜ノ體重ヲ場内設備ノ秤量器ニ依リ量定スヘシ
- (五) 検査員ハ先ツ望診ヲ行ヒ更ニ角根又ハ耳根ニ於テ驗温シ而シテ眼、鼻腔、口腔ヲ開檢シ獸畜ノ一方ノ側面ニ於テ頸部、軀幹、前肢ヲ觸診シ後方ニ廻リ生殖器、後肢ヲ檢シ而シテ他方ノ側面ニ於テモ同ノ方法ヲ行ヒ若シ異狀ヲ認ムル時ハ症狀ニ依リ精密ナル診察法ヲ行フヘシ
- (六) 前號ノ検査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ニ依リ屠場法施行規則第九條第一項及第十條ニ照シテ處分スヘシ
- (七) 屠殺ノ許可ヲ與ヘタルトキハ内臓ト屠肉トノ合符ヲ交附スヘシ
- 第二條 屠殺後ノ検査ハ左記各號ニ據リ之ヲ行フヘシ
- (一) 検査員ハ検査ノ際必ス二箇以上ノ肉刀ヲ攜帶シ病畜又ハ病的變性物ニ接觸シタル肉刀ハ直チニ消毒スヘシ
- (二) 検査員ハ左ノ順序ニ依リ獸體ヲ検査スヘシ
- 頭、舌、咽喉、頸及其ノ附近ノ諸腺
- 肺臓、肺根、淋巴腺、縱膈腺
- 心臟、心囊(必ス兩心室ヲ動脈ニ沿フテ切開スヘシ)
- 橫膈膜
- 肝臓、肝門及其ノ附近ノ淋巴腺
- 胃、腸、腸間膜、淋巴腺及網膜
- 脾臓
- 膀胱
- 腎臓、其ノ附近ノ淋巴腺及膀胱
- 睪丸、陰莖、卵巢、子宮、膣及外陰
- (六) 左記ノ諸症ニ罹レル獸體ハ其ノ全部食用ニ供スヘカラサルモノトス
- 法定獸疫(但シ牛ノ傳染性流産及馬、羊ノ疥癬ヲ除ク)
- 膿毒症、敗血症
- 尿毒症
- 強直症
- 高度ノ黄疸
- 高度ノ水腫
- 腫瘍(筋、骨、淋巴腺ニ多數發生セルトキ)
- 旋毛蟲病
- 中毒諸症(人體ニ有害ノ虞アルモノ)
- (七) 結核病ニ罹レルモノハ畜牛結核豫防法施行規則第二十一條ニ依リ處置スヘシ
- 第三條 屠場法施行規則第九條ニ規定ノ烙印ハ別記標形第一號ニ據ルヘシ
- 第四條 屠場法施行規則第十一條ニ規定ノ烙印ハ別記標形第二號ニ據ルヘシ但シ支那、西伯利亞ヨリ輸入スル牛ニ付テハ別記標形第三號ニ據ルヘシ
- 前項ノ烙印ハ獸種ニ應シ少ナクモ左ノ各部ニ押捺スヘシ
- 牛、馬(屠肉) 頸側、肩、胸 内外部
- 背 前、中、背、後位、後ノ内外部
- 前後肢、内外後側、腹内外部
- 頭、舌、尾
- (内臓) 心臟、肺臓、肝臓、胃
- 頸、肩、胸 内外部、前後肢 上下内外側
- 背 内外部(腎臓ノ部位、頭、舌)
- 但シ犢ニシテ剥皮セサル場合ハ捺印スヘキ部分ニ於テ適宜ニ剥皮シ捺印スルコト

第三輯 第二編 衛生 第五章 屠場

羊、山羊 頸、肩、背、内外部、鬃鬃ノ部位、腹、内外部、前後肢、内外部、頭、頸、肩、背、内外部、腹、内外部、前後肢、上下内外側、頭

第五條 食用ニ供スヘカラストシテ廢棄ヲ命シタルモノハ之ヲ細斷シテ一時間以上攝氏百度以上ノ熱ヲ加ヘ又ハ獸疫預防法ニ定ムル消毒藥若クハ粗製強酸類ヲ以テ消毒ヲ行ハシムヘシ 食用ニ供スヘカラスト認メタルモノト雖モ角、蹄、皮、骨、骨ノ傳染性皮産物ヲ除外シテ(骨ノ消毒ニ關シテハ化學工業用ニ脂肪ハ攝氏百度以上ノ熱ヲ加ヘ融解シタル後工業用ニ使用セシムルコトヲ得

第六條 検査員ハ前條ノ處置ヲ終ル迄屠場スヘカラスト 第六條ノ二 屠場法施行規則第七條ノ二第九條第一項及第十二條ノ消毒方法ハ左ノ各號ニ據リテ之ヲ施行セシムヘシ 一 居室ニハ「クレゾール」水(クレゾール石鹼)又ハ防疫用石炭酸水(防疫用石炭酸五分、普通食鹽一分、常水九十分)ヲ撒布シテ消毒セシムヘシ 二 屠畜所、生體検査所、通路其ノ他ノ場所ニハ昇水水(昇水一分、普通食鹽一分、常水九十分)ノ多量ヲ撒布スルコト但シ昇水水ヲ撒布シタル場合ハ一時間以上ヲ經過シタル後硫化「カリウム」水(硫化「カリウム」一分、常水九十分)ヲ以テ其ノ部ヲ洗滌スルコト

第八條 検査員ハ帳簿ヲ備ヘ屠殺ヲ禁止又ハ食用ニ供スヘカラストモノノ處分ニ關シ其ノ理由ヲ詳記シ又病の變性物ハ適宜之ヲ保存スヘシ 附 則 本令ハ大正二年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス (別記雜形)

第三輯 第二編 衛生 第五章 屠場

印格號一第



(管部用) 徑二寸四分



(角又ハ前蹄用) 徑八分

印檢號二第



横 徑 二 寸 橋 徑 一 寸 二 分

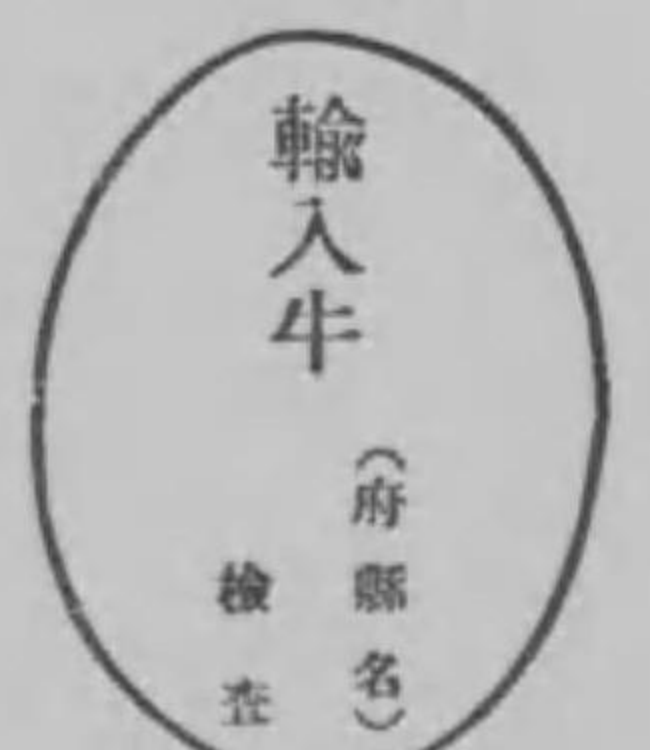


横 徑 一 寸 二 分 猪 羊

内又ハ其ノ附近ニ於テ之ニ加工スル場合ニハ惡臭ヲ發セシメサル方法ヲ採ラシムルコト 第八條 検査員ハ帳簿ヲ備ヘ屠殺ヲ禁止又ハ食用ニ供スヘカラストモノノ處分ニ關シ其ノ理由ヲ詳記シ又病の變性物ハ適宜之ヲ保存スヘシ 附 則 本令ハ大正二年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス (別記雜形)



横 一 寸 二 分 縱 一 寸 五 分 印檢號三第



横 徑 一 寸 二 寸 縱 二 寸

屠畜取締ノ費用負擔及檢査手数料ニ關スル件 (前三十九年六月二十七日) (改正) (大正二年) (勅令第二四六號) 第一條 屠畜取締ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但シ東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス 第二條 道廳府縣ハ檢査手数料ヲ徵收スルコトヲ得 第三條 前條ニ依リ徵收シタル手数料ハ北海道地方費又ハ府縣ノ收入トス 但シ東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ收入トス 附 則 本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

前項ノ方法ニ據リ難キ場合ハ「クレゾール」水(クレゾール石鹼)防疫用石炭酸水(防疫用石炭酸五分、普通食鹽一分、常水九十分)ヲ撒リタル水槽中ニ投入シ十分ニ浸潤セシメタル後湯湯及石鹼ヲ以テ洗滌スルコト 四 生皮ハ「クレゾール」水(クレゾール石鹼)防疫用石炭酸水(防疫用石炭酸五分、普通食鹽一分、常水九十分)ヲ以テ消毒セシムヘシ 又ハ「フォルマリン」水(リンゴ酸一分、常水九十分)ヲ以テ消毒セシムルコト 五 内臓、血液、角、蹄、骨ハ散逸ヲ防キ一定ノ場所ニ收集シ内臓及骨ハ之ヲ適當ノ大サニ切斷シ總テ攝氏百度以上ニ於テ一時間以上煮沸スルコト 六 胃腸内容物ハ一定ノ場所ニ收集シ製成石灰、石灰乳(製成石灰)「クロー」石炭酸又ハ「クロー」石炭水(「クロー」石炭酸)ノ多量ヲ加ヘ十分攪拌スルコト 七 屠殺解體ニ從事シタル者ノ手足ハ昇水水(昇水一分、普通食鹽一分、常水九十分)又ハ「クレゾール」水(クレゾール石鹼)又ハ防疫用石炭酸水(防疫用石炭酸五分、普通食鹽一分、常水九十分)ヲ用キ刷毛ニテ擦拭シ更ニ湯湯及石鹼ヲ用キテ洗滌スルコト 第七條 検査員ハ左記各號ニ注意シ嚴重ニ監督スヘシ (一) 屠畜ナル方法ニテ獸畜ヲ屠殺セサルヲ旨トシ其ノ頭骨堅キモノハ銃殺其ノ他適宜ノ方法ニ依ラシムルコト (二) 汚物汚水ヲ場内ニ停滞セシメサルコト (三) 屠内、内臓等ノ運搬用器ハ常ニ清潔ニシ運搬ノ途中塵埃等ニ依ル汚染ヲ防キ且汚水ヲ漏洩セシメサルコト (四) 屠肉ノ洗滌、屠場ノ清潔ニ要スル熱湯及冷水ノ供給ヲ充分ナラシムルコト (五) 血液ハ成ルヘク受血器ニ探リ必ス毎日場外ニ搬出セシムヘシ若シ場

第 衛
六 章
章 生

飲
食
物

第六章 飲食物

- ◎ 飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件 明治三年 法律一五號……頁
- ◎ 飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件 明治三年 内令一〇號……
- ◎ 飲食物及布片中砒素及錫ノ試験方法 明治三四年 内令三〇號……二
- ◎ 飲食物用器具取締規則 明治三年 内令五〇號……三
- ◎ 飲食物防腐劑取締規則 明治三六年 内令一〇號……四
- ◎ 飲料水注意法 明治二年 達乙一八號……五
- ◎ 清涼飲料水營業取締規則 明治三年 内令三〇號……六
- ◎ 清涼飲料水營業取締規則改正ノ件 大正二年發衛五三號通牒……八
- ◎ 氷雪營業取締規則 明治三年 内令三七號……八
- ◎ 輸入水取締ニ關スル件 大正二年阪衛四六號通牒……九
- ◎ 牛乳營業取締規則 明治三年 内令一五號……九
- ◎ 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處分ニ關スル件 明治三年 内令四六號……二
- ◎ 牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法 明治三年 内令二〇號……二
- ◎ 清酒中「サリチル」酸ノ試験法 明治三年 内令一、號……二
- ◎ 清酒製造又ハ貯藏ニ關シ「サリチル」

第三輯 第二編 衛生 第六章 飲食物

(衛生 第六章 目次) 1

酸使用方

- ◎ 「メチルアルコホル」(木精)取締規則 大正三年 内令二元號……二
- ◎ 「メチルアルコホル」(木精)取締規則中 明治四五年 内令八號……二
- ◎ 「メチルアルコホル」類並酒精燻酎「アラ清酒及葡萄酒ノ類並酒精燻酎「アラデー」及「ウイスキー」ノ類ニ於ケル「メチルアルコホル」試験方法 明治四五年 内訓七號……二
- ◎ 人工甘味質取締規則 明治三四年 内令三號……三
- ◎ 有害性著色料取締規則 明治三年 内令一七號……四
- ◎ 有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験方法 大正二年 内令一三號……五

第六章 飲食物

◎飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件 (明治三十三年二月二十四日 法律第十五號)

第一條 販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若ハ營業上ニ使用スル飲食器、割烹具及其他ノ物品ニテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其ノ製造、採取、販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ其ノ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若ハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二條 行政廳ハ吏員ヲシテ前條ノ物品ヲ検査セシメ試験ノ爲必要ナル分量ニ限り無償ニ除去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ吏員ヲシテ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カレル間ニ限り物品ヲ製造シ採取シ陳列シ貯藏シ若ハ携帯スル場所ニ立入ラシムルコトヲ得

第三條 本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受テテ指定ノ期間内ニ之ヲ履行セザル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ行政廳ノ命ヲ受テテ公務ヲ行フ者ニ抗

拒シタル者ハ一月以下ノ(重禁錮)ニ處シ(十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受テテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(四十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

行政廳ノ命ヲ受テテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法(第二頁十四條)ノ例ニ照シテ處斷ス

附 則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件 (明治三十三年三月二十七日 內務省令第十號)

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府知事ヲ除ク)以下之ニ依リハ法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年二月法律第十五號ニ依リ行政廳ニ屬スル職權ヲ行フ

前項ノ職權ハ其ノ輕易ナルモノニ限り廳府縣令ヲ以テ警察官署ニ委任スルコトヲ得

第二條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ官吏又ハ衛生技術員ヲシテ明治三十三年二月法律第十五號ノ職權ヲ行ハシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帯セシムヘシ

證票ハ左ノ楕形ニ依ルヘシ

二寸二分

表 飲食物監視員之證

表

縣 府 廳 署 印 證

第三條 官吏又ハ衛生技術員ハ明治三十三年法律第十五號第二條ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ營業者ニ證書ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求メアルトキハ事實ノ許ササル場合ヲ除ク外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

◎飲食物及布片中砒素及錫ノ試験方法

(明治三十四年十月十二日)

一 飲食物中砒素及錫ノ定性分析法

甲 固體

著色部分二十「グラム」ヲ取り試験ニ供スヘシ若シ其ノ量ヲ得難キトキハ少量ヲ使用スルコトヲ得

檢體ヲ細割若ハ粉碎シ瓷皿ニ容レ之ニ純鹽酸(比重一、一〇乃至一、一三)ヲ三倍容量ノ蒸餾水ヲ以テ稀釋シタルモノ百立方「センチメートル」ヲ注加シ次ニ格魯兒酸加留液約〇、五「グラム」ヲ投加シ重湯煎上ニ致シ其ノ内容ノ温度重湯煎ノ温度ニ達スルヲ窺ヒ五分時間毎ニ格魯兒酸加留液〇、一乃至〇、二「グラム」ヲ投加シ蒸發スル水分ハ斷ヘス之ヲ補ヒ其ノ内容鮮黄色ニシテ且均同稍薄トナルニ至ラハ尙約〇、五「グラム」ノ格魯兒酸加留液ヲ投加シ加温シ格魯兒兒臭ノ消失スルニ至リ冷却シ濾過シ濾紙上ノ殘渣ハ重湯ヲ以テ能ク洗滌シ濾液及洗滌液ヲ最初用キタル純鹽酸量ノ少クモ六倍トナシ之ヲ攝氏六十度乃至八十度ニ温メツ、三時間徐々ニ純硫化水素瓦斯ヲ通シ飽和セシメ然後濾紙ヲ以テ覆ヒ少クモ十二時間

ヲ焙融シ且紅熾シ始ムルニ至ラシムヘシ冷後坩堝ノ内容ニ水ヲ加ヘテ軟化シ水ヲ用キテ瓷皿内ニ移スヘシ錫存在スレハ金屬トナリ沈著スルヲ以テ能ク洗滌シ乾燥シタル後之ニ少量ノ鹽酸ヲ加ヘテ温メ其ノ溶液ニ就キテ昇汞又ハ格魯兒兒金若ハ硫化水素ヲ以テ錫ヲ檢査スヘシ

乙 液體

液中ニ含有スル固形物質約二十「グラム」ニ應スル量ヲ取り試験ニ供スヘシ

稀薄ノ液體ニシテ酸性ナラサルモノハ直チニ蒸發シ酸住ノモノハ蒸餾シテ少量トナシ其ノ殘渣ハ固體ノ試験ニ於ケル如ク格魯兒兒酸加留液及鹽酸ヲ以テ處置スヘシ其ノ留液ハ鹽酸ニテ酸性トナシ純硫化瓦斯ヲ通シ若シ沈澱ヲ生セハ前ノ殘渣ヨリ得ヘキ硫化水素沈澱水素ト合スヘシ

二 布片中砒素ノ定量分析法

檢體三十「グラム」ヲ取り其ノ面積ヲ計測シタル後之ヲ細裁シ内容約四百立方「センチメートル」ノ有口「レトルト」ニ投加シ之ニ純鹽酸(比重一、一八乃至一、一九)百立方「センチメートル」ヲ注加シ其ノ「レトルト」ノ斜メニ上向セル頸部ト鈍角ヲナシテ冷却器ヲ結合シ受器ハ内容約五百立方「センチメートル」ノモノヲ撰ミ之ニ蒸餾水二百立方「センチメートル」ヲ充タシ此ノ受器ヲ冷却シ氣密ニ冷却器ト連結スヘシ斯クシテ鹽酸注加後約一時間ヲ經過セハ之ニ砒素ヲ含有セサル亞格魯兒兒鐵飽和溶液五立方「センチメートル」ヲ注加シ蒸餾スヘシ「レトルト」内ノ液體殆んど留出シ終ルニ及テ之ヲ冷却セシメ更ニ五十立方「センチメートル」ノ純鹽酸ヲ加ヘ再ヒ蒸餾スルコト前ノ如ク茲ニ得タル留液ハ通常褐色ヲ呈ス此ノ液ニ水ヲ加ヘテ六百乃至七百立方「センチメートル」トナシ攝氏六十度乃至八十度ニ温メツ、三時間徐々ニ純硫化水素瓦斯ヲ通シテ飽和セシメ濾紙ヲ以テ覆ヒ少クモ十二時間温度ニ放置シ茲ニ生シタル沈澱ヲ濾過シ砒化水素含有ノ水ヲ以テ能ク洗滌シ其ノ沈澱尙温潤ナルニ乘シ黄色硫化安母組

置處ニ放置シ茲ニ沈澱ヲ生セハ濾過シ硫化水素含有ノ水ヲ以テ能ク洗シ尙温潤ナルニ乘シ黄色硫化安母組(黄色硫化安母組四立方「センチメートル」比重〇、九六ノ安母尼亞水二立方「センチメートル」及水十五立方「センチメートル」ヨリ成レル混和液)ヲ以テ溶解セシメ殘渣ハ硫化安母組含有ノ水ヲ以テ洗滌シ其ノ濾液及洗滌液ハ微温ニテ蒸發乾燥シ之ニ約三立方「センチメートル」ノ發煙硝酸ヲ加ヘ微温ニテ蒸發シ黄色ノ殘渣ヲ得ルニ至リ(發煙硝酸ナレハ發煙硝酸ヲ加ヘテ温ムルノ法ヲ反覆スヘシ)其ノ殘渣ノ温潤ナルニ乘シ之ニ少量ノ炭酸那那留液及一分ノ硝酸那那留液ヲ加ヘテ亞爾加里性トナシ之ニ約三立方「センチメートル」ヲ注加シ蒸餾スヘシ「レトルト」内ノ液體殆んど留出シ終ルニ及テ之ヲ冷却セシメ更ニ五十立方「センチメートル」ノ純鹽酸ヲ加ヘ再ヒ蒸餾スルコト前ノ如ク茲ニ得タル留液ハ通常褐色ヲ呈ス此ノ液ニ水ヲ加ヘテ六百乃至七百立方「センチメートル」トナシ攝氏六十度乃至八十度ニ温メツ、三時間徐々ニ純硫化水素瓦斯ヲ通シテ飽和セシメ濾紙ヲ以テ覆ヒ少クモ十二時間温度ニ放置シ茲ニ生シタル沈澱ヲ濾過シ砒化水素含有ノ水ヲ以テ能ク洗滌シ其ノ沈澱尙温潤ナルニ乘シ黄色硫化安母組

◎飲食物用具取締規則

(明治三十三年十一月十七日)

(內務省令第五十號)

(同三十九年)

(省令第一一號)

(同四二年)

(省令第二四號)

第一條 本則ニ於テ飲食物器具ト稱スルハ飲食器、割烹具其ノ他飲食物ノ調理器、容器、貯藏器又ハ量器ヲ謂フ

第二條 營業者ハ飲食物器具ヲ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以

置處ニ放置シ茲ニ沈澱ヲ生セハ濾過シ硫化水素含有ノ水ヲ以テ能ク洗シ尙温潤ナルニ乘シ黄色硫化安母組(黄色硫化安母組四立方「センチメートル」比重〇、九六ノ安母尼亞水二立方「センチメートル」及水十五立方「センチメートル」ヨリ成レル混和液)ヲ以テ溶解セシメ殘渣ハ硫化安母組含有ノ水ヲ以テ洗滌シ其ノ濾液及洗滌液ハ微温ニテ蒸發乾燥シ之ニ約三立方「センチメートル」ノ發煙硝酸ヲ加ヘ微温ニテ蒸發シ黄色ノ殘渣ヲ得ルニ至リ(發煙硝酸ナレハ發煙硝酸ヲ加ヘテ温ムルノ法ヲ反覆スヘシ)其ノ殘渣ノ温潤ナルニ乘シ之ニ少量ノ炭酸那那留液及一分ノ硝酸那那留液ヲ加ヘテ亞爾加里性トナシ之ニ約三立方「センチメートル」ヲ注加シ蒸餾スヘシ「レトルト」内ノ液體殆んど留出シ終ルニ及テ之ヲ冷却セシメ更ニ五十立方「センチメートル」ノ純鹽酸ヲ加ヘ再ヒ蒸餾スルコト前ノ如ク茲ニ得タル留液ハ通常褐色ヲ呈ス此ノ液ニ水ヲ加ヘテ六百乃至七百立方「センチメートル」トナシ攝氏六十度乃至八十度ニ温メツ、三時間徐々ニ純硫化水素瓦斯ヲ通シテ飽和セシメ濾紙ヲ以テ覆ヒ少クモ十二時間

ヲ製造シ又ハ修繕スルコトヲ得ス

第三條 營業者ハ飲食物器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分中鉛二十分
以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ百分中鉛五分以上ヲ含ム錫合金ヲ以テ
鍍布スルコトヲ得ス

第四條 營業者ハ珪瑯又ハ釉藥ヲ施シタル飲食物器具ニシテ之ニ百分中
醋酸四分ヲ含ム水ヲ容レ三十分時間者沸スルニ其ノ液中ニ砒素又ハ鉛ヲ
溶出スルモノヲ製造スルコトヲ得ス修繕ニ關シテ亦同シ

第五條 營業者ハ哺乳器具ヲ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム護蓋ヲ以テ製造スルコトヲ
得ス

第五條ノ二 營業者ハ其ノ製造又ハ輸入スル金屬性飲食物器具ニ極印其
ノ他容易ニ剝落セサル方法ヲ以テ自己ノ製造又ハ輸入ニ係ルコトヲ證ス
ルニ足ルヘキ商標其ノ他ノ符號ヲ附スヘシ

第六條 第二條乃至第五條ニ違背シテ製造若ハ修繕シタル飲食物器具ハ
之ヲ販賣シ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列シ又ハ營業上ニ使用スルコト
ヲ得ス

第七條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食物器具ノ飲食
物ニ接觸スル部分ニシテ鍍金屬ノ剝脱シタルモノ又ハ固有ノ光澤ヲ有セ
サルモノハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第八條 地方長官ハ第二條乃至第五條ニ違背シテ製造又ハ修繕シタル飲食
物器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物又ハ第七條ノ飲食物器具若ハ之ヲ用
ヒタル飲食物ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分
スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第九條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年二月法律第十五號第二條
ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十條 第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一
ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ
其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以
テ處罰ヲ免カサルコトヲ得ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背
シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

第十三條 法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十四條 本則ハ明治三十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

第一條 本則ニ於テ「**飲食物**」ト稱スルハ左ニ掲ケタル物質其ノ化合物及之ヲ含
有スルモノヲ謂フ

一 清酒ノ製造又ハ貯藏ノ爲別ニ定ムル試驗法ニ適合スル限度マテ「サ
リチール」酸ヲ使用スルトキ

二 魚介獸肉ニ硼酸又ハ其ノ鹽類ヲ使用スルトキ

三 魚介ノ貯藏又ハ運搬ノ爲「サリチール」酸又ハ其ノ化合物ヲ使用スル
トキ

四 前各條ニ依リ防腐劑ヲ使用シタル清酒、魚介若ハ獸肉ヲ販賣シ又ハ
陳列シ若ハ貯藏スルトキ

第十條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十一條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十三條 本則ハ明治三十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本則ニ於テ「**飲食物**」ト稱スルハ左ニ掲ケタル物質其ノ化合物及之ヲ含
有スルモノヲ謂フ

一 清酒ノ製造又ハ貯藏ノ爲別ニ定ムル試驗法ニ適合スル限度マテ「サ
リチール」酸ヲ使用スルトキ

二 魚介獸肉ニ硼酸又ハ其ノ鹽類ヲ使用スルトキ

第九條 左ノ各條ノ場合ニハ本則施行ノ日ヨリ七箇年間本則ノ規定ヲ適用
セス

第十條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十一條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十三條 本則ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ掲ケタル物質其ノ化合物及之ヲ含
有スルモノヲ謂フ

一 清酒ノ製造又ハ貯藏ノ爲別ニ定ムル試驗法ニ適合スル限度マテ「サ
リチール」酸ヲ使用スルトキ

二 魚介獸肉ニ硼酸又ハ其ノ鹽類ヲ使用スルトキ

三 魚介ノ貯藏又ハ運搬ノ爲「サリチール」酸又ハ其ノ化合物ヲ使用スル
トキ

四 前各條ニ依リ防腐劑ヲ使用シタル清酒、魚介若ハ獸肉ヲ販賣シ又ハ
陳列シ若ハ貯藏スルトキ

第十條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十一條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十三條 本則ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ掲ケタル物質其ノ化合物及之ヲ含
有スルモノヲ謂フ

一 清酒ノ製造又ハ貯藏ノ爲別ニ定ムル試驗法ニ適合スル限度マテ「サ
リチール」酸ヲ使用スルトキ

二 魚介獸肉ニ硼酸又ハ其ノ鹽類ヲ使用スルトキ

第三輯 第二編 衛生 第六章 飲食物

所ハ雙方地主協議ノ上取設クヘシ若シ又道路等官有地ニ交渉スルモノハ府廳ノ検査ヲ乞ヒ指圖ヲ受クヘシ但井戸ヲ新設セントスル時本項ノ場合アルニ於テハ前以テ協議ヲ盡シ著手スヘシ

前項ノ場合ニ於テ事情不得已者ハ當分汚水溜ノ設ケアルモ妨ケスト雖モ井戸ヲ距離コト二間以上タルヘシ但地所狹隘ニシテ二間以内接近セサルヲ得サル場所ハ板又ハ亞士等ヲ以テ汚水ノ漏レサル様ニスヘシ

- 一 井戸ヨリ三間以内ハ厠房ヲ新タニ作ルヘカラス但現在設置ノ分ト雖モ修繕等アル毎ニ本文ニ準スヘシ
- 一 井戸近傍ニ於テ醜穢汚穢ノ物品ヲ洗濯シ及魚鳥ノ骨腸等ヲ棄ツヘカラス
- 一 呼ビ井戸ノ井管破損スルト認ムル時ハ速カニ之ヲ補理スヘシ
- 一 上水井ニ於テハ汚濁且塵埃等アルカ又ハ臭氣ヲ含ムモノアラハ速カニ府廳又ハ該區事務所ヘ調査ノ義申出ツヘシ

毎年少ナクトモ一度ツ、井戸渡ヲ爲スヘシ

●清涼飲料水營業取締規則

(明治三十三年六月五日)
(内務省令第三十號)
(明治三十九年)
(省令第九號)
(同四十二年)
(省令第二六號)
(大正一二年)
(省令第七號)

第一條 本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラムネ」「リモナーデ」(果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム)曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水並果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノヲ謂フ

清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造(清涼飲料水ニ供スル糖菓、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ)

第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受ク

第三輯 第二編 衛生 第六章 飲食物

第六條 清涼飲料水製造者ハ其ノ氏名、社名、營業所ノ所在製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ但シ製造地地方長官ニ於テ許可シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

「テール」色素ヲ含有スル清涼飲料水ニハ製造者又ハ輸入者ハ其ノ容器ニ人工著色ノ文字ヲ明記スヘシ

第七條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調整器、容器、量器及製造場其ノ他清涼飲料水ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第八條 清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、梅毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飲料水ノ調整若ハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス清涼飲料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第九條 地方長官ハ第三條ノ器具第五條ノ清涼飲料水ニ關シテハ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテハ亦同シ

第十條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條 清涼飲料水營業者虛偽ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用シ若ハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛偽ノ改竄ヲ爲シ若ハ爲サシメタル者ハ二十五日以下ノ「重禁錮」ニ處ス

第十二條 左ニ掲クル者ハ二十五日以下ノ罰金ニ處ス

- 一 認可ヲ受ケシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者
- 二 第三條乃至第五條ニ違背シタル者

第十三條 第六條乃至第八條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 清涼飲料水營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ則則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

清涼飲料水營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ製造場ノ構造、設備及用水ヲ検査セシムヘシ

第三條 清涼飲料水營業者ハ飲料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其ノ合金ニテ製シタル調整器、容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ス但シ銀鍍其ノ他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ有害性「テール」色素、「サツカリン」其ノ他人工甘味質有害性芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

「テール」色素ハ前項以外ノモノト雖モ製造地地方長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

- 一 潤濁又ハ變敗シタルモノ
- 二 沈澱物又ハ固形ノ夾雜物アルモノ
- 三 鹽酸、硝酸及硫酸其ノ他遊離酸ヲ含有スルモノ
- 四 砒素、安知母組、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ
- 五 有害性其ノ他製造地又ハ輸入地地方長官ノ許可ヲ受ケサル「テール」色素ヲ含有スルモノ
- 六 「サツカリン」其ノ他人工甘味質ヲ含有スルモノ
- 七 有害性芳香質ヲ含有スルモノ
- 八 防腐劑ヲ含有スルモノ

果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノノ中原料トシテ使用スル果實ノ類、砂糖及水ノ外他物ヲ混和セサル製品ニ就テハ前項第一號及第二號ノ規定ハ原料植物ノ組織及成分ニ基因スル場合ニ限り之ヲ適用セス但シ變敗シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

ルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十五條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 地方長官ハ清涼飲料水ノ製造場ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●清涼飲料水營業取締規則改正ノ件

(大正十二年三月二十六日)
(内務省令第五三號)

今般内務省令第七號ヲ以テ標記取締規則改正ノ件公布相成右實施ニ關シテ左記事項了知ノ上取締上遺憾ナキヲ期セラレ候様致度

- 一、果實汁、果實蜜ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲料ニ供スルモノトハ植物ノ根、葉、種子等ヲ原料トシテ製造シタル「生蜜蜜」「薄荷蜜」「紅茶シロップ」「咖啡シロップ」ノ類ヲ指ス
- 二、第五條第二項ノ規定ニ該當スル製品ニ付テハ其ノ潤濁、沈澱物及固形夾雜物カ原料植物ノ組織及成分ニ基因スルモノナルヤ、或ハ他ノ事由ニ基因スルモノナルヤノ鑑別ハ衛生上特ニ重要ト認メラルルノミナラス右製品ハ製法ニ依リテハ比較的變敗シ易キ性質ヲ生スルヲ免レサルニ付製品ノ取締ヲ勵行スルト共ニ特ニ製造場ノ監督指導ニ留意セラレ兼ネテ規則第五條第二項ヲ適用スヘキモノト然ラサルモノトヲ豫メ區別シ店頭取締上ノ便宜ニ供スル様致度
- 三、「テール」色素ヲ含有スル清涼飲料水ニハ人工著色ノ文字ヲ明記スル

ヲ要スル規定ナルニ拘ラス其ノ位置及字體ノ大サ等ニ於テ往々明記ト難認モノ點カラス右ノ規定ハ改正規則第五條第二項ノ規定ニ該當スル製品ト他ノ製品トノ區別ヲ明ナラシムル上ニモ關係カラスナル儀ニ付規定ノ文字ハ容易ニ認識シ得ル位置ニ明瞭ニ記載セシムル様督勵セラレ度

四、輸入製品ニシテ「色素」ヲ含有スルモノニ付テハ歐文ヲ以テ人工著色タルコトヲ表示シアル場合ト雖モ人工著色ノ文字ヲ明記セシメラレ度

五、果實汁、果實蜜ニ關シ既ニ規則第二條ノ認可ヲ受ケ居ル者ニ對シテハ改正規則ニ據リ更メテ認可ヲ受ケルヲ要セサルコトニ御取扱相成度

●氷雪營業取締規則

(明治三十三年七月三日)
(內務省令第三十七號)
(改正)
(明治三十九年)
(省令第一〇號)
(大正元年)
(省令第一四號)

第一條 本則ニ於テ氷雪ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル氷及雪ヲ謂フ
氷雪營業者ト稱スルハ氷雪ヲ採收製造シテ販賣シ又ハ其ノ賣却若ハ請賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 氷雪ヲ採收製造シテ販賣セントスル者ハ地方長官、其ノ卸賣ヲ爲サントスル者ハ警察官署ノ認可ヲ受ケテハシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ採收、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備並ニ材料ノ検査ヲ爲サシムヘシ

第三條 氷雪ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又夾雜物アルモ僅微ヲ過クヘカラス

氷雪融解水ノ百萬分中格魯兒量ハ二分硝酸量ハ一分安母尼亞量ハ〇・〇五分過滿飽和飽和消費量ハ三分亞硝酸ハ痕跡ヲ過クヘカラス

●輸入氷取締ニ關スル件

(大正十二年六月二十三日)
(內務省令第四二八號)
(改正)
(明治三十三年四月七日)
(內務省令第十五號)
(省令第七號)
(同 四一七號)
(大正六年)
(省令第一七號)

第十二條 地方長官ハ氷雪ノ採收、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

近來支那鴨綠江ニ於テ採取シタル自然氷ヲ管內ニ輸入販賣セント企劃スルモノ有之由ニ候處ニ於テ採取上ニ關シテハ左記ノ通御了知相成度

輸入氷ニ付テモ内地ニ於テ販賣スル場合ハ氷雪營業取締規則ノ適用ヲ受クヘキ義ニ候ヘ共支那產ノ氷ニ關シテハ其取締狀況及採取場ノ設備制限等不明ニ有之候條當分ノ間ニ輸入販賣ヲ認メサルコトニ適當御取相成度

●牛乳營業取締規則

(明治三十三年四月七日)
(內務省令第十五號)
(省令第七號)
(同 四一七號)
(大正六年)
(省令第一七號)

第一條 本則ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脫脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル煉乳、脫脂煉乳及ヒ粉乳ヲ謂フ

牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ採取、製造、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニ在リテハ一・〇二八乃至一・〇三四トシ脱脂乳ニ在リテハ一・〇三二乃至一・〇三八トス

全乳ノ脂肪量ハ百分中三・〇分以上トス

脱脂乳ノ乾燥物質量ハ百分中八・五分以上トス

第三條 煉乳ノ脂肪量ハ百分中八・〇分以上トス

第四條 氷雪營業者ハ第三條ノ規定ニ適合スル氷雪ニ非サレハ飲食用ノ目的ヲ以テ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條 飲食用ノ氷雪ヲ請賣スル營業者ハ飲食用ノ目的ヲ以テスルト否トニ拘ハラス第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

一 氷雪營業者飲食用ノ目的ヲ以テ販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

二 第五條ノ營業者販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

第七條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第八條 第二條第一項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 氷雪營業者力未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ規則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

氷雪營業者ハ其ノ代理人、店主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ノ免カラルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十一條 本則ハ明治三十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ雪ニ關シテハ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

煉乳又ハ脫脂煉乳中ニ混和スル蔗糖量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五・〇分以下トス

第四條 牛乳ノ採取又ハ乳製品製造ノ營業者ヲ爲サントスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ採取ノ場所ノ構造設備ヲ検査セシムヘシ

第五條 牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ採取スルコトヲ得ス

一 牛疫、炭疽、傳染性胸膜肺炎、流行性鴨口瘡、狂犬病、結核、痘瘡、黃胆、「アクトノミコーセ」、氣腫疽、赤痢、乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中毒、亞布答、腐敗性子宮炎、其ノ他熱性諸病ニ罹レル牛

二 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劑藥服用中ノ牛

三 分娩後七日以内ノ牛

第六條 牛乳營業者ハ亞鉛、銅、黃銅、燒附不良ニシテ且有害ノ毒藥ヲ施シタル陶器又ハ合給球等ヲ塗布シタル鐵材料ニテ製シタルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器トシテ使用スルコトヲ得ス

第七條 牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一 腐敗シタルモノ

二 粘稠若ハ苦味ナルモノ又ハ藍色赤色其ノ他異常ノ色ヲ呈スルモノ

三 他物ノ混合シタルモノ

四 第五條ノ牛ヨリ採取シタルモノ

五 第二條ノ規定ニ適合セサルモノ

第八條 牛乳營業者ハ前條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ス

第九條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若

ハ貯蔵スルコトヲ得ス

一 腐敗シタルモノ

二 他物ノ混合シタルモノ

三 第六條ノ容器ヲ用キタルモノ

四 第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ

五 第三條ノ規定ニ適合セザル煉乳又ハ脱脂煉乳

第十條 牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ明記シ煉乳ノ容器ニハ煉乳、脱脂煉乳ノ容器ニハ脱脂煉乳タルコトヲ明記スヘシ

牛乳營業者ハ全乳ト明記シタル容器ニ脱脂乳、煉乳ト記シタル容器ニ脱脂煉乳ヲ容ル、コトヲ得ス

第十一條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容器、量器及牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第十二條 牛乳營業者ハ結核病、癩病、梅毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス牛乳營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第十三條 牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行フヘシ

第十四條 地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ一定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其ノ角ニ番號若ハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳架ニ番號若ハ符號ヲ記セル耳環ヲ付セシムルコトヲ得

前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得ス

第十五條 地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用キタル牛乳乳製品第七條各號ノ牛乳第九條各號ノ乳製品ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同

ハ貯蔵スルコトヲ得ス
一 腐敗シタルモノ
二 他物ノ混合シタルモノ
三 第六條ノ容器ヲ用キタルモノ
四 第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ
五 第三條ノ規定ニ適合セザル煉乳又ハ脱脂煉乳
第十條 牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ明記シ煉乳ノ容器ニハ煉乳、脱脂煉乳ノ容器ニハ脱脂煉乳タルコトヲ明記スヘシ
牛乳營業者ハ全乳ト明記シタル容器ニ脱脂乳、煉乳ト記シタル容器ニ脱脂煉乳ヲ容ル、コトヲ得ス
第十一條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容器、量器及牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ
第十二條 牛乳營業者ハ結核病、癩病、梅毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス牛乳營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス
第十三條 牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行フヘシ
第十四條 地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ一定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其ノ角ニ番號若ハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳架ニ番號若ハ符號ヲ記セル耳環ヲ付セシムルコトヲ得
前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得ス
第十五條 地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用キタル牛乳乳製品第七條各號ノ牛乳第九條各號ノ乳製品ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同

牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處分ニ關スル件

(明治三十三年十月二十日 内務省令第四十六號)

明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條第二號牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處分ニ關スル件左ノ通ズ

第一條 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥品目左ノ如シ

- 石炭酸
- 別刺敦那草
- 安知母組類
- 水銀類
- 砒素及其ノ化合物
- 沃度加價誤
- 測鹽類
- 阿片
- 越藥利涅、斯高利幾尼涅其
- 鈴鹽類
- 藜蘆根
- ノ他「アルカロイド」及其ノ鹽類
- 番木鱈子
- 亞鉛鹽類
- 非沃斯草

以上ノ藥品ヲ含有スル諸製劑

第二條 獸醫前條ノ毒藥劇藥ヲ處方シタルトキハ其ノ旨ヲ牛乳營業者ニ告知スヘシ

第三條 獸醫前條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法

(明治三十三年五月二十二日 内務省令第二十號)

一 比重
攝氏十五度ニ於テクウエンス、ミュレル氏ノ乳稠計ヲ用ヒ計測ス若シ他ノ溫度ニ於ケルトキハ矯正表ニ依リ攝氏十五度ニ於ケル比重ニ換算ス

第十六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第十八條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 認可ヲ受ケスシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者

二 第五條乃至第九條ニ違背シタル者

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 牛乳營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

牛乳營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代理者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第二十一條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 乳牛ノ牛舎及牛乳搾取若ハ乳製品製造ニ用ユル場所ノ構造設備及管理方法ハ地方長官ノ規定ム

第二十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

硫磺(攝氏十五度ニ於テ比重一・八二〇乃至一・八二五ニシテ九十乃至九十一「プロセント」ヲモノ) 十立方「センチメートル」ヲ「ピベット」ヲ用キテ「アミール」アル「コホル」(攝氏十五度ニ於テ比重約〇・八一五ニシテ沸騰點百二十八乃至百三十度ノモノ) 一立方「センチメートル」ヲ層積シ(前兩試藥ハ測取前ニ約十五度トナスヘシ) 然ル後攝氏十五度ノ牛乳十一立方「センチメートル」ヲ「ピベット」ヲ用キテ「アチロメトル」ノ腹部ニ接シ徐々ニ流下セシメテ「アルコホル」上ニ層積シ龜裂ナキ乾燥ゴム栓ヲ以テ善ク栓塞シ指ヲ以テ栓ヲ壓シツ、急ニ振盪シ牛乳ノ溶解シタル後更ニ數回被方此方ヘ動カシ十五分時間六十乃至七十度ノ温湯中ニ挿入シ次ニ二乃至三分時間遠心力器(一分時間回轉數七百回以上ノモノ)ニ掛ケ更ニ六十乃至七十度ノ温湯中ニ數分間挿入シ茲ニ析出セル脂肪層ノ度數ヲ讀取スヘシ而シテ其ノ度數二十分ノ一ヲ乘スルトキハ直ニ牛乳百分中ノ脂肪量ヲ得ヘシ

清酒中「サリチル」酸ノ試験法

(明治三十六年九月二十八日 内務省令第十號)

清酒ニ立方「センチメートル」ニ蒸留水ヲ和シテ百立方「センチメートル」トナシ其ノ五立方「センチメートル」ヲ内容約五十立方「センチメートル」ノ分液漏斗ニ取り之ニ稀硫酸(十「プロセント」)三滴及揮發石油(攝氏六十乃至百二十度ニ於テ蒸留スルモノ)十五立方「センチメートル」ヲ注加シ五分間強ク振盪シテ静置シ下層ノ水溶液ヲ除去シ殘留シタル揮發石油ヲ蒸留水十立方「センチメートル」ト共ニ強ク振盪シテ静置シ茲ニ分離析出スル下層ノ水溶液ヲ内徑約一・五「センチメートル」ノ無色試験管ニ取り之ニ過「クロール」鐵液(約一「プロセント」)一滴ヲ和シ直ニ白紙上ニ於テ上面ヨリ透視スルニ呈色スヘカラス

第三輯 第二編 衛生 第六章 飲食物

◎清酒製造又ハ貯藏ニ關シ「サリチール」酸使用方

(明治三十二年十二月二十四日) (内務省令第二十九號)

清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關シ別ニ定ムル所ノ清酒中「サリチール」酸試驗法ニ適合スル程度以內ニ於テ「サリチール」酸ヲ使用スル場合及之ヲ使用シタル清酒ヲ販賣陳列又ハ貯藏スル場合ニ付テハ當分ノ内明治三十六年九月内務省令第十號飲食物防衛取締規則ヲ適用セシメ

◎「メチールアルコール」(木精)取締規則

(明治四十五年五月二十八日) (内務省令第八號)

第一條 「メチールアルコール」(木精)ヲ含有スル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ製造、陳列若ハ貯藏スルコトヲ得ズ
第二條 「メチールアルコール」(木精)又ハ「メチールアルコール」(木精)ヲ混和シタル物品ニハ其ノ容器ニ「メチールアルコール」(木精)又ハ「メチールアルコール」(木精)混和ノ文字ヲ明記スルニアラサレハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列若ハ貯藏スルコトヲ得ズ
第三條 「メチールアルコール」(木精)ノ製造者、輸入者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ作製シ其ノ製造高、受入高、渡渡高、使用高、受入先、渡渡先其ノ年月日及渡渡先使用ノ目的ヲ記入スヘシ
地方長官ハ當該吏員ヲシテ前項ノ帳簿ヲ檢閲セシムルコトヲ得
第四條 前項ノ帳簿ハ十年間之ヲ保存スヘシ
第五條 「メチールアルコール」(木精)ヲ含有スル飲食物及其ノ營業者ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得

第六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第七條 第一條又ハ第二條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第八條 第三條第一項又ハ第四條ニ違背シタル者若ハ第三條第二項ノ檢閲ヲ拒ミタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カレルコトヲ得ズ

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

◎「メチールアルコール」(木精)取締規則中清酒及葡萄酒ノ類並酒精燒酎「フランデー」及「ウイスキー」ノ類ニ於ケル「メチールアルコール」試驗方法

(明治四十九年六月五日) (内務省令第七號)

一 清酒及葡萄酒ノ類ニ在リテハ檢體二百立方「センチメートル」ヲ內容約五百立方「センチメートル」ノ硝子壺ニ取り之ニ炭酸石灰約三「グラム」ヲ加ヘ左圖ノ如キ割湯蒸留管ヲ用ヒ八十度ヲ超ヘサル温ニ於テ約二時間ニ蒸留シテ得タル「アルコール」ヲ以テ左ノ試驗ヲ行フヘシ
ノ「ニトロプルシットナトリウム」溶液四滴及十「プロセント」ノ「ナトリウム」溶液一立方「センチメートル」ヲ加フルニ初メハ暗赤色ヲ呈スルモ後ニ蒸留シ來タルモノハ類藍色ノ反應ヲ呈スルニ至ルヲ以テ此場合ニハ受器ヲ取換ヘ可檢體含有ノ酒精ヲ成ルヘク多量ニ採集スルノ目的ヲ以テ同上ノ試驗法ニ依リ藍色ヲ呈セサルニ至ル迄蒸留ヲ持續スヘシ
茲ニ得タル酒精ニ炭酸石灰約三「グラム」ヲ加ヘテ更ニ蒸留シ其酒精ニ過剩ノ「アムモニア」水ヲ注キ八十度ヲ超ヘサル温ニ於テ蒸發シ濃厚トナシ(遊離アムモニア揮散ノ後)殆ト無色ノ濃厚液二滴ヲ硝子壺子ニ取り之ニ昇液液一滴ヲ加ヘテ檢査スルニ三放線及多放線狀ノ星狀結晶ヲ認ムルトキハ「メチールアルコール」ノ存在ヲ徵ス
二 酒精、燒酎、「フランデー」及「ウイスキー」ノ類ニ在リテハ「アルコール」含有ノ量多少ニ從ヒ之ニ相當量ノ水ヲ加ヘテ約十八容量「プロセント」トナシタルモノニ二百立方「センチメートル」ヲ取り清酒及葡萄酒ノ類ニ於ケル「メチールアルコール」試驗法ニ從ヒ試驗スヘシ(左圖略ス)

第三輯 第二編 衛生 第六章 飲食物

前項ノ「アルコール」〇・一立方「センチメートル」ヲ試驗管ニ取り之ニ「プロセント」ノ「過マンガン酸カリウム」溶液五立方「センチメートル」及硫酸〇・二立方「センチメートル」ヲ加ヘ二乃至三分時間ノ後ハ「プロセント」ノ「酢酸溶液」一立方「センチメートル」ヲ以テ脱色シ試驗管内ノ混液黄色ヲ呈スルニ至レハ更ニ硫酸一立方「センチメートル」ヲ加ヘテ振盪シ全ク脱色シタル後之ニ「フクシン」亞硫酸液五立方「センチメートル」ヲ加ヘ試驗管ヲ栓塞シ輕ク搖盪シタル後一時間放置スヘシ

「フクシン」亞硫酸液製法

結晶「フクシン」ノ粉末トナセルモノ約〇・一「グラム」ヲ內容百立方「センチメートル」ノ共栓硝子壺ニ取り蒸留水八十八立方「センチメートル」及重亞硫酸「ナトリウム」(白色)結晶性粉末約〇・七「グラム」ヲ加ヘテ溶解シ一時間ノ後之ニ鹽酸二十五滴ヲ加ヘテ密栓シ光ヲ遮リ冷處ニ貯フヘシ

本品ハ無色或ハ微黄色ノ液ナリ

本品五立方「センチメートル」ヲ試驗管ニ取り之ニ十分分中一分ノ「フォルムアルデヒド」(CHO)ヲ含有スル水溶液五立方「センチメートル」及硫酸一立方「センチメートル」ヲ加ヘテ栓塞シ輕ク搖盪シ一時間放置スルニ紫紅色ヲ呈セサル可ラス

前項ノ試驗ニ於テ呈色シタルトキハ更ニ左ノ試驗ヲ行フヘシ

前試驗殘餘ノ「アルコール」ヲ成ルヘク低温ニ於テ蒸留シ十立方「センチメートル」ヲ取り之ニ「プロセント」ノ「過マンガン酸カリウム」溶液二百五十立方「センチメートル」及硫酸十立方「センチメートル」ヲ加ヘテ振盪シ二乃至三分時間ノ後ハ「プロセント」ノ「酢酸溶液」ヲ以テ脱色シ蒸留中ハ時々留液約五立方「センチメートル」ヲ取り之ニ鹽酸「フェニールヒドラン」約〇・〇三「グラム」(二・五「プロセント」)

◎人工甘味質取締規則

(明治三十四年十月十六日) (内務省令第三十二號) (改正) (省令第一二號)

第一條 人工甘味質トハ「サツカリン」(甘精)其ノ他之ニ類スル化學的製品ニシテ含水炭素ニ非サルモノヲ謂フ

第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ニハ人工甘味質ヲ加味スルコトヲ得ス

人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ズ

本條ノ規定ハ第三條第一項第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第三條 地方長官ハ治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ノ調味ニ人工甘味質ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ飲食物ハ醫師ノ證明アル者ニ限り之ヲ販賣授與スルコトヲ得

本條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ飲食物ヲ他人ニ代理販賣又ハ請賣セシムルトキハ其ノ氏名及營業所ヲ地方長官ニ届出ヘシ

本條第一項ノ許可ハ地方長官ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第四條 前條ノ飲食物ヲ販賣授與スルトキハ容器又ハ被包ヲ用キ其ノ容器又ハ被包ニハ「人工甘味質製」ノ六字ヲ記スヘシ

第五條 地方長官ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケシテ人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第七條 第二條第一項第二項第三條第三項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シテ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第九條 本則ハ明治三十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

有害性着色料取締規則

(明治三十三年四月十七日) (内務省令第十七號)

(改正) (明治三十七年)

(省令第一二號)

(同三十九年)

(省令第八號)

(同四十二年)

(省令第一號)

(大正二年)

(省令第一二號)

第一條 有害性着色料ヲ分テ左ノ二種トス

第一種 左ニ掲クル物質其ノ化合物及之ヲ含有スルモノ

砒素、拔留漢、嘉度密烏漢、格羅漢、銅、水銀、鉛、錫、安知母組漢、烏拉組漢、亞鉛、藤黃、必個林酸、「ナニトロクレゾール」、「コラルリ

ン」

第二種 左ニ掲クル物質及之ヲ含有スルモノ

硫酸拔留漢、硫化嘉度密烏漢、酸化格羅漢、朱、酸化錳、「ムツシイフ」

金、酸化亞鉛、硫化亞鉛、銅、錳、亞鉛及其ノ合金屬ニシテ固有ノ光澤ヲ有スルモノ

第二條 有害性着色料ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ着色ニ使用スルコトヲ得

但野果實類ノ貯藏品ニ在リテハ其ノ「キロケラム」中銅百「ミリ

ケラム」、昆布ニ在リテハ其ノ無水物「キロケラム」中銅百五十「ミリ

ケラム」ヲ含有スル限度マテ銅、銅化合物又ハ之ヲ含有スル着色料ヲ使用

スルハ此ノ限ニ在ラス

第三條 有害性着色料ヲ以テ着色シタルモノハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ

容器又ハ被包トシテ使用スルコトヲ得但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ

在ラス

一 漆、硝子、釉藥又ハ珐瑯質ニ有害性着色料ヲ融和シタルモノ

二 第一條第二種ノ着色料ヲ以テ着色シタル容器又ハ被包ニシテ飲食物

ニ其ノ着色料混入ノ虞ナキモノ

第四條 第一條第一種ノ着色料ハ販賣ノ用ニ供スル化粧品、膏粉、小兒玩

弄品、繪雙紙、綿綿、色紙ヲ含ムノ製造又ハ着色ニ使用スルコトヲ得

但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 漆、硝子、釉藥又ハ珐瑯質ニ有害性着色料ヲ融和シタルモノ

二 護膜質ニ融和シタル金硫黃

三 乾燥油又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタル酸化鉛(鉛

丹ヲ含ム)又ハ格羅漢酸鉛(硫酸鉛ト併用セルモノヲ含ム)但シ剝離

シ易キモノハ此ノ限ニ在ラス

四 水ニ不溶性ノ亞鉛化合物ニシテ護膜質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ

「ワニス」ヲ塗布シタルモノ

酸化亞鉛又ハ硫化亞鉛ハ護膜質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗

布スル場合ノ外販賣ノ用ニ供スル護膜製玩弄品ノ製造又ハ着色ニ使用ス

ルコトヲ得

第五條 砒素ヲ含有スル着色料ハ販賣ノ用ニ供スル衣服其ノ他身ノ圍リニ

用スル物品又ハ其ノ材料ノ着色ニ使用スルコトヲ得但シ布片百平方

「センチメートル」中「ミリケラム」以下ノ砒素ヲ含有スルモノハ此ノ限

ニ在ラス

第六條 第二條ニ違背シテ着色シタル飲食物第三條ノ容器被包及ヒ之ヲ使

用シタル飲食物又ハ第四條若ハ第五條ニ違背シテ製造シタル物品

若ハ材料ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ

得

第七條 前條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年二月法律第十五號第

一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第八條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第二條

ノ職權ヲ行フコトヲ得

有害性着色料取締規則

(明治三十三年四月十七日) (内務省令第十七號)

(改正) (明治三十七年)

(省令第一二號)

(同三十九年)

(省令第八號)

(同四十二年)

(省令第一號)

(大正二年)

(省令第一二號)

第一條 有害性着色料ヲ分テ左ノ二種トス

第一種 左ニ掲クル物質其ノ化合物及之ヲ含有スルモノ

砒素、拔留漢、嘉度密烏漢、格羅漢、銅、水銀、鉛、錫、安知母組漢、烏拉組漢、亞鉛、藤黃、必個林酸、「ナニトロクレゾール」、「コラルリ

ン」

第二種 左ニ掲クル物質及之ヲ含有スルモノ

硫酸拔留漢、硫化嘉度密烏漢、酸化格羅漢、朱、酸化錳、「ムツシイフ」

金、酸化亞鉛、硫化亞鉛、銅、錳、亞鉛及其ノ合金屬ニシテ固有ノ光澤ヲ有スルモノ

第二條 有害性着色料ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ着色ニ使用スルコトヲ得

但野果實類ノ貯藏品ニ在リテハ其ノ「キロケラム」中銅百「ミリ

ケラム」、昆布ニ在リテハ其ノ無水物「キロケラム」中銅百五十「ミリ

ケラム」ヲ含有スル限度マテ銅、銅化合物又ハ之ヲ含有スル着色料ヲ使用

スルハ此ノ限ニ在ラス

第三條 有害性着色料ヲ以テ着色シタルモノハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ

容器又ハ被包トシテ使用スルコトヲ得但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ

在ラス

一 漆、硝子、釉藥又ハ珐瑯質ニ有害性着色料ヲ融和シタルモノ

二 第一條第二種ノ着色料ヲ以テ着色シタル容器又ハ被包ニシテ飲食物

第九條 第二條乃至第六條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用ス

ヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シテ成年者ト同一ノ

能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ

其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以

テ處罰ヲ免カルコトヲ得

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背

シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十一條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 鉛白ハ當分ノ内第四條ノ規定ニ拘ハラス化粧品トシテ之ヲ使用

スルコトヲ得

第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

有害性着色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験方法

(大正二年七月二十六日) (内務省令第十三號)

檢體五「ケラム」ヲ磁製坩堝ニ取リ(昆布ニ在リテハ百度ノ温ニ於テ恒量ヲ得ルニ至ルマテ乾燥シ先ツ水分ヲ定量シタル後)熱灼シテ炭化セシメ冷後硝子棒ヲ以テ搗碎シテ粉末トナシ稀硝酸約五立方「センチメートル」ヲ注加シテ温浸シ「エルレンマイエル」硝子坩堝中ニ濾入シ濾紙上ノ殘留物ハ濾紙ト共ニ再ヒ前ノ磁製坩堝ニ致シ乾燥シ燃灼シテ全ク灰化セシメ此ノ殘灰ニ稀硝酸約二立方「センチメートル」ヲ加ヘ温浸シ濾過シ洗滌シ前ノ濾液ニ合シ「アンモニア」水ヲ以テ中和シタル後鹽酸性トナシ之ニ硫化水素ヲ通シテ充分飽和セシメ曇口ヲ寬ク栓塞シ約三時間温所ニ放置シ全ク沈底セル硫化

銅ヲ爐紙上ニ採取シ硫化水素水ヲ以テ善ク洗滌シタル後乾燥シ爐紙ト共ニ前ノ磁製坩堝内ニ於テ灰化シ殘灰ヲ數滴ノ硝酸ニ溶解シ重湯煎上ニ温メ「アムモニア」水ヲ注加シテ「アルカリ」性トナシ若シ必要アレハ爐過シ茲ニ得タル澄明ノ液ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ蒸發シテ過剩ノ「アムモニア」ヲ驅逐シ中性反應ヲ呈スルニ至リ其ノ中性液ヲ二百立方「センチメートル」ノ標線アル硝子坩ニ移シ硝酸「アムモニウム」溶液(硝酸アムモニウム百「グラム」ヲ蒸餾水「リットル」ニ溶解シ其ノ反應全ク中性ノモノ)二十立方「センチメートル」ヲ注加シ水ヲ以テ全容量二百立方「センチメートル」トナシ善ク混和シテ其ノ二十立方「センチメートル」(原品〇、五「グラム」ニ相當ス)ヲ内徑約一、五「センチメートル」ノ無色試験管ニ取り又別ニ前ト同一ノ試験管數箇ニ標準銅溶液(純結晶硫酸銅〇、三九二七「グラム」ヲ蒸餾水「リットル」ニ溶解シタルモノ)ニシテ其ノ一立方「センチメートル」中〇、一「ミリグラム」ノ純銅ヲ含有ス)若干立方「センチメートル」ヲ取り之ニ硝酸「アムモニウム」溶液二立方「センチメートル」ヲ加ヘ水ヲ以テ全容量二十立方「センチメートル」トナシタル後各試験管ニ新ニ製シタル黃色血滴鹽溶液(用ニ臨テ黃色血滴鹽一「グラム」ヲ蒸餾水「リットル」ニ溶解シタルモノ)〇、五立方「センチメートル」ヲ加ヘ善ク混和シ十分時内ニ白紙上ニ於テ上面ヨリ透視シ比色定量法ヲ行フヘシ但昆布ニ在リテハ其ノ無水物一「キログラム」中ノ銅量(ミリグラム)ニ改算スヘシ

衛生 第七章

醫師 藥劑師

第七章 醫師、藥劑師

○醫師法	明治三九年 法律四七號……一頁
○醫師法施行規則	明治三九年 內令二七號……三
○醫師會令	大正八年 勅令四二九號……五
○醫師試驗規則	大正二年 文令二七號……一〇
○醫術開業受驗人心得	明治二六年 內告甲二六號……一二
○醫術開業試驗願書ニ指令ヲ附セス宿所氏名ヲ届出ヘキ件	明治二二年 內告九號……一二
○醫師法第一條第一項第三號ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件	明治三九年 勅令二四四號……一二
○醫師法第一條第一項第一號ニ依リ指定ノ私立醫學專門學校	………一三
○死亡診斷書死體檢案書死産證書死胎檢案書記載事項	明治三三年 內令四一號……一三
○死亡診斷書、死體檢案書及醫師又ハ産婆ノ作爲スヘキ死産證書死胎檢案書様式並記載方	明治三三年 內訓二六號……一三
○死亡診斷書死體檢案書並死産證書	………一四
○死胎檢案書記載方ノ件	大正三三年 閣衛二五號通牒……一五

○齒科醫師法	明治三九年 法律四八號……一六
○齒科醫師法施行規則	明治三九年 內令二八號……一八
○齒科醫師會規則	大正九年 內令七號……一九
○齒科醫師試驗規則	大正二年 文令二八號……二一
○齒科醫師試驗及藥劑師試驗ノ件	大正一〇年 文令四六號……二四
○齒科醫師法第一條第三號ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件	明治三九年 勅令二四五號……二四
○齒科醫師法第一條第一號ニ依リ指定ノ私立齒科醫學專門學校	………二四
○醫師ノ齒科專門標榜其ノ他許可ニ關スル件	大正五年 內令一一號……二五
○病院醫院其ノ他診察所治療所ノ廣告ニ關スル件	明治四二年 內令一九號……二五
○藥劑師法	大正四年 法律四四號……二五
○藥劑師試驗規則	大正二年 文令二九號……二八
○藥品營業並藥品取扱規則第四十六條第一項ニ依リ指定ノ私立藥學專門學校	………二九

第七章 醫師、藥劑師

●醫師法

(明治三十九年五月二日)

(法律第四十七號)

(明治四十二年)

(法律第四四號)

(大正三年)

(法律第三八號)

(同八年)

(法律第五七號)

(同十二年)

(法律第一號)

第一條 醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二 醫師試験ニ合格シタル者

三 外國醫學科ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

醫師試験ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ノ同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學科ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 未成年者、禁治産者、準禁治産者、聾者、啞者及盲者

第三條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 内務省ニ醫籍ヲ備ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登録ス

登録スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 醫師ハ自ら診察セシメテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セシメテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 醫師ハ診療簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條 醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡市區醫師會ヲ設立スヘシ

郡市區醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣醫師會ヲ設立スヘシ
郡市區醫師會及道府縣醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條 郡市區醫師會ハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外郡市又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區ヲ區域トス

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

公立ノ診療所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察又ハ治療ニ従事スル醫師ハ其ノ診療所、治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル郡市區醫師會ノ會員トス

第九條ノ二 道府縣醫師會ハ道府縣ヲ區域トス 道府縣内ニ在ル郡市區醫師會ハ其ノ道府縣ヲ區域トスル道府縣醫師會ノ會員トス

第九條ノ三 郡市區醫師會又ハ道府縣醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徴收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條ノ四 前四條ニ規定スルモノノ外郡市區醫師會及道府縣醫師會ノ設立ノ手續、機關ノ組織、經費ノ負擔、監督、會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條ノ五 道府縣醫師會ハ日本醫師會ヲ設立スルコトヲ得 日本醫師會ハ内地ヲ區域トス

道府縣醫師會ハ日本醫師會ノ會員トス 第八條第三項及前二條ノ規定ハ日本醫師會ニ付之ヲ準用ス

第十條 醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ 醫師六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セシ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ 本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號ノ原因止ミタルトキ又ハ改

受験資格名簿ニ登録シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫術開業試験ヲ舉行ス

前三項ノ試験ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト看做ス

附 則 (大正八年四月法律第五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年勅令四百二十八號) 本法ノ適用ニ付テハ帝國大學醫科大學醫學科卒業シタル者ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

醫師法施行規則

(明治三十九年九月三日 內務省令第七十七號) (明治四十二年 省令第一七號) (大正八年 省令第二五號)

第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ提出スヘシ 内務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ醫籍ニ登録シ醫師免許證ヲ下付ス 第二條 醫籍ニ登録スヘキ事項左ノ如シ 一 登録番號及登録年月日 二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月日及女子ナルトキ

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

後ノ特顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ 本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス 第十三條 本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立、府縣立醫學校卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セサルモ免許ヲ與フルコトアルヘシ 本法施行前醫術開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖醫業ヲ爲スコトヲ得但シ免狀地域外ニ診察所、治療所又ハ其ノ出張所ヲ設ケルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨ケス 第十四條 本法施行後八箇年間ハ第一條第二項ノ規定ヲ適用セズ醫術開業試験規則ニ依リ醫術開業試験ヲ舉行ス

前項ニ依リ醫術開業前期試験ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ届出テ特定メタル醫術開業後期受験資格名簿ニ登録スルヲ要ス

ハ其ノ旨 三 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月 四 免許ノ取消、醫業ノ停止其ノ事由、期間及年月日 五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日 六 抹消ノ事由及年月日

第三條 醫師前條第二號ノ登録事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ認シ免許證及戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登録事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ認シ免許證ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得 前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ認シ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ 前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ 第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録費又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

既ニ納付シタル登録費又ハ手数料ハ之ヲ還付セズ 第六條 醫師醫籍登録ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ 醫師失職ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ住所ノ地方長官ニ届出ヘシ

後ノ住所ノ地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ前ノ住所ノ地方長官ニ通知スヘシ

第八條 醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止シ廢止シ又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ後ノ所在地ノ地方長官前項但書ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ前ノ所在地ノ地方長官ニ通知スヘシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ従事スル場合ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ診察又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第九條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ検査シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第九條ノ二 醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書検査書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

開業ノ醫師ハ診察治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條ノ三 醫師ハ其ノ診察シタル患者ニ交付スル処方箋ニ患者ノ氏名、年齢、分量、用法、用量、處方ノ年月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ

第九條ノ四 醫師ハ診療簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年齢、病名及療法ヲ記載スヘシ但シ其ノ不明ナルモノハ患者廢療ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ

◎醫師會令

(大正八年九月二十二日 勅令第四百二十九號) (改正) (勅令第三百一十八號) (昭和二年七月二號)

第一條 醫師法第九條第二項ノ醫師ハ郡市區醫師會ヲ設立スヘシ

郡市區醫師會ハ道府縣醫師會ヲ設立スヘシ

第二條 本令ニ於テ醫師會ト稱スルハ郡市區醫師會又ハ道府縣醫師會ヲ謂フ

第三條 本令ニ依リ設立シタル醫師會ニ非サレハ郡、市、區、道、府又ハ縣ノ文字ヲ冠スル醫師會ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第四條 郡市區醫師會ノ設立ハ會員ト爲ルヘキ者五人以上設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ郡市區醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者半数以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ設立總會ニ出席スルコト能ハサル者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ妨グス此ノ場合ニ於テハ之ヲ設立總會ニ出席シタル者ト看做ス

第五條 道府縣醫師會ノ設立ハ道府縣廳所在地ノ郡市區醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ道府縣醫師會ノ會員ト爲ルヘキ郡市區醫師會カ其ノ

第十條 醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ其中スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ道府縣醫師會ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ族裔、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一 醫師ニ登錄シ又ハ抹消シタルトキ

一 免許證再下付ノトキ

一 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十五條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條第一項及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

第十六條 第九條ノ二、第九條ノ三、第九條ノ四、第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本則ハ明治三十九年法律第四十七號醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

會員中ヨリ選舉シタル委員半数以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ニ準用ス

第三項ノ委員ノ數ハ會員二十人以上ノ郡市區醫師會ニ在リテハ一人トシ會員二十人ヲ超ユルモノニ在リテハ會員三十人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎二人人ヲ加フ但シ第八條ノ規定ニ依ル市ヲ區域トスル醫師會ニ在リテハ會員ノ數ニ拘ラス二人トス

第六條 醫師會ノ設立總會ニ於テ醫師會設立ノ議決ヲ爲シタルトキハ設立委員ハ會則案ヲ添ヘ速ニ其ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

醫師會ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第九條ノ規定ニ依リ會則ノ設定アリタル時成立スルモノトス

第七條 醫師會成立シタルトキハ地方長官ハ醫師會ノ名稱、區域、事務所ノ所在地及成立ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示ニ於テ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第八條 市制第六條ノ市ニシテ内務大臣ノ指定シタルモノニ於テハ市ヲ區域トスル醫師會及市内ノ區ヲ區域トスル醫師會ヲ設立スヘシ

前項ノ規定ニ依ル市ヲ區域トスル醫師會ノ設立並其ノ役員及總會ニ關シテハ道府縣醫師會ノ設立並其ノ役員及總會ニ關スル規定ノ例ニ依ル

此ノ場合ニ於テハ市ヲ區域トスル醫師會ハ道府縣醫師會ニ、區ヲ區域トスル醫師會ハ郡市區醫師會ニ該當スルモノトス

第一項ノ規定ニ依ル區域トスル醫師會ハ第五條第一項ノ適用ニ付テハ之ヲ都市區醫師會ニ非サルモノト看做ス

第九條 地方長官ハ醫師會設立ノ義務ノ生シタル時ヨリ六月内ニ第四條、第五條又ハ第八條ノ規定ニ依ル醫師會設立ノ議決ヲキトキハ醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者ニ設立委員ヲ命ジ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 醫師會ノ會則ニハ左ニ掲ケル事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱及區域
- 二 事務所ノ所在地
- 三 役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
- 四 道府縣醫師會ニ在リテハ議員又ハ豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
- 五 代議員ヲ設ケル都市區醫師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
- 六 總會其ノ他會議ニ關スル規定
- 七 經費ノ分賦徵收ニ關スル規定
- 八 財産及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定
- 九 庶務及會計ニ關スル規定

第十一條 醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 都市區醫師會ノ總會ハ其ノ都市區醫師會ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス會員百人以上ナルトキハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得

第十三條 道府縣醫師會ノ總會ハ道府縣醫師會ノ會員タル都市區醫師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル道府縣醫師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス前項ノ議員事故アルトキハ都市區醫師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル道府縣醫師會議員道府縣醫師會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第十四條 醫師會ノ總會ニ於テ左ニ掲ケル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員、代議員又ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

- 一 會則變更ノ議決
- 二 第二十一條又ハ第二十二條ノ議決
- 三 第二十八條第三項ノ議決

第十四條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス
第十五條 醫師會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長 一人

五 救療ニ關スル事項

第十九條 行政官廳ハ醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ醫師會ニ命スルコトヲ得

第二十條 醫師會ノ經費及醫師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス

第二十一條 醫師會ハ都市區醫師會ノ會員中醫師法第二條第二號ニ該當シ又ハ業務ニ關シ不正ノ行為アリ免許取消又ハ醫業停止ノ處分ヲ必要ト認ムル者アルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得醫師法第十條第三項ニ該當スル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十二條 都市區醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ヲ經テ左ノ各號ノニ掲ケル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

- 一 譴責
- 二 五百圓以下ノ過怠金
- 三 三年内議員、豫備議員及役員ノ選舉權及被選舉權並代議員ノ被選舉權ノ停止

代議員、議員、豫備議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選舉權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第二十三條 醫師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ拘束ス

第二十四條 地方長官ハ醫師會ノ議決若ハ選舉又ハ施行スル事項カ法

第一項ノ規定ニ依ル區域トスル醫師會ハ第五條第一項ノ適用ニ付テハ之ヲ都市區醫師會ニ非サルモノト看做ス

第九條 地方長官ハ醫師會設立ノ義務ノ生シタル時ヨリ六月内ニ第四條、第五條又ハ第八條ノ規定ニ依ル醫師會設立ノ議決ヲキトキハ醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者ニ設立委員ヲ命ジ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 醫師會ノ會則ニハ左ニ掲ケル事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱及區域
- 二 事務所ノ所在地
- 三 役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
- 四 道府縣醫師會ニ在リテハ議員又ハ豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
- 五 代議員ヲ設ケル都市區醫師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
- 六 總會其ノ他會議ニ關スル規定
- 七 經費ノ分賦徵收ニ關スル規定
- 八 財産及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定
- 九 庶務及會計ニ關スル規定

第十一條 醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

副會長 一人又ハ二人

前項ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十六條 都市區醫師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ、道府縣醫師會ノ役員ハ其ノ議員中ヨリ各共ノ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ但シ道府縣醫師會ノ役員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依ルモノニ付テハ會則ノ定ムル所ニ依リ當該醫師會ノ會員タル都市區醫師會ノ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スルコトヲ得

第十七條 會長ハ會務ヲ總理シ醫師會ヲ代表ス
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十八條 會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ地方長官ハ會員又ハ議員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十九條 醫師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ

- 一 法令又ハ會則ニ規定スル事項
- 二 醫事衛生ニ關シ行政廳ヨリ諮問セラレタル事項
- 三 醫事衛生ニ關シ行政廳ニ建議スル事項
- 四 醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項

令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

地方長官ハ醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行為ヲ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ、三年間醫師會及日本醫師會ノ役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十五條 醫師法第十條ノ規定ニ依リ醫業ヲ停止セラレタル者ハ、其ノ停止中醫師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於テ表決權ヲ行ヒ又ハ醫師會ノ役員タルコトヲ得ス

第二十六條 醫師會ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及會務ノ狀況ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十七條 地方長官必要ト認ムルトキハ、郡市又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ラス郡市區醫師會ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第二十八條 道府縣郡市若ハ第八條ノ市内ノ區又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區ノ廢置分合ニ依リ又ハ前條ノ規定ニ依リ醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲醫師會存立セザル區域ヲ生シタルトキハ、其ノ區域ノ醫師會ノ會員タルヘキ者ハ、其ノ區域ニ依リ醫師會ヲ設立シタルモノト看做ス
前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ假ニ會則ヲ定メ、假役員又ハ假議員ヲ選任シテ役員又ハ議員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

總會ヲ開キ其ノ議決ヲ經ヘシ
設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ
設立總會ニ於テハ道府縣醫師會カ其ノ會員タル郡市區醫師會ノ會員中ヨリ選舉シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ、會議ヲ開クコトヲ得ス
其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ、之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 本令ニ依リ設立シタル日本醫師會ニ非サレハ、日本醫師會ノ名稱又ハ之ニ類スル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第三十四條 日本醫師會ノ總會ハ道府縣醫師會カ其ノ會員タル郡市區醫師會ノ會員中ヨリ選舉シタル日本醫師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス
前項ノ議員事故アルトキハ、道府縣醫師會カ其ノ會員タル郡市區醫師會ノ會員中ヨリ選舉シタル日本醫師會議備議員日本醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第三十五條 内務大臣ハ日本醫師會ノ議決又ハ施行スル事項ヲ法令若

第一項ノ規定ニ依リ設立シタル醫師會ハ、會則ヲ議決シ其ノ認可ヲ設立ノ時ヨリ二月内ニ地方長官ニ申請スヘシ
第二十九條 醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲財產處分ヲ要スルトキハ關係醫師會ノ協議ニ依リ、財產處分方法ヲ定メ關係醫師會ノ區域カ道府縣ヲ同シスル場合ニ於テハ地方長官ニ、異スル場合ニ於テハ内務大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ
醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲消滅シタル舊醫師會ハ前項ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍之ヲ存続スルモノト看做ス
第一項ノ協議ヲ爲サス又ハ協議調ハサル場合ニ於テハ財產處分方法ハ關係醫師會ノ區域カ道府縣ヲ同シスル場合ニ於テハ地方長官、異ニスル場合ニ於テハ内務大臣之ヲ定ム
第三十條 醫師會ハ本令ニ依リ地方長官ノ爲シタル處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得、訴願スル場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス
第三十一條 北海道、沖繩縣及島地ニ關シ本令中ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ受テ地方長官別段ノ定メ爲スコトヲ得
第三十二條 日本醫師會ノ設立ハ五以上ノ道府縣醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ道府縣醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立

第一項ノ規定ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決ヲ取消シ、其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命シ又ハ其ノ解散ヲ命スルコトヲ得
内務大臣ハ日本醫師會ノ選舉カ法令又ハ會則ニ違反スル事起ルトキハ理由ヲ示シテ其ノ選舉ヲ取消スコトヲ得
第三十六條 日本醫師會解散セムトスルトキハ總會ノ議決ニ依リ道府縣醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得事由ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
前項總會ノ會議及議決ハ第十四條ノ例ニ依ル
第三十七條 日本醫師會ハ解散ノ後、雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモノト看做ス
日本醫師會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ、此ノ限内ニ在テス
前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ内務大臣清算人ヲ選任ス清算人關テタルトキ亦同シ
清算人ハ日本醫師會代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス
清算方法及財產處分ニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
内務大臣必要ト認ムルトキハ清算方法及財產處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

第三十八條 第六條、第七條、第十條、第十二條、第十四條乃至第二十二條、第二十三條、第二十四條第二項第三項、第二十五條、第二十六條及第三十條中醫學會ニ關スル規定及道府縣醫師會ニ關スル規定ハ日本醫師會ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方長官又ハ行政官廳トアルハ内務大臣、當該醫師會ノ會員タル郡市區醫師會トアルハ郡市區醫師會ニ

附 則

本令ハ大正八年法律第五十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正八年十月一日ヨリ施行)

◎醫師試驗規則

(大正二年九月十九日) 文部省令第二十七號
(大正三年) 省令第一七號
(同六年) 省令第八號
(同八年) 省令第四號

第一條 醫師試驗ハ毎年二回東京市ニ於テ之ヲ行フ

試驗期日ハ文部大臣之ヲ告示ス

第二條 試驗ハ左ノ二部ニ分テ之ヲ行フ

第一部

- 解剖學(組織學ヲ含ム)
生理學
病理學(病理解剖學、法醫學ヲ含ム)
藥物學

衛生學、細菌學

第二部

- 外科學(耳鼻咽喉科學及皮膚病學、微毒學ヲ含ム)
內科學(小兒科學及精神病學ヲ含ム)
眼科學
產科學、婦人科學
臨床試驗

臨床試驗ハ外科學、內科學、產科學及眼科學ニ就キ之ヲ行フ但シ產科學、眼科學ニ關シテハ受験人ヲシテ抽籤セシメ共ノ中ノ二科目ニ就キ受験セシム

第二條ノ二 第一部試驗ニ合格シタル者ニアラサルハ第二部試驗ニ受クルコトヲ得ス

第三條 第一部試驗及第二部試驗ハ分テ之ヲ受クルコトヲ得

第四條 臨床試驗ハ便宜當該科目試驗ト併セ之ヲ行フコトアルヘシ

第五條 左ノ各號ノ二該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ復權ニ依リ醫師ノ免許ヲ受クルノ資格ヲ回復シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
二 聾者、啞者及盲者

附 則

本令ハ大正五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

醫師開業試驗規則ハ齒科醫師開業試驗ニ關スル規定ヲ除キ之ヲ廢止ス

第一號書式 (用紙美濃紙)

Form with fields: 收入印紙, 醫師試驗願, 本籍, 居所, 氏名, 年月日生, 氏名, 年 月 日, 文部大臣宛

第六條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ

第七條 試驗ヲ受ケントスル者ハ受験願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ

毎年七月、十二月中ニ文部大臣ニ提出スヘシ

一 履歷書(第二號書式)

二 身分ニ關スル本籍地市區町村長又ハ之ニ準ヌヘキ者ノ證明書(第三號書式)

三 醫師法第一條第二項ノ要件ニ關スル當該醫學校長ノ證明書

四 寫真(手札形 縦四寸横四寸五分下シ出願前六個月以内ニ撮影シテ寫眞シタルモノニシテ其ノ裏面ニハ同影年月日、姓、氏名ヲ記載スヘシ)

第八條 試驗ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金十五圓(第一部試驗ト第二部試驗ト分テ出願スル者ハ各金十圓)ヲ納付スヘシ

第九條 試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ付與ス

第十條 合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ合格證明書ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

前項合格證明書ノ下付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金二圓ヲ納付スヘシ

第十一條 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス

第十二條 試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ハ受験ヲ停止シ又ハ其ノ試験ヲ無効トシ尙期間ヲ定メテ試験ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

第二號書式 (用紙美濃紙)

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

履 歷 書

一何年何月何中學校(高等女學校)ニ入學何年何月卒業
 一何年何月何醫學專門學校(外國醫學學校)ニ入學何年何月卒業

右之通相違無之候也

年 月 日

右

氏 名

氏 名

第三號書式 (用紙美濃紙)

身分證明書

氏 名

一府縣都市區町村番地華土族平民
 戸主(何某何男女兄弟等)
 一年月日生

一醫師試験規則第五條又ハ第六條ニ該當スルコトノ有無
 (第六條ニ就テハ罪名及處罰ノ程度ヲ記載スヘシ)
 一何某年月日改氏名

右證明候也

年 月 日

府縣都市區町村長 氏 名

醫術開業受験人心得

(明治十六年十二月十日)
 (明治十七年)
 (明治十七年)
 (明治十七年)
 (明治十七年)
 (明治十七年)

今般太政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試験規則布達相成候ニ付各受験人心得左之通相定候條此旨告示候事

受験人心得

第一條 醫術開業試験ハ文部省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條、第三條、第四條(大正二年文部省令第二號及明治二十一年内務省告示第九號ニ依リ消滅)

第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條 試験中一科以上欠席ノ者ハ其期ノ試験ヲ終フルコトヲ得ス

醫術開業試験願書ニ指令ヲ附セス宿所氏名ヲ届出ヘキ件

(明治二十一年八月二十八日)
 (内務省告示第九號)

醫術開業試験願書ハ自今許可ノ指令ヲ附セサルニ付該出願者ハ試験舉行ノ期日四日前ニ受験地ニ到着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ヘシ

醫師法第一條第一項第三號ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件

(明治三十九年九月十二日)
 (勅令第四百四十四號)

第一條 醫師法第一條第一項第三號ニ依リ免許ヲ與フル者左ノ如シ

醫師法第一條第一項第一號ニ依リ指定ノ私立醫學專門學校

道府縣	學 校 名 稱	文部省告示年月日	番 號	備 考
東京府	私立東京慈惠會醫院醫學專門學校 但シ明治三十八年以後ノ本科卒業者ニ限リ有效	明六、二〇、一五〇		明治四十一年五月私立東京慈惠會醫院醫學專門學校ヲ私立東京慈惠會醫院醫學專門學校ト改稱大正十四年三月限リ廢止
東京府	日本醫學專門學校 但シ大正八年九月以後ノ卒業者ニ限リ有效	大八、八、二九	二二	
東京府	東京醫學專門學校 但シ大正九年四月十三日以後ノ卒業者ニ限リ有效	大九、四、二四	二五六	
東京府	東京女子醫學專門學校 但シ大正九年以後ノ卒業者ニ限リ有效	大九、三、二二	二一六	
熊本縣	元熊本醫學專門學校 但シ明治三十九年以後ノ本科卒業者ニ限リ有效	明六、六、三	二四三	大正八年六月私立元熊本醫學專門學校ヲ改稱大正十年三月限リ廢止
南滿洲	私立南滿洲醫學堂 但シ本科入學資格ヲ有セスハ入學スルコトヲ得	大三、六、一八	二二二	

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

死亡診斷書死體檢案書並死産證書死胎檢案書記載事項

(明治三十三年九月三日)
 (内務省令第四百一號)

第一條 醫師ハ其ノ作爲スヘキ死亡診斷書又ハ死體檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 死亡者ノ氏名、其ノ職業及其ノ出生ノ年月日

二 病死者ニ在テハ其ノ病名、自殺者ニ在テハ其ノ手段、自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類

三 發病ノ年月日

四 死亡ノ年月日時及其ノ場所

第二條 醫師及産婆ハ其ノ作爲スヘキ死産證書又ハ死胎檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 父ノ氏名職業私生子ニ在テハ母ノ氏名、職業及父母ノ出生ノ年月日

二 死胎ノ嫡出子庶生子別及男女別

三 妊娠ノ月數

四 分娩ノ年月日時及其ノ場所

附 則

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

死亡診斷書、死體檢案書及醫師又ハ産婆ノ作爲スヘキ死産證書死胎檢案書様式並記載方

(明治三十三年十月九日)
 (内務省訓令第二十八號)

本年九月當省令第四十一號ヲ以テ規定シタル醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書、死體檢案書及醫師又ハ産婆ノ作爲スヘキ死産證書、死胎檢案書ノ様式並其記載方ハ左ノ各項ニ準據セシメラルヘシ

第一 死亡診斷書、死體檢案書

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師 様式

死亡診断書、死體検案書

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 職業(死亡者ノ職業、家計ノ主ナル職業)
- 五 病死、自殺、其ノ他ノ變死、中毒ノ別
- 六 病名(自殺ハ手段及中毒者ニ在テハ、發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク))
- 七 發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日時
- 九 死亡ノ場所

右證明(檢案)候也

年 月 日

住 所

醫師 何 某 印

記載方

- 一 戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齢何歳ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 四 死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

死産證書(死胎檢案書)

- 一 父ノ氏名(私生子ノ場合ハ母ノ氏名)
- 二 父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)
- 三 母ノ出生ノ年月日(在テハ之ヲ除ク)
- 四 父ノ職業(私生子ノ場合ハ母ノ職業)
- 五 妊娠ノ月數
- 六 分娩ノ年月日時
- 七 分娩ノ場所
- 八 死胎ノ男女ノ別
- 九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(檢案)候也

年 月 日

住 所

醫師(産婆) 何 某 印

記載方

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

職業アルモ他家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業ト併記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

- 五 病死ナルキハ自殺ナルキ若クハ自殺以外ノ變死ナルキ中毒ナルキノ別ヲ記スヘシ
- 六 病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス
- 七 同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ノ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ
- 八 全ク死因タル病名ヲ認定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 九 自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死、刃傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ
- 一〇 自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、アルコール中毒等ノ別ヲ記スヘシ
- 一一 病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 一二 病死、自殺、燒死、中毒ニ拘ハラズ死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 一三 死亡ノ場所ハ都市區町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ

第二 死産證書、死胎檢案書 様式

若シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

◎死亡診断書死體檢案書並死産證書死胎檢案書記載方ノ件

(大正十三年五月二十三日 内務省閣議第一五號附録)

人口動態調査ノ資料タル人口動態調査票中死亡票ノ職業欄及死産票ノ父母ノ職業欄ニ記入サル可キ職業ハ明治三十三年内務省令第四十一號ニ據リ添付ス可キ醫師ノ作爲スル死亡診断書、死體檢案書並醫師産婆ノ作爲スル死産證書、死胎檢案書ヲ作ルコト、相成居リ同書記載ノ職業名ハ明治三十三年内務省訓令第二十八號ニ依リ總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ依ラスシテ何商又ハ何工等可成細密ニ記ス可キ旨規定セラレ居ルニ拘ラス之カ届出ニ際シテハ單一ノ農工商等ノ汎稱又ハ會社員職工等ノ略稱ヲ記載スルモノ多ク職業分類上支障多ク候間此等證書ニハ少クトモ該訓令ニ依ル小分類ニ分類シ得ル程度ニ職業ノ種類ヲ詳細記載方醫師産婆ニ徹底候御取斗相成度

- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 六 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト做シタル第幾日目ニ該當スルカヲ記スヘシ
- 七 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 八 分娩ノ場所ハ都市區町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ
- 九 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

◎齒科醫師法

(明治三十九年五月二日) 法律第四八號

(改正) (明治四二年) 法律第四五號

(大正五年) 法律第四四號

(同一年) 法律第四五號

第一條 齒科醫師タルトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學校ヲ卒業シタル者

二 齒科醫師試驗ニ合格シタル者

三 外國齒科醫學學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

第二條 左ニ掲グル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 未成年者、禁治産者、准禁治産者、聾者、啞者及盲者

第三條 六年未満ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 内務省ニ齒科醫籍ヲ備ヘ齒科醫師免許ニ關スル事項ヲ登録スル登錄スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ノ二 齒科醫師ニ非サル者ノ齒科診療所治療所若ハ技工所ノ開設又ハ管理ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 齒科醫師ハ自ら診察セシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ又ハ治療

ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 齒科醫師又ハ齒科診療所若ハ治療所ノ首長ハ診療簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條 齒科醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 齒科醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣齒科醫師會ヲ設立スヘシ

道府縣齒科醫師會ハ日本齒科醫師會ヲ設立スルコトヲ得

齒科醫師ハ土地ノ狀況ニ依リ郡市齒科醫師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會及郡市齒科醫師會ハ法人トシ勅令ノ定ムル所ニ依リ齒科醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條 道府縣齒科醫師會ハ道府縣ヲ區域トス

公私立ノ診療所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察及治療ニ従事スル齒科醫師ハ其ノ診療所治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル道府縣齒科醫師會ノ會員トス

第九條ノ二 日本齒科醫師會ハ内地ヲ區域トス

日本齒科醫師會ハ道縣齒科醫師會ヲ以テ會員トス

第九條ノ三 郡市齒科醫師會ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外郡市ヲ區域トス

第九條第二項ノ規定ハ郡市齒科醫師會ニ之ヲ準用ス

第九條ノ四 道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會若ハ郡市齒科醫師會ハ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條ノ五 道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會及郡市齒科醫師會ノ設立ノ手續機關ノ組織經費ノ負擔監督會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 齒科醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

齒科醫師六年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行為アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ齒科醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ

本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十一條 左ニ掲グル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一 免許ヲ受ケシテ齒科醫業ヲ爲シタル者

二 停止中齒科醫業ヲ爲シタル者

三 第四條ノ二第六條第六條若ハ第七條ニ違背シタル者
醫師ニシテ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケシテ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正並口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行為ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

附 則

(大正五年法律第四四號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル齒科醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附 則

(大正五年法律第四五號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前一年以上齒科專門ヲ標榜シ引續キ齒科醫業ヲ爲ス醫師ニ對シテハ第十二條第二項ノ規定ヲ適用セス

附 則

(大正五年法律第四五號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前一年以上齒科專門ヲ標榜シ引續キ齒科醫業ヲ爲ス醫師ニ對シテハ第十二條第二項ノ規定ヲ適用セス

第十一條ノ二 醫師ニシテ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正、口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行為ヲ爲ス者ハ第四條ノ二第八條第一項第三項第九條第二項及第九條ノ三第二項ノ適用ニ付テハ之ヲ齒科醫師ト看做ス

第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法施行前ノ齒科醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

●齒科醫師法施行規則

〔改正〕 (明治三十九年九月三日) (內務省令第二十八號) (明治四十二年) (省令第一八號) (大正八年) (省令第一六號)

- 第一條 齒科醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ齒科醫師法第一條規定ノ資格並住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ提出スヘシ
- 第二條 齒科醫師ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ
 - 一 登錄番號及登錄年月日
 - 二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨
 - 三 齒科醫師法第一條規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月
 - 四 免許ノ取消、齒科醫業ノ停止、其ノ理由、期間及年月日
 - 五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日
 - 六 抹消ノ事由及年月日
- 第三條 齒科醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證及戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ齒科醫師ノ訂正ヲ申請スヘシ
- 第四條 前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ齒科醫師ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得
- 第五條 前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス
- 第六條 齒科醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ
亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地方長官ニ提出スヘシ

- 第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ
- 第六條 齒科醫師商標登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ
- 第七條 齒科醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ住所ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ住所ノ地方長官ニ届出ヘシ
- 第八條 齒科醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ齒科醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ停止シ廢止シ又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ
- 第九條 所在地ノ地方長官前項但書ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ前ノ所在地ノ地方長官ニ通知スヘシ
- 第十條 官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ従事スル場合ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス
- 第十一條 診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ診察又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

●齒科醫師會規則

(大正九年四月一日) (內務省令第廿七號)

- 第一條 本令ニ於テ齒科醫師會ト稱スルハ道府縣齒科醫師會又ハ郡市區齒科醫師會ヲ謂フ
- 第二條 本令ニ依リ設立シタル齒科醫師會ニ非サレハ道、府、縣、郡、市又ハ區ノ文字ヲ冠スル齒科醫師會ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス
- 第三條 道府縣齒科醫師會ハ道府縣ヲ區域トシ郡市區齒科醫師會ハ郡市又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區ヲ區域トス
- 第四條 土地ノ狀況ニ依リ郡市區齒科醫師會ノ區域ハ郡市區ノ區域ニ依ラサルコトヲ得
- 第五條 齒科醫師會ヲ設立セムトスルトキハ會員ト爲ルヘキ者十人以上ノ設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ
- 第六條 設立總會ノ召集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ
- 第七條 設立總會ニ於テハ齒科醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者三分ノ二以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ設立總會ニ出席スルコト能ハサル者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ妨ゲス此ノ場合ニ於テハ之ヲ設立總會ニ出席シタル者ト看做ス

- 第八條ノ二 齒科醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第九條 齒科醫師ハ診察治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十條 齒科醫師ハ其ノ診察シタル患者ニ交付スル處方箋ニ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ
- 第十一條 齒科醫師ハ診察簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年齢、病名及療法ヲ記載スヘシ但シ其ノ不明ナルモノハ患者廢療ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ
- 第十二條 齒科醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ
- 第十三條 地方長官ハ齒科醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ
- 第十四條 前項ノ場合ニ於テ道府縣齒科醫師會アルトキハ豫メ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス
- 第十五條 齒科醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ
- 第十六條 齒科醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所ノ地方長官ニ提出スヘシ
- 第十七條 前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上留置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ
- 第十八條 左ニ掲クル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス
- 第十九條 齒科醫師ニ登錄シ又ハ抹消シタルトキ

第五條 商科醫師會ノ設立總會ニ於テ商科醫師會設立ノ議決ヲ爲シタルトキハ設立委員ハ會則案ヲ添ヘ速ニ其ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第六條 商科醫師會ノ認可アリタル時成立スルモノトス

第七條 公私立ノ診療所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察又ハ治療ニ従事スル商科醫師ハ其ノ診療所、治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル商科醫師會ノ會員トス

第八條 商科醫師會ノ會則ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱及區域
二 事務所ノ所在地
三 役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
四 代議員ヲ設クル商科醫師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
五 總會其ノ他會議ニ關スル規定
六 經費ノ分賦徵收ニ關スル規定
七 財産及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定
八 庶務及會計ニ關スル規定
九 支部ヲ設クル商科醫師會ニ在リテハ支部ニ關スル規定
十 解散ニ關スル規定
第九條 商科醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 法令又ハ會則ニ規定スル事項

二 商科醫事衛生ニ關シ官廳ヨリ諮問セラレタル事項

三 商科醫事衛生ニ關シ官廳ニ建議スル事項

四 商科醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項

五 救療ニ關スル事項

第十七條 行政官廳ハ商科醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ商科醫師會ニ命スルコトヲ得

第十八條 商科醫師會ノ經費及商科醫師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス

第十九條 商科醫師會ハ會員中商科醫師法第二條第三號若ハ醫師法第二條第二號ニ該當シ又ハ業務ニ關シ不正ノ行爲アリ免許取消又ハ商科醫業停止若ハ醫業停止ノ處分ヲ必要ト認ムル者アルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得商科醫師法第十條第三項若ハ醫師法第十條第三項ニ該當スル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十條 商科醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ヲ經テ左ノ各號ノ一ニ掲クル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一 譴責

二 三百圓以下ノ過怠金

三 三年内役員ノ選舉權及被選舉權並代議員ノ被選舉權ノ停止

代議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選舉權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第二十一條 商科醫師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ關東ス

第二十二條 地方長官ハ商科醫師會ノ議決若ハ選舉又ハ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命ス

第十條 商科醫師會ノ總會ハ其ノ商科醫師會ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス會員百人以上ナルトキハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得

第十一條 商科醫師會ハ其ノ總會ノ議決ニ依リ之ヲ解散スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ十日内ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第十二條 商科醫師會ノ總會ニ於テ左ニ掲クル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員又ハ代議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ノ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 會則變更ノ議決

二 第十九條又ハ第二十條ノ議決

三 解散ノ議決

第十四條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ヘ之ヲ準用ス

第十三條 商科醫師會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長 一人

副會長 一人

前項ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十四條 商科醫師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ但シ第一回總會ニ於テ役員ノ選任アル迄會則ヲ以テ假役員ヲ定メ會務ヲ處理セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ役員ヲ選舉シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十五條 會長ハ會務ヲ總理シ商科醫師會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十六條 商科醫師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ

ルコトヲ得

地方長官ハ商科醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間商科醫師會ノ役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十三條 商科醫師法第十條若ハ醫師法第十條ノ規定ニ依リ商科醫業若ハ醫業ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中商科醫師會ノ總會ニ出席シ又ハ總會ニ於ケル表決權ヲ行ヒ若ハ商科醫師會ノ役員タルコトヲ得ス

第二十四條 商科醫師會ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及會務ノ狀況ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條 北海道、沖縄縣及島地ニ關シ本令中ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ地方長官別段ノ定メ爲スコトヲ得

附 則

第二十六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條 明治三十九年内務省令第三十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十八條 本令施行ノ際現ニ存スル商科醫師會ハ本令ノ規定ニ依リ設立シタルモノト看做ス

前項商科醫師會ノ會則其ノ他ノ事項ニシテ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ本令ノ規定ニ依リ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

●商科醫師試驗規則

第一條 商科醫師試驗ハ毎年二回之ヲ行フ

(大正二年九月十九日)
(文部省令第二十八號)
(改正)
(大正八年)
(省令第三一號)
(同十二年)
(省令第二八號)
(同十四年)
(省令第三三號)

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

試驗ヲ施行スヘキ地方及試験期日ハ文部大臣之ヲ告示ス

第二條 試験ヲ分テ學說試驗及實地試験トス

學說試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
解剖學(組織學ヲ含ム)
生理學
藥物學
病理學(細菌學ヲ含ム)
口腔外科學

以上各科目ノ試験ハ商科醫師ニ必要ト認ムル範圍及程度ニ止ム
商科治術學(商科矯正學ヲ含ム)
商科技工學

學說試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ實地試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 學說試驗及實地試験ハ分テ之ヲ受クルコトヲ得

第四條 商科醫師試験ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ修業年限三箇年以上ノ商科醫學校ヲ卒業シタルモノニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
一 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ復権ニ依リ醫師ノ免許ヲ受クルノ資格ヲ回復シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 瘠者、啞者及盲者

第六條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ

第七條 試験ヲ受ケントスル者ハ受験願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ毎年一月、六月中ニ試験ヲ受ケヘキ地方長官ニ提出スヘシ但シ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ居住地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

年九月三十日マテニ文部大臣ニ登録ヲ申請シタル者ニ限ル
醫術開業試験規則ニ依リ受験シ商科學說試験ニ合格シタル者又ハ前項ニ該當スル者ニシテ大正十四年十二月三十一日マテニ本令ニ依ル學說試験ニ合格シタル者ハ大正十七年十二月三十一日マテ本令ニ依リ實地試験ヲ受クルコトヲ得

第一號書式 (用紙美濃紙)

收入	本籍
印紙	居所
	族稱
齒科醫師試験願	氏名
試験ノ種類	學說試驗、實地試験
又ハ實地試験	又ハ學說試験
受験地	又ハ實地試験
	年月日生
	氏名
	年月日生
	氏名
	文部大臣宛
	名印

私儀右商科醫師試験相受度履歴書、身分其ノ他ノ證明書及寫眞相添ヘ此段相願候也

一 履歴書(第二號書式)
二 身分ニ關スル本籍地市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書(第三號書式)
三 第四條ノ要件ニ關スル當該學校長ノ證明書
四 寫眞(手形、足形、胸像、寸五分トシ出願時六月以内ニ撮影シタルモノ、地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ二十日以内ニ之ヲ文部大臣ニ進達スヘシ)

第八條 試験出願者ニシテ第五條又ハ第六條ニ該當スルモノアルトキハ地方長官ハ之ヲ文部大臣ニ具申スヘシ

第九條 試験ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金十五圓(學說試験ト實地試験トヲ分テ出願スル者ハ各金十圓)ヲ納付スヘシ

第十條 試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ付與ス

第十一條 合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ合格證明書ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

第十二條 前項合格證明書ノ下付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金一圓ヲ納付スヘシ

第十三條 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

既納ノ手数料ハ之ヲ還付セズ
第十四條 試験ニ關シ不正ノ行為アリタル者ハ受験ヲ停止シ又ハ其ノ試験ヲ無効トシ尙期間ヲ定メテ試験ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ

附 則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

商科醫師試験ニ關シテハ本令施行ノ日ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

大正三年ヨリ大正九年六月三十日マテノ間ニ於テ醫術開業試験規則ニ依リ

商科醫術開業學說試験ヲ受ケタル者ハ本令第四條ニ該當セサル者ト雖大正十四年十二月三十一日マテ本令ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ得但シ大正十二

第二號書式 (用紙美濃紙)

履歴書	氏名
何年何月何日何中學校(高等女學校)ニ入學何年何月卒業	
何年何月何商科醫學校ニ入學何年何月卒業	
何年何月商科醫師試験ヲ受ケ學說試験ニ合格	
右之通相違無之候也	
年月日	右
	氏名
	名印

第三號書式 (用紙美濃紙)

身分證明書	氏名
府縣都市區町村番地華士族平民	
戶主(何某何男女兄弟等)	
年月日生	
商科醫師試験規則第五條又ハ第六條ニ該當スルコトノ有無	
(第六條ニ就テハ罪名及處罰ノ程度ヲ記載スヘシ)	
元何某年月日改氏名	
右證明候也	
年月日	府縣都市區町村長
	氏名
	名印

齒科醫師試驗及藥劑師試驗ノ件

(大正十年十一月三十日)

〔改正〕(大正一二年)

第一條 大正十四年十二月三十一日マテノ間ニ施行スル齒科醫師試驗、藥劑師試驗ノ學說試驗及大正十七年十二月三十一日マテノ間ニ施行スル齒科醫師試驗、藥劑師試驗ノ實地試驗ニ關シテハ特ニ本令ニ規定スルモノヲ除ク外齒科醫師試驗規則及藥劑師試驗規則ノ規定ニ依ル

第二條 試驗ハ毎年二回之ヲ行フ但シ本文ノ外臨時ニ之ヲ行フコトアルヘシ

受驗願書提出期限、試驗ヲ施行スヘキ地方及試驗期日ハ文部大臣之ヲ告示ス

第三條 齒科醫師試驗ノ學說試驗及藥劑師試驗ノ學說試驗及實地試驗ノ科目中左記各號ノ全科目ニ合格シタル者ハ其ノ合格科目ニ付キ合格證明書ヲ交付ス

- 齒科醫師試驗學說試驗
一 解剖學(組織學ヲ含ム) 生理學 病理學(細菌學ヲ含ム)
一 藥物學 口腔外科學
一 商科治療學(商科矯正學ヲ含ム) 商科技工學
一 藥劑師試驗學說試驗
一 物理學 化學
一 藥用植物學 生藥學 製藥化學
一 衛生化學 藥局方(藥劑師ニ關スル法規ヲ含ム)
一 藥劑師試驗實地試驗
一 分析學(定性) 藥品鑑定(顯微鏡的検査ヲ含ム)

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

醫師ノ齒科專門標榜其他許可ニ關スル件

(大正五年九月九日)

Table with 5 columns: 道府縣, 學校名, 文部省告示年月日, 番號, 備考. Rows include 東京府, 大阪府, 福岡縣.

第一條 醫師ニシテ齒科專門標榜ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ修業履歷ヲ具シ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ齒科學ノ課程ヲ設ケタル學校等ノ首長ノ作製シタル專ラ齒科ヲ修業シ且相當ノ技能ヲ有スル旨ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 醫師ニシテ齒科醫業中金屬充填、鑲嵌、義齒、商冠鑲嵌及架工、齒列矯正並口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケムトスル者亦前條ニ同シ

附則

第三輯 第二編 衛生 第七章 醫師、藥劑師

製藥化學 調劑學
一 分析學(定量) 衛生化學
前項ノ合格證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗ヲ受ケルモノニハ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ省ク
第四條 合格證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗ヲ出願スルモノハ其ノ證明書ノ寫ヲ願書ニ添付スヘシ
第五條 齒科醫師試驗規則附則第三項及藥劑師試驗規則第三項ニ依リ學說試驗ヲ受ケントスルモノハ其ノ願書中試驗ノ種類ノ下ニ學說試驗受驗資格登錄番號ヲ記載スヘシ

附則
本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

齒科醫師法第一條第三號ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件

(明治三十九年九月十二日)

齒科醫師法第一條第三號ニ依リ免許ヲ與フルハ外國齒科醫學校ノ卒業證書又ハ外國ノ齒科醫師免許證書ヲ有スル者ニシテ内務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者ニ限ル

齒科醫師法第一條第一號ニ依リ指定ノ私立齒科醫學專門學校

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

病院醫院其ノ他診察所治療所ノ廣告ニ關スル件

(明治四十二年七月十七日)

第一條 病院醫院其ノ他公衆ノ需ニ應ジ診察治療ヲ爲ス場所ノ設立者ハ業務上何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス其ノ診察所、治療所ノ療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

前項診察所又ハ治療所ニ於テ診察治療ニ從事セシムル醫師又ハ齒科醫師ノ技能、療法又ハ經歷ニ關シテ亦前項ニ同シ但シ其ノ學位、稱號及專門科名ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 第一條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三條 設立者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス

設立者ハ其ノ代理人又ハ使用人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス
法人ノ代表者又ハ其ノ使用人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

藥劑師法

(大正十四年四月十三日)

第一條 藥劑師トハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ニ依リ調劑ヲ爲ス者ヲ謂フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師タラムトスル者ハ内務大臣ノ免許ヲ受ケ藥劑師名簿ニ登

録ヲ受クヘシ

前項ノ免許ヲ受クルニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スルコトヲ要ス

- 一 大學令ニ依ル大學ニ於テ藥學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、官立公立ノ藥學專門學校、醫科大學附屬藥學專門部若ハ醫學專門學校藥學科ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メ指定シタル學校ヲ卒業シタル者
- 二 藥劑師試験ニ合格シタル者
- 三 外國ノ藥學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ藥劑師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スルモノ

第二項ノ登錄及前項第二號ノ藥劑師試験ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 內務大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ藥劑師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 未成年者、禁治産者又ハ準禁治産者
- 三 精神病者、瘡啞者又ハ盲者

第四條 內務大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ藥劑師ノ免許ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 六年未満ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 藥事ニ關シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ不正ノ行爲アリタル者

ニ檢印シ共ノ日附ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ但シ處方箋ニ指定スル使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了ラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ處方箋ニ調劑ノ年月日及調劑量ヲ記入シ記名捺印スヘシ

第十二條 藥局開設者ハ藥局ニ調劑録ヲ備フヘシ

藥劑師調劑ヲ爲シタルトキハ直ニ調劑録ニ調劑ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

調劑録ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第十三條 藥劑師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣藥劑師會ヲ設立スヘシ

道府縣藥劑師會ハ日本藥劑師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ藥事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

道府縣藥劑師會ハ道府縣ヲ、日本藥劑師會ハ内地ノ區域トス

第十四條 道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十五條 本法ニ規定スルモノノ外道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 藥劑師第三條各號ノ一ニ該當スルトキハ內務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

第五條 藥劑師ニ非サレハ販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲スコトヲ得ス

藥劑師販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲ス場合ニ於テハ藥局ニ於テ之ヲ行フヘシ

第六條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

藥局ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ管理スルコトヲ得ス藥劑師ト雖ニ以上ノ藥局ヲ管理スルコトヲ得ス

第八條 藥劑師ハ調劑ノ需アル場合ニ於テハ晝夜ノ間ハ正當ノ事由ナラシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ氏名ヲ自記シ又ハ調劑シタル處方箋ニ依リ調劑スヘキモノトス但シ處方箋中疑ハシキ處アルトキハ其ノ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ニ實シ證明ヲ得ルニ非サレハ調劑ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ニ記載セラレタル藥品ニ付テハ省略シ又ハ他ノ藥品ヲ以テ之ニ代ヘ調劑ヲ爲スコトヲ得ス但シ藥品ニシテ缺乏セルモノアル場合ニ於テ其ノ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 藥劑師毒藥又ハ劇藥ヲ配伍シタル調劑ヲ爲シタルトキハ處方箋

藥劑師第四條各號ノ一ニ該當スルトキハ內務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第三條第二號又ハ第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

內務大臣第二項ノ處分ヲ行フ場合及改悛ノ情顯著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ爲ス場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十七條 第五條第一項、第六條第一項、第七條若ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ業務停止中ノ藥劑師ニシテ其ノ業務ヲ爲シタルモノハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 第五條第二項、第八條若ハ第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ誤リテ調劑ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

藥品營業並藥品取扱規則中第一條乃至第十五條、第十六條乃至第十九條、第四十一條ノ五、第四十三條第一項、第四十四條、第四十六條、第四十六條ノ二第一項及第三項並之ニ付テ罰則ノ規定ハ之ヲ廢止ス

醫師、齒科醫師又ハ獸醫ハ其ノ診療ニ用フヘキ藥品ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ第五條第二項ノ規定ニ拘ラス調劑ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ際現ニ藥劑師タル者ハ本法ニ依リ藥劑師ノ免許ヲ受ケ藥劑師名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ帝國大學醫科大學藥學科卒業シタル者ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ藥學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、高等中學校醫學部藥學科又ハ高等學校醫學部藥學科卒業シタル者ハ官立藥學專門學校ヲ卒業シタル者ト看做ス

●藥劑師試驗規則

第一條 藥劑師試驗ハ毎年二回之ヲ行フ 試驗ヲ施行スヘキ地方及試驗期日ハ文部大臣之ヲ告示ス

第二條 試驗ヲ分テ學說試驗及實地試驗トス 學說試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ 物理學 化學 藥用植物學 生藥學 製藥化學 衛生化學

藥局方、藥劑師ニ關スル法規ヲ含ム 實地試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ 分析學(定性、定量) 藥品鑑定(顯微鏡的検査ヲ含ム)

無效トシ尙期間ヲ定メテ試驗ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ

附 則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス 明治二十二年內務省令第三號藥劑師試驗規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス 大正三年ヨリ大正九年六月三十日マテノ間ニ於テ明治二十二年內務省令第三號藥劑師試驗規則ニ依リ學說試驗ヲ受ケタル者ハ本令第四條ニ該當セサル者ト雖大正十四年十二月三十一日マテ本令ニ依リ試驗ヲ受クルコトヲ得但シ大正十二年九月三十日マテニ文部大臣ニ登錄ヲ申請シタル者ニ限ル 明治二十二年內務省令第三號藥劑師試驗規則ニ依リ受験シ學說試驗ニ合格シタル者又ハ前項ニ該當スル者ニシテ大正十四年十二月三十一日マテニ本令ニ依ル學說試驗ニ合格シタル者ハ大正十七年十二月三十一日マテ本令ニ依リ實地試驗ヲ受クルコトヲ得 第一號書式(用紙美濃紙)

藥劑師試驗願 收入 印紙 本籍 居所 族稱 學說試驗、實地試驗 試驗ノ種類 又ハ實地試驗 氏名 年月日 文部大臣宛

製藥化學

學說試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス 衛生化學

第三條 學說試驗及實地試驗ハ分テ之ヲ受クルコトヲ得

第四條 藥劑師試驗ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ修業年限三箇年以上ノ藥學校ヲ卒業シタルモノニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 試驗ヲ受ケントスル者ハ受験願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ 毎年一月、六月中ニ試驗ヲ受クヘキ地ノ地方長官ニ提出スヘシ但シ實地試驗ノミヲ受ケントスル者ハ居住地ノ地方長官ニ提出スヘシ

一 履歴書(第二號書式) 二 戶籍謄本 三 第四條ノ要件ニ關スル當該學校長ノ證明書

四 寫眞(手札形(縦約四寸五分)寸五分トシ出願前六箇月以内ニ撮影シタルモノニシテ其ノ裏面ニ出願シタル試驗ノ種類、撮影年月日、姓名ヲ記載スヘシ) 地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ二十日以内ニ之ヲ文部大臣ニ進達スヘシ

第六條 試驗ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金十圓(學說試驗ト實地試驗トヲ分テ出願スル者ハ各金七圓)ヲ納付スヘシ

第七條 試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ付與ス

第八條 合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ合格證明書ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

前項合格證明書ノ下付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金一圓ヲ納付スヘシ 第九條 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ 既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス

第十條 試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ハ受験ヲ停止シ又ハ其ノ試驗ヲ

第二號書式(用紙美濃紙)

履 歷 書 一 何年何月何中學校(高等女學校)ニ入學何年何月卒業 一 何年何月何藥學校ニ入學何年何月卒業 一 何年何日藥劑師試驗ヲ受ケ學說試驗ニ合格 右之通相違無之候也 年月日 右 氏 名印

●藥品營業 並藥品取扱規則 第四十六條第一項ニ依リ 指定ノ私立藥學專門學校

Table with 4 columns: 道府縣, 學 校 名, 文部省告示 年月日 番號, 備 考. Rows include 東京府, 京都府, 大阪府, 熊本縣.

衛生
第八章

產婆、看護婦

第八章 産婆、看護婦

- 産婆規則 明治三年 勅令三四五號……………一頁
- 産婆試験規則 明治三年 内令四七號……………二
- 産婆試験ニ要スル經費支辨方ノ件 大正九年泰會三三號通牒……………三
- 産婆規則第一條ニ依ル指定 ……………三
- 産婆名簿登録規則 明治三年 内令四八號……………四
- 私立産婆學校産婆講習所指定規則 明治四年 内令九號……………五
- 産婆規則並ニ私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依ル指定 ……………六
- 看護婦規則 大正四年 内令九號……………六
- 看護婦規則第三條第一項第二號ノ講習所指定ノ件 大正四年 内告五九號……………八

第三輯 第二編 衛生 第八章 産婆、看護婦

◎産婆規則

第八章 産婆、看護婦

(明治三十二年七月十九日)
勅令第三百四十五號

(改正) (明治四十二年)
勅令第二一八號

(大正六年)
勅令第七二號

- 第一條 産婆タラントスル者ハ二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ産婆名簿ニ登録ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 産婆試験ニ合格シタル者
 - 二 内務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者
 - 三 外國ノ學校若ハ講習所ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ産婆免許ヲ得タル者ニシテ内務大臣ノ適當ト認メタル者
- 第二條 産婆試験ハ地方長官之ヲ舉行ス
- 第三條 一箇年以上産婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ産婆試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 産婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス
 - 産婆名簿ニ登録ヲ受ケントスル者ハ産婆試験合格證書、卒業證書又ハ免許證ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ
 - 産婆名簿ノ登録事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ産婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ
 - 産婆名簿ノ登録事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第三輯 第二編 衛生 第八章 産婆、看護婦

- 第五條 産婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ産婆名簿ノ登録ヲ願出ツヘシ
 - 前項ノ登録換ヲ爲サル者ハ産婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 産婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ
 - 産婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ
- 第七條 産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ヒシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ産科器械ヲ用キ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 産婆ハ産婆名簿ニ登録ヲ受ケサル者ニ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス
- 第九條ノ二 産婆ハ自ラ檢案セスシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

- 第十條 產婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處テラルヘキ罪ヲ犯シタルキハ地方長官ハ產婆ノ業務ヲ禁止シ又ハ二年以内之ヲ停止スルコトヲ得產婆名簿登錄前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ
- 第十一條 試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無効トスルコトヲ得若シ已ニ登錄ヲ受ケタルキハ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得
- 第十二條 地方長官ハ產婆ノ業務ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得
- 第十三條 產婆試驗ヲ受ケントスル者又ハ產婆名簿ニ登錄ヲ願出タル者ニシテ試驗又ハ登錄ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處テラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試驗又ハ登錄ヲ許可セザルコトヲ得
- 第十四條 產婆ニシテ三箇年其ノ業務ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癡疾ト爲リ其ノ業務ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ產婆名簿ノ登錄ヲ取消スコトヲ得
- 第十五條 產婆名簿ノ登錄、登錄ノ取消、主要ナル登錄事項ノ訂正並ニ產婆ノ業務ヲ禁止又ハ停止及ニ其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ
- 第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケシテ產婆ノ業務ヲ爲シタル者
 - 二 產婆名簿ノ登錄ヲ取消サレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル者
 - 三 產婆ノ業務ヲ禁止又ハ停止セラレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル者

●產婆試驗規則

- 第一條 產婆試驗願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ告示ス
- 第二條 試驗科目ハ左ノ如シ
 - 第一 正規妊娠分娩及其ノ取扱法
 - 第二 正規產前ノ經過及分娩後ノ看護法
 - 第三 異常ノ妊娠分娩及其ノ取扱法
 - 第四 妊婦產婦衛生及疾病消毒ノ方法及產婆心科

●產婆規則第一條ニ依ル指定

●產婆試驗ニ要スル經費支辨方ノ件

（大正九年十月十一日）
 標記ノ件ハ從來ノ慣行モ有之ニ付試驗委員長委員及書記手當並ニ用紙費ニ限リ尙當分ノ内國費支辨トシ其ノ他ノモノハ地方費ヲ以テ支辨可相成儀ト仰承知相成度

●產婆規則第一條ニ依ル指定

道府縣	名	年	備	考
東京府	東京帝國大學醫學部醫學產婆養成所	大元、八、七		
京都府	京都帝國大學醫學部醫學產婆養成所	大元、八、七		
大阪府	大阪府立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
愛知縣	愛知縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
兵庫縣	兵庫縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
千葉縣	千葉縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
新潟縣	新潟縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
宮城縣	宮城縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
岡山縣	岡山縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
愛媛縣	愛媛縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
福岡縣	福岡縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
長崎縣	長崎縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
熊本縣	熊本縣立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
北海道	北海道立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		
臺灣	臺灣總督府立醫學專門學校附屬產婆養成所	大元、九、三		

◎產婆名簿登錄規則

(明治三十二年九月六日
內務省令第百四十八號)
〔改正〕(明治四十三年
省令第百一十六號)

- 第一條 產婆名簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ
 - 一 登錄番號、登錄年月日
 - 二 族籍(外國人ナラズ)、氏名、年齢、住所
 - 三 產婆規則第一條規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月日並同條第一號ノ資格ニ付テハ試験ヲ受ケタル地方廳名
 - 四 開業地(住所以外ノ地ニ於テ開業スルモノ又ハ出所所ヲ設ケルモノハ之ヲ記載ス)
 - 五 業務ニ關スル犯罪、禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪(其ノ年月)
 - 六 產婆業ノ禁止、停止、解除(其ノ年月)
 - 七 名簿取消ノ年月日、事由
- 第二條 產婆名簿ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ
- 第三條 產婆ノ業ヲ營マントスル者ハ本令第一條第二號第三號第四號ノ事項ヲ明記シテ其ノ住所地ヲ管轄スル地方廳ニ届出テ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケヘシ
- 第四條 產婆規則第五條第一項ノ場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ハ產婆名簿ノ取消ノ登錄ヲ爲シ其ノ登錄事項ノ謄本ヲ以テ後ノ管轄地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
- 後ノ管轄地方廳ハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟タズ本人ノ届出ニ依リ直ニ產婆名簿ニ登錄ヲ爲スヘシ但必要ト認ムル場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟テ又ハ之ニ照會ヲ經タル後登錄ヲ爲スヘシ
- 第五條 產婆名簿ノ訂正又ハ取消ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ部分ニ朱線ヲ畫シ訂正又ハ取消ノ事由年月日ヲ朱記スヘシ
- 第六條 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者謄本手数料金五拾錢ヲ納付ストキハ登錄ノ謄本ヲ受ケルコトヲ得
- 謄本手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

(別記)
產婆名簿様式(用紙兼濶紙)

種別	登錄番號	登錄年月日	族籍	住所	開業地	資格、資格取得年月日、受驗地方廳名	犯罪及行政處分	名簿取消年月日
何	第	明治何年何月何日	何道府廳平民族	何				
別號								
記事								

◎私立產婆學校產婆講習所指定規則

(明治四十五年六月十八日
內務省令第百九號)

- 第一條 私立產婆學校、產婆講習所ニシテ產婆規則第一條第二號ノ指定ヲ受ケントストキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ申請スヘシ
 - 一 名稱、位置、設立年月日
 - 二 學則
 - 三 教室ノ數、其ノ坪數並生徒ノ定員
 - 四 實習用ニ供スル妊婦ヲ入院セシムヘキ室數、其ノ坪數並其ノ入院定員
 - 五 生徒寄宿舎ノ設備アルトキハ其ノ室數、坪數並寄宿生徒ノ定員
 - 六 教授用實習用ノ器械、器械、標本及模型ノ目錄
 - 七 設立者ノ履歷、教師ノ氏名其ノ履歷、擔當科目
 - 八 最近二年間ニ於ケル實習用妊婦ノ入院、往診、外來ノ別、一日平均人員
 - 九 實習用ニ供スル妊婦ノ入院料ノ徴否若本人ヨリ徴收ストキハ其ノ金額
 - 十 現在生徒ノ學期別人員
 - 十一 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況
 - 十二 經費及最近二年間ノ決算
 - 十三 維持ノ方法
 - 十四 敷地建物ノ圖面
- 第二條 指定ヲ爲スヘキ學校又ハ講習所ハ左ノ各號ニ該當シ內務大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績佳良ト認ムルモノニ限ル
 - 一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル教授用建物、器具、器械及妊婦ヲ入院セシムヘキ産室ノ設備アルコト
 - 二 入學資格ハ高等小學校卒業若ハ高等女學校二年以上ノ課程ヲ修業シ

- 又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルコト
- 三 修業年限ハ學設實習ヲ通シテ二箇年以上ナルコト
- 四 主要ナル學科ハ一箇年以上主トシテ產科診療ニ從事シタル醫師ヲシテ擔當セシムルコト
- 五 生徒一人ニ付在學中五回以上臨產實驗ヲナサシムル成算アルコト内三回以上ハ入院妊婦タルコト
- 六 以上ノ事項ニ適合シ一箇年以上經過シタルモノナルコト
- 第三條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テハ第一條第一號乃至第五號第七號第九號第十三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ヘシ
- 第四條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テ別科生等ヲ入學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トスヘシ
- 指定ノ效力ハ前項ノ生徒ニ及ハス
- 第五條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テハ學則所定ノ授業時數中授業ヲ受ケタルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若ハ卒業セシムルコトヲ得ス
- 第六條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テ學期試驗若ハ卒業試驗ヲ施行セントストキハ十日日前ニ地方長官ニ届出ヘシ
- 第七條 地方長官ハ吏員ヲ派遣シテ試驗ニ立會ハシムルコトアルヘシ
- 第八條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ハ卒業試驗合格者ノ族籍、氏名、生年月日ヲ試驗後遲滞ナク地方長官ニ届出ヘシ
- 第九條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ハ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ左ノ事項ヲ地方長官ニ届出ヘシ
 - 一 前年度經費收支決算ノ細目
 - 二 當該年度經費收支決算ノ細目
 - 三 現在生徒ノ學期別人員
 - 四 前年中實習用ニ供シタル妊婦ノ總數

第三輯 第二編 衛生 第八章 產婆、看護婦

同上ノ内生徒ノ臨産實踐ニ供シタル妊婦ノ數(入院、往診ノ別)

五 前年中卒業員數並卒業後ノ情況

第十條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニシテ本令ニ違背シ若ハ第二條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不良ナリト認メタルトキハ内務大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

●產婆規則並ニ私立產婆學校產婆講習所指定規則ニ依ル指定

道府縣	名 稱	文部省告示年月日番號	備 考
東京府	東京市神田區駿河臺袋町私立濱田 產婆學校	大三、一〇、一五	大正四年後期以後ノ本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
	東京市麹町區町一丁目私立日本產婆看護婦學校	大三、二、七	大正五年以後ノ產婆本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
	東京市神田區和泉町財團法人泉橋慈濟醫院附屬產婆看護婦養成所	大〇、四、一三	大正五年以後ノ產婆本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
	東京府豊多摩郡澁谷町日本赤十字社產院產婆養成所	大三、五、一六	大正五年以後ノ產婆本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
	東京府四谷區西信濃町慶應義塾大學醫學部附屬產婆養成所	大三、八、一八	大正五年以後ノ產婆本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
京都府	京都市上京區室町通上長者町下ル清和院 學校	大三、九、三	大正三年以後ノ本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
大阪府	大阪市東區今橋三丁目私立緒方助産婦教習所	大三、九、二	大正三年以後ノ本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
	大阪市南區天王寺兼ヶ崎	大三、九、二	大正三年以後ノ本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス

●看護婦規則

第一條 本令ニ於テ看護婦ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ傷病者又ハ褥瘡看護

道府縣	名 稱	文部省告示年月日番號	備 考
兵庫縣	日本赤十字社大阪支部產婆養成所	大三、六、一四	大正十四年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
	姫路市龍野町日本赤十字社兵庫支部姫路病院產婆養成所	大三、五、一六	大正十四年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
	姫路市本町六七小國産科婦人科病院附屬產婆講習所	大、四、九、一五	大正十一年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
	神戸市下山手通六丁目私立三浦産婦人科醫院附屬產婆學校	大、二、三、七〇	大正十五年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
神奈川縣	横浜市野毛町三丁目私立酒井助産婦學校	大、三、七、三	大正十五年以後ノ本科卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
新潟縣	新潟市西堀前通私立新潟產婆學校	大七、八、三	大正八年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
滋賀縣	大津市西町日本赤十字社滋賀支部產婆養成所	大、三、六、九	大正十三年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
和歌山縣	和歌山市小松原通四丁目日本赤十字社和歌山支部病院附屬產婆養成所	大、三、六、三	大正十三年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
岡山縣	岡山市大字山下產婆看護婦學校	大、二、〇、三	大正三年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
香川縣	高松市天神前日本赤十字社香川支部病院產婆養成所	大、三、九、四	大正十四年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス
熊本縣	熊本市本莊町 產婆學校	大、三、二、一	大正十三年以後ノ卒業員數ニ限リ效力ヲ有ス

第三輯 第二編 衛生 第八章 產婆、看護婦

ノ業務ヲ爲ス女子ヲ謂フ

第二條 看護婦タラムトスル者ハ十八年以上ニシテ左ノ資格ヲ有シ地方長官(東京府ニ於テハ警視廳)ノ免許ヲ受ケルコトヲ要ス

一 看護婦試驗ニ合格シタル者

二 地方長官ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

三 大正五年四月關東都督府令第十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者

四 大正十一年五月朝鮮總督府令第七十六號看護婦規則第一條第一項第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

五 大正十二年十一月樺太總令第五十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者

六 大正十三年二月臺灣總督府令第十八號看護婦規則第一條第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

地方長官免許ヲ與フルトキハ看護婦免狀ヲ下付ス

第三條 精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者ニハ免許ヲ與ヘサルモノトス

第四條 看護婦試驗ハ地方長官ノ施行ス

試驗科目ハ左ノ如シ

一 人體ノ構造及主要器官ノ機能

二 看護方法

三 衛生傳染病大意

四 消毒方法

五 鑷帶術及治療器械取扱法大意

六 救急處置

第五條 一年以上看護ノ學術ヲ修業シタル者ニアラサレハ看護婦試驗ヲ受

クルコトヲ得ス

第六條 看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療器械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ授與シ若ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 看護婦其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日内ニ免狀ノ寫ヲ添へ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第八條 看護婦免狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日内ニ住所地ノ地方長官ニ再下付ヲ届出ツヘシ但毀損ノ場合ニハ毀損シタル免狀ヲ添附スヘシ

族籍氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日内ニ免狀ヲ添へ地方長官ニ書換ヲ届出ツヘシ

第九條 看護婦廢業シタルトキハ二十日内ニ免狀ヲ住所地ノ地方長官ニ返納スヘシ

看護婦三年以上其ノ業務ヲ營マサルトキハ廢業シタルモノト看做ス

看護婦死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日内ニ免狀ヲ返納スヘシ

第一項第三項ノ場合ニ於テ免狀ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第十條 看護婦第三條ニ該當シ又ハ業務ニ關シ犯罪者ハ不正ノ行為アリタルトキハ住所地ノ地方長官ハ期日ヲ定メ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖モ疾病治癒シ又ハ改役ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトヲ得

第三輯 第二編 衛生 第八章 産婆、看護婦

第十一條 免許ヲ受ケスシテ看護ノ業務ヲ爲シ若ハ停止中其ノ業務ヲ爲シタル者又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
第十二條 第七條第一項第八條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前地方長官ニ於テ與ヘタル免狀、免許狀、免許證ハ本令ニ依リ下付シタル看護婦免狀ト看做ス
本令施行ノ際現ニ地方廳ノ看護婦名簿ニ登録ヲ受ケ居ル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做シ看護婦免狀ヲ下付ス
本令發布ノ際現ニ看護ノ業務ヲ爲ス者ニシテ本令施行後三月内ニ願出ツルトキハ地方長官ハ履歴ヲ審査シ試験ヲ要セス免許ヲ與フルコトヲ得
前項ノ免許ハ本令第二條ニ依ル免狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス
地方長官ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ニ對シ當分ノ内其ノ履歴ヲ審査シ看護ノ業務ヲ免許シ准看護婦免狀ヲ下付スルコトヲ得
准看護婦及男子タル看護人ニ對シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

●看護婦規則第二條第一項第二號ノ講習所指定ノ件

(大正四年十二月 告示第五十九號)

- 一 東京帝國大學醫科大學附屬醫院
- 二 傳染病研究所
- 三 醫術開業試験附屬病院
- 四 東京府東鴨病院
- 五 東京市駒込病院
- 六 東京市施療病院
- 七 東京市養育院

八 私立日本赤十字社病院(救護看護婦ノ部卒業生)
九 私立東京慈惠會醫院

衛生 第九章

鍼灸、按摩、口中治療、接骨

第九章 鍼灸、按摩、口中治療、接骨

- 按摩師營業取締規則 明治四年 內令一〇號……一頁
- 按摩師營業取締規則中改正ニ關スル件 大正九年發衛二四號通牒……二
- 鍼術、灸術營業取締規則 明治四年 內令一一號……三
- 鍼術灸術營業者取締疑義ノ件 大正一三年衛醫五八號通牒……三
- 入齒齒抜口中療治接骨等ニ關スル件 明治一八年 內達甲七號……四